

令和8年度

教 育 要 項

教養教育

奈良県立医科大学
医学部 医学科

学籍番号

氏名

目 次

| | |
|---|----|
| 建学の精神・理念・ポリシー | 3 |
| 奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領 | 6 |
| 奈良県立医科大学医学部医学科 カリキュラム図 | 20 |
| 奈良県立医科大学医学部医学科 カリキュラムツリー | 21 |
| 奈良県立医科大学医学部医学科 アウトカムに対する到達レベル (マイルストーン) | 22 |
| 奈良県立医科大学医学部医学科 卒業時アウトカム、カリキュラムマップ | 23 |
| 令和8年度 教養教育 時間割表 | 29 |
| 令和8年度 教養教育 学事計画表 | 30 |
| 授業科目紹介 (教養教育) | |
| 基礎物理学 | 32 |
| 電気と磁気の物理学 | 34 |
| 熱とエネルギーの物理学 | 36 |
| 基礎物理学演習 | 38 |
| 基礎物理学実験 | 40 |
| 分析化学 | 42 |
| 有機化学 | 44 |
| 生体分子化学 | 46 |
| 医用材料化学 | 48 |
| 基礎化学実験 | 50 |
| 生命科学概論 (基礎) | 52 |
| 生命科学概論 (発展) | 55 |
| 分子生物学 | 58 |
| 入門生物学 | 60 |
| 基礎生物学 | 62 |
| 基礎生物学実験 | 64 |
| 微積分学 | 66 |
| 線形代数学 | 70 |
| データサイエンス・AI 入門 | 74 |
| 医用画像データサイエンス | 76 |
| 微積分学及び線形代数学演習 | 78 |
| 生物統計学 | 80 |
| 医療情報学 | 83 |
| スポーツ実践 I | 86 |
| スポーツ実践 II | 88 |
| 健康科学 | 90 |
| English for Medical Purposes I | 92 |

| | |
|------------------------------------|-----|
| 医療に関わる倫理学Ⅰ | 98 |
| 医療に関わる倫理学Ⅱ | 100 |
| 哲学 | 102 |
| アジア文化論 | 104 |
| 西洋文化論 | 107 |
| 教育実践論 | 110 |
| 臨床心理学 | 114 |
| 社会福祉と医療法規 | 120 |
| 市民と法 | 123 |
| 医学研究入門 | 125 |
| 諸学への誘い | 127 |
| 医の探求入門 | 128 |
| 医学・医療入門講義 | 130 |
| 次世代医療人育成論 | 132 |
| 行動科学Ⅰ | 134 |
| 臨床手技実習入門Ⅰ | 137 |
| 奈良学 | 138 |
| 早期医療体験実習 | 139 |
| 地域基盤型医療教育コース | 140 |
| 研究医養成コース | 141 |
| 緊急医師確保枠学生地域医療特別実習Ⅰ | 142 |
| コンソーシアム実習 | 144 |
| 奈良県立医科大学医学部公欠規程 | 145 |
| 奈良県立医科大学医学部医学科における成績評価異議申立てに関する要領 | 149 |
| 出席確認端末について | 150 |
| 試験に関する諸注意 | 151 |
| 暴風警報発表時における授業の措置について | 152 |
| 地震発生等災害時における授業の措置について | 153 |
| 個人情報の取り扱いについて | 154 |
| 奈良県立医科大学における学生に対するハラスメント対応フロー図（抜粋） | 155 |
| 健康管理 | 156 |
| 奈良県立医科大学・附属病院配置図 | 158 |

奈良県立医科大学の「建学の精神」

最高の医学と最善の医療をもって地域の安心と社会の発展に貢献します。

奈良県立医科大学の理念

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

奈良県立医科大学教育分野の理念と方針

理念 豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

- 方針**
1. 良き医療人育成プログラムの実践
 2. 教員の教育能力開発と教育の質保証
 3. 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進
 4. 学習環境と教育環境の充実

医学科教育目標

奈良県立医科大学は、将来、研究・医療・保健活動を通じて地域社会に貢献し、より広く人類の福祉と医学の発展に寄与できる人材を育成するため、医学・医療に関する基本的な知識、技術、態度・習慣を体得し、独創性と豊かな人間性を涵養し、あわせて生涯学習の基礎をつくることを教育の目標とする。

ディプロマ・ポリシー

所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規程で定められた卒業に必要な単位と時間数を修得することが学位授与の要件である。卒業時には以下の能力が求められる。

1. 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけている。
2. 医学とそれに関連する領域の正しい知識を身につけている。
3. 医療を適切に実践できる知識、技能、態度を身につけている。
4. 良好な医療コミュニケーション能力を身につけている。
5. 医学、医療、保健を通じて地域社会へ貢献する意欲と能力を身につけている。
6. 国際的な視野と科学的探究心を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

1. 倫理観とプロフェッショナリズムの育成、コミュニケーション教育

教養教育では、自律心の向上と倫理学教育に重点を置く。プロフェッショナリズム、コミュニケーション教育に資するため、早期から、高齢者や乳幼児、障害者の施設を見学する機会を持ち、現場で人間的触れ合いを通じて知識だけでなく実践的な医療倫理的素養を培うカリキュラムを配置する。

2. 医学、医療とこれらに関連する領域の知識、技能、態度の習得

医学の基盤となる知識を早期から段階的に積み上げていく教育カリキュラムを配置する。

- ① 教養教育では語学や自然科学の基本を習得し、生命科学を学ぶための基盤を作り上げるカリキュラムを配置する。

- ② 基礎医学では、医学の根幹となる解剖学、生理学、生化学を学び、さらに、発展的な基礎医学知識を獲得できるように段階的なカリキュラムを配置する。
- ③ 臨床医学では、広範な知識と基本的臨床技能を習得できるようなカリキュラムを配置する。知識、技能、態度が共用試験（CBT、臨床実習前OSCE）による全国共通試験でも確認された後に、臨床実習生（医学）として臨床実習に参加させる。
- ④ 臨床実習では、診療参加の実態を確保し、医療面接と診療技法を中心に実践的な教育を行う。また、臨床実習の終了時点で臨床実習後OSCEを実施し、得られた臨床技能、態度の確認を行う。

3. 国際的な視野と科学的探究心の育成

すべての学生に、研究マインドを涵養するべく、リサーチ・クラークシップを実施する。関心の高い学生には、早期から生命科学系の研究に参加できるように、6年一貫の「研究医養成コース」を設けている。海外での実習の機会も設ける。

4. 医療を通じた地域社会への貢献

医療システムについての理解を深めることはもちろんであるが、大学内のみならず、奈良県を中心に地域社会、地域医療と関わりを持つ実体験を通じて、奈良の医療を良くしたいという意欲を高める体験型の教育を行っていく。このための6年一貫の「地域基盤型医療教育コース」を設ける。

アドミッション・ポリシー

<アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)>

理念を踏まえ、地域の医療と世界の医学・医療の発展を担い、人類の健康と福祉に貢献できる人材を育成するために、次のような資質を持った人を求めています。

<医学部医学科が求める学生像>

1 医師となる自覚が強く、人を思いやる心をもつ、人間性豊かな人

医師に求められる旺盛な科学的探求心、自然および人間・社会についての幅広い知識と向学心、自ら問題を解決しようとする主体性を持った人を求めます。加えて、豊かな人間性、高い倫理観ならびに社会性を有する人を求めます。

2 患者の立場に立って判断し、患者が安心して受診できる医師となれる人

医師には医学的知識とともに、良好な患者・医師関係を築くことができる十分なコミュニケーション能力、他職種と連携しチーム医療をリードできる能力が必要です。医師として自己研鑽ができ、自己の理念を持っているとともに、協調性に優れた人を求めます。

3 将来性豊かで、奈良県だけでなく日本、世界の医学界をリードできる人

地域医療に貢献するとともに、国際的にも活躍できる医師・研究者を育成します。入学後、世界の医学界でも活躍できる意欲と能力を高め、積極的に地域社会および国際社会に貢献できる人を求めます。

<入学者選抜の基本方針>

高等学校等で学習する全ての教科が医学科教育の土台になるため、いずれの入試においても、大学入学共通テストで、高等学校教育段階においてめざす基礎学力を確認します。

【一般選抜(前期日程及び後期日程)】

本個別学力検査では、医学科の学修に十分対応できる知識とそれを利活用した思考力、判断力及び表現力を確認します。さらに、面接を行い、本学のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに係る資質を確認します。

【学校推薦型選抜】

緊急医師確保枠をはじめ、地域における高度な医療を推進し発展させることを目指す地域枠への入学を希望する者を対象に行います。個別学力検査、面接等で将来、地域医療・医学に貢献しようとする志し及び本学のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに係る資質を確認します。

奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領

(目的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学学則（平成19年4月1日。以下「学則」という。）第8条の規定により、奈良県立医科大学医学部医学科の授業科目（以下「科目」という。）の名称、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(教育課程の区分)

第2条 教育課程を次のとおりとする。

- 一 教養教育 第1年次第1学期から第3学期まで
- 二 基礎医学教育
 - ア 基礎医学Ⅰ 第2年次第1学期から第3学期まで
 - イ 基礎医学Ⅱ 第3年次第1学期から第2学期まで
- 三 臨床医学教育
 - ア 臨床医学Ⅰ 第3年次第3学期から第4年次第2学期まで
 - イ 臨床医学Ⅱ 第4年次第3学期から第5年次第1学期まで
 - ウ 臨床医学Ⅲ 第5年次第2学期から第6年次第3学期まで

(科目等)

第3条 開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、教養教育授業科目表（別表1）、専門教育授業科目表（別表2-1、2-2、3）、臨床実習授業科目表（別表4）及び6年一貫教育授業科目表（別表5）のとおりとする。なお、6年一貫教育授業科目に「良き医療人育成プログラム」、「地域基盤型医療教育プログラム」、「臨床マインド育成プログラム」、「研究マインド育成プログラム」、「臨床英語強化プログラム」及び「地域基盤型医療教育コース」、「研究医養成コース」を設置する。

(履修条件・進級・卒業)

第4条 科目の履修、進級及び卒業の条件は次のとおりとする。なお、進級が認められなかった者については、未修得科目に加えてマイプログラム^{*1}を修得しなければ、進級することができない。ただし、卒業が認められなかった者については、この限りでない。

また、「地域基盤型医療教育コース」及び「研究医養成コース」を履修した者については、別に定めるとおりとする。

※1 マイプログラムとは、自己学習力の向上や個人が関心のある分野での成長促進等を目的として、学生ごとのキャリアデザインに沿った教育を実践するプログラムのことをいう。

一 教養教育

教養教育科目（別表1）及び6年一貫教育科目（別表5）を修得しなければ、基礎医学Ⅰに進級することができない。なお、教養教育において、必修科目40単位及び選択科目9単位以上を修得しなければならない。また、選択科目については、履修登録を指定期間内に行わなければならない。

二 基礎医学教育

ア 基礎医学Ⅰ

専門教育科目（別表2-1）及び6年一貫教育科目（別表5）を修得しなければ基礎医学Ⅱに進級することができない。

イ 基礎医学Ⅱ

専門教育科目（別表2-2）及び6年一貫教育科目（別表5）を修得し、基礎医学知識到達度評価試験（BNAT: Basic science kKnowledge Achievement Test）を受験しなければ臨床医学Ⅰに進級することができない。

三 臨床医学教育

ア 臨床医学Ⅰ

専門教育科目（別表3）及び6年一貫教育科目（別表5）を修得し、CBT及び臨床実習前OSCEに合格しなければ臨床医学Ⅱに進級することができない。

イ 臨床医学Ⅱ

ローテーション型臨床実習（別表4）及び6年一貫教育科目（別表5）を修得しなければ進級することができない。

ウ 臨床医学Ⅲ

5年次臨床医学知識到達度評価試験（CNAT: Clinical science kKnowledge Achievement Test）を受験し、選択型臨床実習（別表4）及び6年一貫教育科目（別表5）を修得し、臨床実習後OSCE及び卒業試験（統合問題形式の筆記試験）に合格しなければ卒業することができない。なお、卒業できなかった学生は、6年次の第1学期から再履修し、臨床実習後OSCE及び卒業試験に合格しなければ、卒業することができない。

（単位の計算方法）

第5条 科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、学習方法に応じ、次の基準により、計算するものとする。

- 一 講義については、15時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては30時間をもって1単位とすることができる。
- 二 演習については、30時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては15時間をもって1単位とすることができる。
- 三 実習、実技及び実験については、45時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては30時間をもって1単位とすることができる。

（単位又は授業科目修得の認定）

第6条 授業科目の単位又は修得の認定は試験等により、教室主任又は科目責任者が行う。

(試験)

第7条 定期試験は、期日を定めて行う。

一 定期試験の期間は、あらかじめ公示する。

二 定期試験以外に担当教員が必要と認めるときは、臨時試験を行うことがある。

2 試験は筆答及び口頭又はそのいずれかをもって行う。

3 各科目について、授業時間数の3分の2以上出席^{*2}し、かつ担当教員の承認を得なければ当該科目の定期試験を受けることができない。ただし、公欠を認められた期間は、上記の授業時間数には含めないものとする。補講等が実施された場合は当該期間数に含めるものとする。

4 疾病その他やむを得ない事由のため、所定の期日に定期試験を受けることが出来ない者に対し、当該試験を開始するまでに教育支援課に連絡があった場合に限り、追試験を行う。

5 前項に規定する疾病その他やむを得ない事由とは、傷病及び奈良県立医科大学医学部公欠規程第3条第1項第一号から第四号に規定する事由並びにその他学長が認めた場合とする。

6 第4項の規定により、追試験を受けようとする場合は、担当教員の承認を得たうえで、やむを得ない事由であることを証する書類を添えて、追試験受験申請書(様式1)を指定された期日までに学長に提出しなければならない。

7 授業科目の単位又は修得の認定についての評価方法は、別に教育要項で定める。

8 成績は、100点法によって表示し、60点以上をもって合格とする。60点未満の者については、原則として再試験を1回行い、合否を判定する。ただし、再試験の成績表示は、60点を上限とする。

9 定期試験の受験資格を有するが、定期試験を受験せず、かつ、追試験に該当しなかった者が前項の再試験を受けようとする場合は、担当教員の承認を得たうえで、再試験受験申請書(様式2)を指定された期日までに学長に提出しなければならない。

10 追試験又は再試験をやむを得ない事由のために、所定の期日に受験出来ない者は、当該試験が開始されるまでに、教育支援課に連絡があった場合に限り、別日で受験することができる。この場合、追試験受験申請書(様式1)又は再試験受験申請書(様式2)にやむを得ない事由であることを証する書類を添えて、指定された期日までに学長に提出するものとする。ただし、試験日の設定は、欠席した日を含め、追試験と再試験を併せて2日までとする。

11 試験において不正行為を行った者については、当該科目及び関連科目の試験を無効とし、進級又は卒業を停止する。不正行為が悪質であると判断された場合は、学則第41条による懲戒処分を行う。

(成績認定、進級判定)

第8条 成績認定及び進級判定は、教養教育協議会、基礎医学教育協議会、臨床医学教育協議会又は教務委員会から提出された成績資料に基づき、成績認定会議で審議を行う。

2 成績認定会議は、医学科長、教養教育部長、基礎教育部長、臨床教育部長及び教育開発センター専任教員をもって組織する。

3 成績認定及び進級判定の結果は、医学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が決定するものとし、その結果は、教授会議において報告するものとする。

(卒業認定)

第9条 卒業時の成績認定、授業科目の修了の認定及び卒業の認定は、教授会議で審議を行い、その結果を受けて卒業判定会議で審議を行う。

2 卒業判定会議は、医学科長、教養教育部長、基礎教育部長、臨床教育部長及び教育開発センター教育教授をもって組織する。

3 卒業時の成績認定、授業科目の修了の認定及び卒業の認定の結果は、医学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が認定するものとし、その結果は、教授会議において報告するものとする。

(雑則)

第10条 この要領に定めるもののほか、科目の履修に関し必要な事項は別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要領は、平成28年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成28年4月1日より前の進級、卒業要件は従前どおりとする。

3 第3条(2)第2学年及び(3)第3学年における(ウ)教養教育科目については、平成28年度限りとする。

教養教育授業科目は、第1学年の履修科目とし、平成27年度までに入学した学生に対しては、変更後の教養教育授業科目表(別表1)の代わりに、次のとおり、読み替えを行う。

附 則

(施行期日)

1 この要領は、平成29年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成27年度以前に必修科目が修得できないことによって進級できなかった学生の進級要件は、当該科目の再履修のみとする。

附 則

(施行期日)

この要領は、平成29年5月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要領は、平成30年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成27年度以前に必修科目が修得できないことによって進級できなかった学生の進級要件は、当該

科目の再履修のみとする。

附 則

(施行期日)

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要領は、令和元年12月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要領は、令和2年7月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要領は、令和2年12月1日から施行する。

(経過措置)

2 第4条1項三号イ及びウに規定する5年次臨床医学知識到達度評価試験は、令和2年12月1日以降に臨床実習Ⅰを履修した者に対して適用し、同日前に臨床実習Ⅰを履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

1 この要領は、令和3年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第4条1項の進級が認められなかった者に関する規定は、統合臨床講義については、令和3年12月1日以降に履修した者に対して適用し、同日前に統合臨床講義を履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

1 この要領は、令和3年12月1日から施行する。

(経過措置)

2 第7条6項の追試験の成績表示に関する規定は、教養教育及び基礎医学Ⅰについては、令和4年4月1日以降に履修した者に対して適用し、同日前に教養教育又は基礎医学Ⅰを履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

1 この要領は、令和4年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第2条1項三号ア、イ及びウ並びに第7条6項の再試験の成績表示に関する規定は、臨床医学教育については、令和4年12月1日以降に履修した者に対して適用し、同日前に臨床医学教育を履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

1 この要領は、令和4年12月1日から施行する。

(経過措置)

2 第2条1項三号イ及びウ並びに第4条1項三号イ及びウの臨床医学Ⅱ及びⅢの履修内容等に関する規定は、令和4年12月1日以降に臨床医学Ⅱを履修した者に対して適用し、同日前に履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

1 この要領は、令和5年12月1日から施行する。

(経過措置)

2 第2条1項三号イ及びウ並びに第4条1項三号イ及びウの臨床医学Ⅱ及びⅢの履修内容等に関する規定は、令和4年12月1日以降に臨床医学Ⅱを履修した者に対して適用し、同日前に履修した者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

この要領は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要領は、令和7年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要領は、令和8年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第4条1項1号の教養教育の履修内容等に関する規定は、令和8年4月1日以降に履修した者に対して適用し、同日前に履修した者については、なお従前の例による。

※2 3分の2以上出席の考え方について

学則第41条に規定されているとおり、授業に出席することは学生の本分であり、出席不良者（正当の理由がなくて出席常でないもの）は退学、停学、又はけん責（文書注意）のいずれかの懲戒の対象となる。よって、授業時間数の3分の2を出席すれば、それ以上出席しなくてもよいというものではない。

履修要領第7条第3項に定めている「3分の2以上出席」の趣旨は、例えば、傷病によりやむを得ず欠席した場合等を考慮し、定期試験を受けることができる出席数の下限を定めているものである。

学則（抜粋）

第41条 学長は、学生がこの学則及びこの学則に基く規程並びに学長の指示及び命令にそむき、学生の本分に反する行為があったとき、これに対し懲戒処分として、けん責、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学の処分は次の各号の一に該当する者のみに行うことができる。

- 一 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- 二 学力劣等で成業の見込がないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

別表1 教養教育 医学科授業科目表

| 種類 | 授業科目 | 選択・必修 | | 授業時間数 | | | 単位数 | 備考 |
|----|--------------------------------|-------|----|-------|------|-----|-----|---------------------|
| | | 前期 | 後期 | 時間/週 | 年間週数 | 計 | | |
| 1 | 基礎物理学 | ◎ | | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 電気と磁気の物理学 | | △ | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 熱とエネルギーの物理学 | | △ | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 基礎物理学演習 | ◎ | | 2 | 15 | 30 | 1 | |
| | 基礎物理学実験 | | ◎ | 4 | 12 | 48 | 1 | |
| 2 | 分析化学 | ◎ | | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 有機化学 | ◎ | | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 生体分子化学 | △ | | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 医用材料化学 | | △ | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 基礎化学実験 | | ◎ | 4 | 12 | 48 | 1 | |
| 3 | 生命科学概論（基礎） | □ | □ | 2 | 30 | 60 | 4 | |
| | 生命科学概論（発展） | □ | □ | 2 | 30 | 60 | 4 | |
| | 分子生物学 | | △ | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 入門生物学 | | △ | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 基礎生物学 | | △ | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 基礎生物学実験 | ◎ | | 4 | 12 | 48 | 1 | |
| 4 | 微積分学 | ◎ | | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 線形代数学 | ◎ | | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | データサイエンス・AI入門 | | ◎ | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 医用画像データサイエンス | | △ | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 微積分学及び線形代数学演習 | | △ | 2 | 15 | 30 | 1 | |
| 5 | 生物統計学 | ◎ | | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 医療情報学 | | △ | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| 6 | スポーツ実践Ⅰ | ◎ | | 2 | 15 | 30 | 1 | |
| | スポーツ実践Ⅱ | | ◎ | 2 | 15 | 30 | 1 | |
| | 健康科学 | △ | | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| 7 | English for Medical Purposes I | ◎ | ◎ | 4 | 30 | 120 | 4 | |
| 8 | 医療に関わる倫理学Ⅰ | ◎ | | 2 | 15 | 30 | 2 | 医看合同(注3) |
| | 医療に関わる倫理学Ⅱ | | △ | 2 | 15 | 30 | 2 | 医看合同(注3) |
| | 哲学 | △ | | 2 | 15 | 30 | 2 | 医看合同(注3) |
| 9 | アジア文化論 (注1) | ◎ | | 2 | 15 | 30 | 1 | 医看合同(注3) |
| | 西洋文化論 (注2) | | ◎ | 2 | 15 | 30 | 1 | 医看合同(注3) |
| | 異文化論 | △ | | 2 | 15 | 30 | 2 | ※令和8年度は不開講 医看合同(注3) |
| 10 | 教育実践論 | ◎ | | 2 | 15 | 30 | 2 | 医看合同(注3) |
| | 臨床心理学 | | ◎ | 2 | 15 | 30 | 2 | 医看合同(注3) |
| | 社会福祉と医療法規 | | ◎ | 2 | 15 | 30 | 2 | 医看合同(注3) |
| | 行動科学Ⅰ | | ◎ | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| | 市民と法 | | △ | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| 11 | 医学研究入門 | △ | | 2 | 15 | 30 | 2 | |
| 12 | 諸学への誘い | △ | | — | — | — | 1 | |

◎…必修科目、□…選択必修科目、△…選択科目

(注1) 「アジア文化論」：中国文化、韓国文化、インドネシア文化
(注2) 「西洋文化論」：ドイツ文化、フランス文化、アメリカ文化
(注3) 医学看護学合同教育科目：医学科及び看護学科共通科目

別表2-1 基礎医学Ⅰ 専門教育授業科目表

| 区分 | 授業科目 | 主担当講座 | 授業時間数 |
|-----|---------|---------|-------|
| 講義 | 解剖学Ⅰ | 解剖学第一 | 39 |
| | 解剖学Ⅱ | 解剖学第二 | 54 |
| | 発生・再生医学 | 発生・再生医学 | 27 |
| | 生理学Ⅰ | 生理学第一 | 51 |
| | 生理学Ⅱ | 生理学第二 | 51 |
| | 生化学 | 生化学 | 57 |
| 合 計 | | | 279 |

| 区分 | 授業科目 | 主担当講座 | 授業時間数 |
|-----|--------|---------------|-------|
| 実習 | 人体解剖実習 | 解剖学第一 / 解剖学第二 | 96 |
| | 解剖学Ⅰ実習 | 解剖学第一 | 9 |
| | 解剖学Ⅱ実習 | 解剖学第二 | 21 |
| | 生理学Ⅰ実習 | 生理学第一 | 42 |
| | 生理学Ⅱ実習 | 生理学第二 | 42 |
| | 生化学実習 | 生化学 | 36 |
| 合 計 | | | 246 |

別表2-2 基礎医学Ⅱ 専門教育授業科目表

| 区分 | 授業科目 | 主担当講座 | 授業時間数 |
|-----|------------|---------|-------|
| 講義 | 病理学 | 分子病理学 | 42 |
| | 微生物感染症学 | 微生物感染症学 | 39 |
| | 免疫学 | 免疫学 | 45 |
| | 薬理学 | 薬理学 | 27 |
| | 衛生学・公衆衛生学Ⅰ | 疫学・予防医学 | 63 |
| 合 計 | | | 216 |

| 区分 | 授業科目 | 主担当講座 | 授業時間数 |
|-----|-----------|---------|-------|
| 実習 | 病理学総論実習 | 分子病理学 | 6 |
| | 微生物感染症学実習 | 微生物感染症学 | 21 |
| | 免疫学実習 | 免疫学 | 12 |
| | 薬理学実習 | 薬理学 | 33 |
| 合 計 | | | 72 |

別表3 臨床医学Ⅰ 専門教育授業科目表

| 授業科目 | 担当講座 | | 授業時間数 |
|--------------|---------------|--|-------|
| | 主担当講座 | 関係講座 | |
| 循環器疾患 | 循環器内科学 | 胸部・心臓血管外科学、小児科学、放射線診断・IVR学、薬理学、先天性心疾患センター | 26 |
| 呼吸器疾患 | 呼吸器内科学 | 胸部・心臓血管外科学、小児科学、放射線診断・IVR学、病理診断学、薬理学 | 26 |
| 肝・胆・膵疾患 | 消化器内科学 | 消化器・総合外科学、放射線診断・IVR学、病理診断学、総合画像診断センター | 17 |
| 消化管・乳腺疾患 | 消化器・総合外科学 | 消化器内科学、小児科学、放射線診断・IVR学、分子病理学 | 29 |
| 小児疾患 | 小児科学 | 総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門 (NICU) | 12 |
| 腎疾患・尿路系疾患 | 泌尿器科学 | 腎臓内科学、小児科学、放射線診断・IVR学、病理診断学、透析部、薬理学 | 29 |
| 画像診断・IVR | 放射線診断・IVR学 | 中央放射線部、総合画像診断センター、戦略的医療情報連携推進 | 7 |
| 膠原病・アレルギー疾患 | 腎臓内科学 | 呼吸器内科学、脳神経内科学、整形外科、小児科学、皮膚科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、リウマチセンター | 10 |
| 血液疾患 | 血液内科学／輸血部 | 感染症内科学、小児科学、病理診断学、輸血部 | 24 |
| 神経疾患 | 脳神経内科学／脳神経外科学 | 泌尿器科学 | 33 |
| 移植・再生医学 | 胸部・心臓血管外科学 | 血液内科学、消化器・総合外科学、口腔外科学、眼科学、小児科学、形成外科学、リハビリテーション医学、透析部、発生・再生医学、免疫学、手の外科学 | 17 |
| 運動器疾患 | 整形外科 | リハビリテーション医学、手の外科学、骨軟部腫瘍制御・機能再建医学、スポーツ医学、リウマチセンター | 16 |
| 眼疾患 | 眼科学 | - | 14 |
| 精神・行動疾患 | 精神医学 | - | 24 |
| 皮膚疾患 | 皮膚科学 | - | 10 |
| 耳鼻咽喉疾患 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 放射線診断・IVR学 | 14 |
| 東洋医学 | 教育開発センター | 産婦人科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、麻酔科学、大和漢方医学薬学センター | 7 |
| 感染症 | 感染症内科 | 小児科学、微生物感染症学、免疫学、薬理学、前立腺小線源治療学 | 17 |
| 内分泌代謝栄養疾患 | 糖尿病・内分泌内科学 | 循環器内科学、腎臓内科学、消化器内科学、脳神経内科学、産婦人科学、眼科学、小児科学、病理診断学 | 25 |
| 口腔疾患 | 口腔外科学 | - | 14 |
| 周産期医学 | 産婦人科学 | 総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門 (NICU) | 19 |
| 婦人疾患 | 産婦人科学 | 放射線診断・IVR学、病理診断学 | 12 |
| 臨床腫瘍学・放射線治療学 | 放射線腫瘍医学 | 呼吸器内科学、消化器・総合外科学、精神医学、放射線診断・IVR学、病理診断学、がんゲノム・腫瘍内科学、免疫学、薬理学、疫学・予防医学、分子病理学、中央臨床検査部、中央放射線部、緩和ケアセンター、戦略的医療情報連携推進 | 26 |
| 麻酔・疼痛管理 | 麻酔科学 | 薬理学 | 17 |
| 外傷・救急医学 | 救急医学 | 胸部・心臓血管外科学、脳神経外科学、整形外科、麻酔科学、集中治療部 | 18 |
| 総合診療 | 総合医療学 | - | 10 |
| 在宅医療学 | 総合医療学 | - | 6 |
| 衛生学・公衆衛生学Ⅱ | 公衆衛生学 | 疫学・予防医学、教育開発センター、臨床研究センター | 27 |
| 公衆衛生学実習 | | - | 30 |
| 法医学 | 法医学 | - | 24 |
| 法医学実習 | | - | 30 |
| 臨床病理関連実習 | 病理診断学 | - | 21 |
| 合 計 | | | 611 |

別表4 臨床実習授業科目表

| 授業科目 | 分類 | 診療科 | 授業時間数 (週) |
|--------------|-----------|-----------------------------|--------------|
| ローテーション型臨床実習 | 内科 | 循環器内科 | 1 |
| | | 腎臓内科 | 1 |
| | | 呼吸器・アレルギー内科 | 1 |
| | | 血液内科、輸血部 | 1 |
| | | 感染症内科 | 1 |
| | | 消化器・代謝内科、中央内視鏡・超音波部 | 1 |
| | | 糖尿病・内分泌内科 | 1 |
| | | 脳神経内科、脳卒中センター | 1 |
| | 外科 | 消化器外科・小児外科・乳腺外科 | 1 |
| | | 心臓血管外科・呼吸器外科、先天性心疾患センター | 1 |
| | | 脳神経外科 | 1 |
| | | 整形外科、四肢外傷センター | 1 |
| | 専門性の高い診療科 | 歯科口腔外科 | 1 |
| | | 眼科 | 1 |
| | | 皮膚科、形成外科 | 1 |
| | | 泌尿器科、透析部 | 1 |
| | | 耳鼻咽喉・頭頸部外科、めまいセンター | 1 |
| | | 放射線・核医学科、総合画像診断センター、IVRセンター | 1 |
| | | 放射線治療科 | 1 |
| | | 麻酔科、ペインセンター、中央手術部、緩和ケアセンター | 1 |
| | | 救急科 | 1 |
| | | リハビリテーション科 | 1 |
| | | 腫瘍内科 | 1 |
| | | 中央臨床検査部／病理診断科 | 1 |
| 合計 | | | 24 |
| 選択型臨床実習 | 必修 | 産婦人科 | 4 |
| | | 小児科、NICU | 4 |
| | | 精神科 | 4 |
| | | 総合診療科 | 4 |
| | | 内科から1診療科 | 4 |
| | | 外科から1診療科 | 4 |
| | 選択 | 選択実習 4週×5ターム | 20 |
| 合計 | | | 44 |

別表5 6年一貫教育授業科目表

《A 良き医療人育成プログラム》

| No. | 授 業 科 目 | 区分 | 教養教育 | 基礎医学Ⅰ | 基礎医学Ⅱ | 臨床医学Ⅰ | 臨床医学Ⅱ | 臨床医学Ⅲ | 授業時間数 |
|-----|---------------------|----|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 | 医の探求入門 (※注1) | 必修 | ◎ | | | | | | 26 |
| 2 | 奈良学 (※注2) | 必修 | ◎ | | | | | | 30 |
| 3 | 次世代医療人育成論 | 必修 | ◎ | | | | | | 30 |
| 4 | ロールモデルを探す | 必修 | | ◎ | | | | | 9 |
| 5 | VOP講座 | 必修 | | ◎ | | | | | 9 |
| 6 | 基礎医学ⅠTBL | 必修 | | ◎ | | | | | 30 |
| 7 | 基礎医学ⅡTBL | 必修 | | | ◎ | | | | 30 |
| 8 | 臨床医学TBL | 必修 | | | | | ◎ | | 15 |
| 9 | 私のキャリアパスⅠ | 必修 | | | ◎ | | | | 12 |
| 10 | 私のキャリアパスⅡ | 必修 | | | | | ◎ | | 7 |
| 11 | キャリアパス・メンター実習 (※注3) | 必修 | | | | | | ◎ | 16 |
| 12 | 行動科学Ⅰ (※注4) | 必修 | ◎ | | | | | | 30 |
| 13 | 行動科学Ⅱ | 必修 | | | | ◎ | | | 9 |
| 14 | 医療安全学Ⅰ (基礎編) | 必修 | | | ◎ | | | | 9 |
| 15 | 医療安全学Ⅱ (臨床編) | 必修 | | | | | ◎ | | 18 |
| 16 | 実践的医療倫理Ⅰ | 必修 | | | | ◎ | | | 9 |
| 17 | 実践的医療倫理Ⅱ | 必修 | | | | | | ◎ | 3 |
| 18 | チーム医療論 | 必修 | | | | | ◎ | | 12 |
| 19 | Never do harm! | 必修 | | | | | ◎ | | 15 |
| 合 計 | | | | | | | | | 319 |

- (注1) 《D 研究マインド育成プログラム》NO.1と同一授業科目
(注2) 《B 地域基盤型医療教育プログラム》NO.1と同一授業科目
(注3) 《C 臨床マインド育成プログラム》NO.7と同一授業科目
(注4) 教養教育授業科目の必修科目 (別表1参照)

《B 地域基盤型医療教育プログラム》

| No. | 授 業 科 目 | 区分 | 教養教育 | 基礎医学Ⅰ | 基礎医学Ⅱ | 臨床医学Ⅰ | 臨床医学Ⅱ | 臨床医学Ⅲ | 授業時間数 |
|-----|--|----|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 | 奈良学 (※注5) | 必修 | ◎ | | | | | | 30 |
| 2 | 地域医療実習1 | 必修 | | | ◎ | | | | 24 |
| 3 | 地域医療実習2 | 必修 | | | | | | ◎ | 30 |
| 4 | 早期医療体験実習 (※注6) | 必修 | ◎ | | | | | | 24 |
| 5 | 緊急医師確保枠学生 地域医療特別実習1 (※注7) | 必修 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 30 |
| 6 | 緊急医師確保枠学生 地域医療特別実習2 (※注8) | 必修 | | | | | ◎ | ◎ | 10 |
| 7 | コンソーシアム実習 (地域医療学概論) (早稲田大・奈良医大連携講座) (※注9) | 必修 | | | | ◎ | | | 24 |
| 合 計 | | | | | | | | | 172 |

- (注5) 《A 良き医療人育成プログラム》NO.2と同一授業科目
(注6) 《C 臨床マインド育成プログラム》NO.2と同一授業科目
(注7) 1～4年の緊急医師確保入学試験枠の学生が履修
(注8) 5～6年の緊急医師確保入学試験枠の学生が履修
(注9) 夏季休暇中に行う集中講義 ※緊急医師確保入学試験枠の学生は、履修が必修

《C 臨床マインド育成プログラム》

| No. | 授 業 科 目 | 区分 | 教養教育 | 基礎医学Ⅰ | 基礎医学Ⅱ | 臨床医学Ⅰ | 臨床医学Ⅱ | 臨床医学Ⅲ | 授業時間数 |
|-----|---------------------|----|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 | 医学・医療入門講義 | 必修 | ◎ | | | | | | 18 |
| 2 | 早期医療体験実習（※注10） | 必修 | ◎ | | | | | | 24 |
| 3 | 臨床手技実習入門Ⅰ | 必修 | ◎ | | | | | | 22 |
| 4 | 臨床手技実習入門Ⅱ | 必修 | | ◎ | | | | | 24 |
| 5 | 臨床手技実習入門Ⅲ | 必修 | | | ◎ | | | | 24 |
| 6 | 臨床手技実習 | 必修 | | | | ◎ | | | 27 |
| 7 | キャリアパス・メンター実習（※注11） | 必修 | | | | | | ◎ | 16 |
| 8 | 救急車同乗実習 | 自由 | | □ | | | | | — |
| 合 計 | | | | | | | | | 155 |

（注10） 《B 地域基盤型医療教育プログラム》NO.4と同一授業科目

（注11） 《A 良き医療人育成プログラム》NO.11と同一授業科目

《D 研究マインド育成プログラム》

| No. | 授 業 科 目 | 区分 | 教養教育 | 基礎医学Ⅰ | 基礎医学Ⅱ | 臨床医学Ⅰ | 臨床医学Ⅱ | 臨床医学Ⅲ | 授業時間数 |
|-----|--|----|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 | 医の探求入門（※注12） | 必修 | ◎ | | | | | | 26 |
| 2 | 医学研究入門 | 選択 | ○ | | | | | | 30 |
| 3 | リサーチ・クラークシップ | 必修 | | ◎ | | | | | 252 |
| 4 | 研究医特別メンター実習（※注13） | 必修 | | ◎ | ◎ | ◎ | | | — |
| 5 | コンソーシアム実習（医工学と医学） （早稲田大・奈良医大連携講座）（※注14） | 必修 | | | | ◎ | | | 24 |
| 合 計 | | | | | | | | | 332 |

（注12） 《A 良き医療人育成プログラム》NO.1と同一授業科目

（注13） 研究医養成コースの学生は、基礎医学Ⅰ～臨床医学Ⅰでの履修が必修

（注14） 夏季休暇中に行う集中講義 ※研究医養成コースの学生は、履修が必修

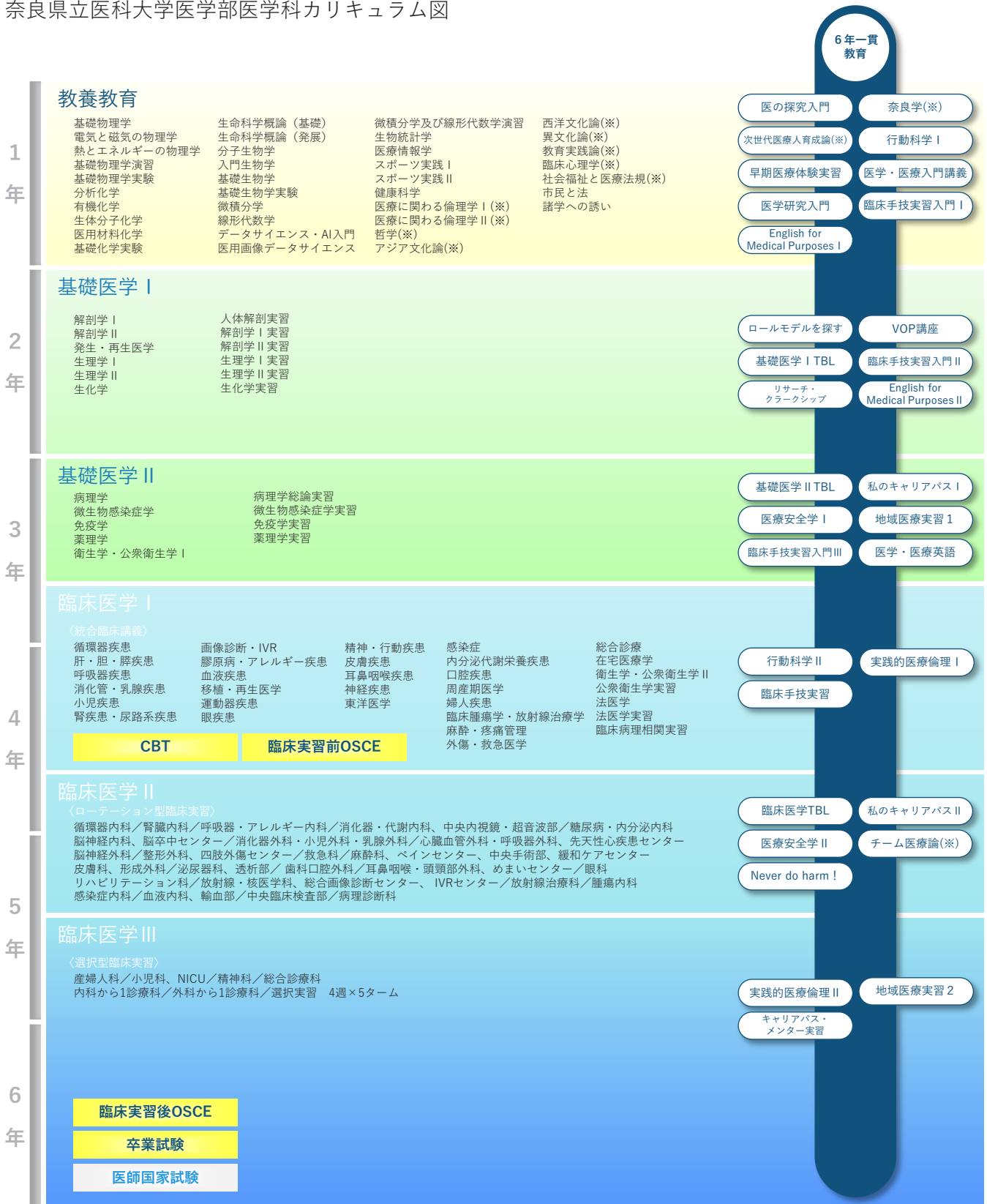
《E 臨床英語強化プログラム》

| No. | 授 業 科 目 | 区分 | 教養教育 | 基礎医学Ⅰ | 基礎医学Ⅱ | 臨床医学Ⅰ | 臨床医学Ⅱ | 臨床医学Ⅲ | 授業時間数 |
|-----|-------------------------------------|----|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 | English for Medical PurposesⅠ（※注15） | 必修 | ◎ | | | | | | 120 |
| 2 | English for Medical PurposesⅡ | 必修 | | ◎ | | | | | 14 |
| 3 | 医学・医療英語 | 必修 | | | ◎ | | | | 6 |
| 合 計 | | | | | | | | | 140 |

（注15） 教養教育授業科目の必修科目（別表1参照）

| No. | 授 業 科 目 | 区 分 | 教養教育 | 基礎医学 I | 基礎医学 II | 臨床医学 I | 臨床医学 II | 臨床医学 III | 授 業 時 間 数 |
|-----|--|-----|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------|
| | | | 後 期 | 後 期 | 後 期 | 後 期 | 後 期 | 後 期 | |
| 4 | Basic English Conversation II (※注16) | 自由 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | — |
| 5 | Developing English Fluency with AI (※注16) | 自由 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | — |
| 6 | Medical Vocabulary & Clinical Communication (※注16) | 自由 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | — |
| 7 | Getting to Know Your Hospital II (※注16) | 自由 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | — |
| 8 | English Writing Essentials II (※注16) | 自由 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | — |
| 9 | Global Health Issues II (※注16) | 自由 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | — |
| 10 | English for Medical Research Purposes | 自由 | | <input type="checkbox"/> | | | | | — |
| 11 | 3rd Year Advanced English | 自由 | | | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | — |

(注16) 2026年度前期の予定は未定



(※) …医学看護学合同教育科目

ディプロマポリシー

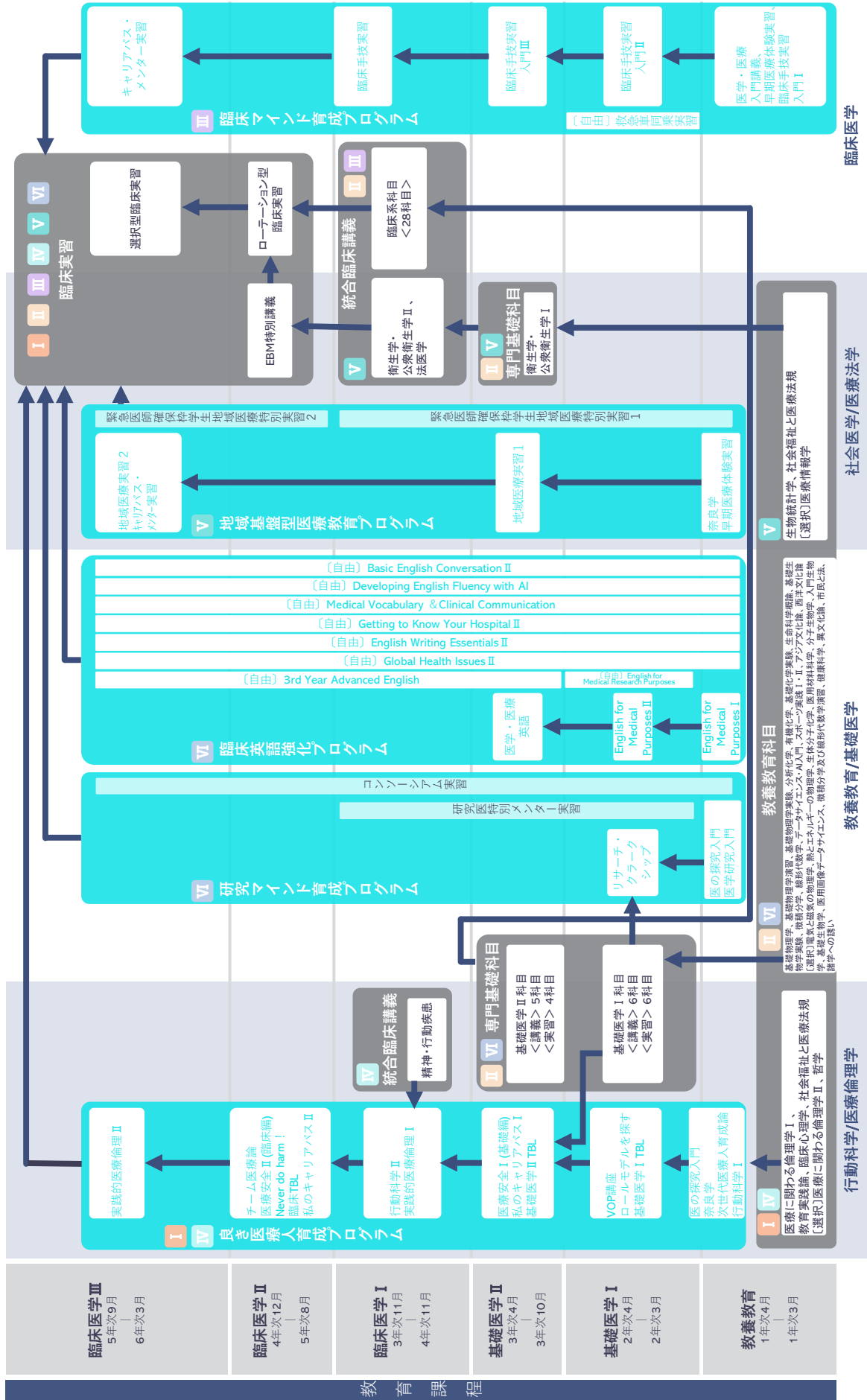
1. 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけている。
2. 医学とそれに関連する領域の正しい知識を身につけている。
3. 医療を適切に実践できる知識、技能、態度を身につけている。
4. 良好な医療コミュニケーション能力を身につけている。
5. 医学、医療、保健を通じて地域社会へ貢献する意欲と能力を身につけている。
6. 国際的な視野と科学的探究心を身につけている。

アウトカム

- I. 倫理観とプロフェッショナリズム
- II. 医学とそれに関する領域の知識
- III. 医療の実践
- IV. チームマネジメントとコミュニケーション技能
- V. 医学、医療、保険、社会への貢献
- VI. 国際的視野と科学的探究

ディプロマ・ポリシー

- 1. 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけている。
- 2. 医学とそれに関連する領域の正しい知識を身につけている。
- 3. 医療を適切に実施できる知識、技能、態度を身につけている。
- 4. 良好な医療コミュニケーション能力を身につけている。
- 5. 医学、医療、保健を通じて地域社会へ貢献する意欲と能力を身につけている。
- 6. 国際的な視野と科学的探究心を身につけている。



アウトカムに対する到達度目標レベル (マイルストーン)

| | S Advanced 120% 研修医レベル | A Applied 100% 卒業時到達レベル | B Basic 60% | C Basic 30% | 0% |
|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|-------------------|-------------------|----------|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 診療の場で修得した知識・技能・態度を實踐できる | 診療の場で修得した知識・技能・態度を示せる | 基盤となる知識・技能・態度を示せる | 基盤となる知識を修得している | 修得の機会がない |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 診療の場で修得した知識を問題解決に応用できる | 診療の場で修得した知識を活用して議論し発表できる | 基盤となる知識・技能・態度を示せる | 基盤となる知識を修得している | 修得の機会がない |
| III 医療の実践 | 診療の場で実践できる | 模擬診療を実施できる | 基盤となる知識・技能・態度を示せる | 基盤となる知識を修得している | 修得の機会がない |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 診療の場で修得した知識・技能・態度を實踐できる | 診療の場で修得した知識・技能・態度を示せる | 基盤となる知識・技能・態度を示せる | 基盤となる知識を修得している | 修得の機会がない |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 診療の場で修得した知識を問題解決に応用できる | 診療の場で修得した知識を活用して議論し発表できる | 基盤となる知識・技能・態度を示せる | 基盤となる知識を修得している | 修得の機会がない |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 立案した計画を実施・発表できる | 課題を認識し、計画立案できる | 基盤となる知識・技能・態度を示せる | 基盤となる知識を修得している | 修得の機会がない |

I 倫理観とプロフェッショナリズム

患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を實踐するためのプロフェッショナリズム（態度、考え方、倫理感など）を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図ることの必要性和方法を理解している。

II 医学とそれに関連する領域の知識

基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の實踐の場で応用できる。医療の基盤となっている生命科学、自然科学、社会科学など関連領域の知識と原理を理解し、説明できる。

III 医療の實踐

患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い疾患の診断と治療を計画できる。

IV チームマネジメントとコミュニケーション技能

お互いの立場を理解、尊重した人間関係を構築し、思いやりがある効果的なコミュニケーションができる。医学・医療における文書を適切に作成し、取り扱うことができる。責任ある情報交換と記録を行うことができる。

V 医学、医療、保健、社会への貢献

医療機関、行政等の規則等に基づいた保健活動と医療の實踐、研究、開発を通して社会に貢献できることを理解できている。

VI 国際的視野と科学的探究

国際的視野をもって、基礎、臨床、社会医学の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考に基づき計画の立案ができる。

授業科目紹介

(教養教育科目)

| | |
|--------|---------------|
| 講義コード | I241040 |
| 講義名称 | 基礎物理学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Basic Physics |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 藤本 雅文 |
| 全担当教員 | 藤本雅文 |
| 概要 | 力学および波動に関わる自然現象を議論する。このとき、自然は複雑であるが、複雑さの中に単純な法則が潜んでいることを認識する。このような法則を用いて様々な現象が解析できることを理解するとともに、法則を用いて自由に考察できる能力を養う。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 物理現象の学習は医療者を目指す上で一つの礎となる。 医学、医療の発展に貢献することを念頭に、力学、波動を学習し研鑽していくことができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 力学の法則と波動現象について、医学との密接な関わりを説明することができる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 指定された様式に従いノートを作成し、この学習をもとに、レポート、答案の作成、相互添削、説明が行える。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | - |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 現代物理学の研究で明らかになってきた新しい知見を理解し、説明できる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコピテンス番号を記載 <ul style="list-style-type: none"> ■ 受講態度（15%）《I》 ■ ノート、小テスト、レポート（15%）《II, IV, VI》 ■ 定期試験（70%）《II, IV, VI》 |
| 出席確認方法 | 回ごとに座席表を作成し、本人がその座席で受講したかどうかを教官が確認する。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 年月日(曜日) | 担当者 | 授業形態 |
|----|---|------|---------------|-----|------|
| 1 | 第1回 運動の法則：質点の運動 | | 2026/04/14(火) | 藤本 | 講義 |
| 2 | 第2回 運動の法則：慣性の法則 | | 2026/04/21(火) | 藤本 | 講義 |
| 3 | 第3回 運動の法則：運動方程式 | | 2026/04/28(火) | 藤本 | 講義 |
| 4 | 第4回 運動の法則：作用反作用の法則、束縛力 | | 2026/05/12(火) | 藤本 | 講義 |
| 5 | 第5回 運動の法則：摩擦力 | | 2026/05/19(火) | 藤本 | 講義 |
| 6 | 第6回 運動の法則：慣性力 | | 2026/05/26(火) | 藤本 | 講義 |
| 7 | 第7回 力学的エネルギーと角運動量：仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存則 | | 2026/06/02(火) | 藤本 | 講義 |
| 8 | 第8回 力学的エネルギーと角運動量：保存力とポテンシャルエネルギー、力のモーメントと角運動量 | | 2026/06/09(火) | 藤本 | 講義 |

| | | | | | |
|----|--|---------------|---------------|----|----|
| 9 | 第9回 力学的エネルギーと角運動量：中心力と角運動量の保存則、ケプラーの法則と万有引力 | | 2026/06/16(火) | 藤本 | 講義 |
| 10 | 第10回 多質点、剛体および弾性体の力学：重心の運動方程式 | | 2026/06/23(火) | 藤本 | 講義 |
| 11 | 第11回 多質点、剛体および弾性体の力学：剛体のつりあい、剛体の回転 | | 2026/06/30(火) | 藤本 | 講義 |
| 12 | 第12回 多質点、剛体および弾性体の力学：剛体の運動 | | 2026/07/07(火) | 藤本 | 講義 |
| 13 | 第13回 多質点、剛体および弾性体の力学：弾性体 | | 2026/07/14(火) | 藤本 | 講義 |
| 14 | 第14回 振動と波動：単振動の合成、強制振動と共鳴 | | 2026/07/21(火) | 藤本 | 講義 |
| 15 | 第15回 振動と波動：波動 | 補講を行う（日程は調整中） | | 藤本 | 講義 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 教務システムに毎週の講義資料を掲示し、これを用いた復習を行うものとする。 (この自宅学習をふまえた小テストを次週の演習で行う。) |
| テキスト | 教務システムに講義資料を掲示するとともに、必要に応じてプリントを配布する。 |
| 参考書 | 第5版「物理学基礎」 原康夫 著、学術図書 "GENERAL PHYSICS", Sternheim and Kane, John Wiley and Sons |
| 学生へのメッセージ等 | 物理学は対象とする事柄よりもその手法に特徴があり、哲学や宗教の影響を強く受けた時代から始まり、ガリレオやニュートンの時代に大きな転換期をむかえました。先人の物理研究にまつわる苦闘と人間ドラマを振り返りながら、物理法則と我々の日常生活との関わりを学んでいきます。 本科目で扱う力学はその雛形となる分野です。 講義を聞いているだけでは、十分な成果は得られられません。配布資料を参照しながら、自分のノートを作っていくて下さい。 地味な作業になるかもしれませんが、様々な分野の基礎学習にもなるはずです。 中学、高校の復習から始めますので、高校での選択・不選択に関わらず、積極的に参加してください。 |

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 講義コード | I241070 |
| 講義名称 | 電気と磁気の物理学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Physics of Electricity and Magnetism |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 高木 拓明 |
| 全担当教員 | 高木 拓明 |
| 概要 | 電気と磁気に関わる自然現象、及びその背後にある普遍的な物理法則を、微分方程式を用いて理解する。医学や医療を学ぶ上でも重要となる、電気・電子回路や放射線、レーザーなどの応用物理を理解する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医学生として将来、医学・医療の発展に貢献するための基礎の1つとなる、電磁気学に関する知見を学習し研鑽することができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 電磁気学と医学の関わりについて説明できる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | レポートを規定に従って適切に作成できる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 電磁気学に基づいた医学・医療の研究と開発が社会に貢献していることを理解できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | <input type="checkbox"/> 医学的発見の基礎となる電磁気学の理論と方法論を理解し、説明できる。 <input type="checkbox"/> 科学的研究で明らかになった新しい知見を理解できる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | ◁内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■ 受講態度 (5%) 《I》 ■ 小テストとレポート (35%) 《II,IV,V,VI》 ■ 定期試験 (60%) 《II,V,VI》 |
| 出席確認方法 | 毎回の講義中に行う小テストで確認する。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|--|-----|------|
| 1 | 第1回 講義の概要（自然界の階層構造、電磁気学と医学・医療との関わり） | 高木 | 講義 |
| 2 | 第2回 電気・電子回路 (1) 直流電気回路の物理 | 高木 | 講義 |
| 3 | 第3回 電気・電子回路 (2) 交流電気回路の物理 | 高木 | 講義 |
| 4 | 第4回 電気・電子回路 (3) 半導体の物理 | 高木 | 講義 |
| 5 | 第5回 医療応用 (1) 体温計の物理 | 高木 | 講義 |
| 6 | 第6回 医療応用 (2) 放射線の物理 | 高木 | 講義 |
| 7 | 第7回 医療応用 (3) レーザーの物理；電磁気学 (1) 近接作用と静電場の物理 1 | 高木 | 講義 |

| | | | |
|----|-----------------------------------|----|----|
| 8 | 第8回 電磁気学 (2) 近接作用と静電場の物理 2 | 高木 | 講義 |
| 9 | 第9回 電磁気学 (3) 電流の磁気作用と静磁場の物理 1 | 高木 | 講義 |
| 10 | 第10回 電磁気学 (4) 電流の磁気作用と静磁場の物理 2 | 高木 | 講義 |
| 11 | 第11回 電磁気学 (5) 時間変化する電場と磁場の物理 1 | 高木 | 講義 |
| 12 | 第12回 電磁気学 (6) 時間変化する電場と磁場の物理 2 | 高木 | 講義 |
| 13 | 第13回 電磁気学 (7) 電磁波と電磁場の物理 | 高木 | 講義 |
| 14 | 第14回 医療応用 (4) AIと医療 | 高木 | 講義 |
| 15 | 第15回 全体のまとめ | 高木 | 講義 |

| | |
|--------------------------|--|
| 授業外学修 (事前学修・事後学修) | 遠隔授業の場合、授業内容を解説した動画をStream上に事前にアップロードするので、予習、復習に活用すること。 |
| テキスト | 授業資料を電子ファイルで毎回配布する。 |
| 参考書 | 物理の考え方 2 「電磁気学の考え方」 砂川重信 著, 岩波書店 新版 「医・生物学系のための電気・電子回路」 堀川宗之 著, コロナ社 「やっかいな放射線と向き合っていくための基礎知識」 田崎晴明 著, 朝日出版社 |
| 学生へのメッセージ等 | 電磁気学は、細胞の電気生理的な振る舞いや、多くの医療技術への応用など、医学・医療と深い関わりを持ちます。本講義では、その具体的な事例を紹介し、基礎となる電気・電子回路と電磁気学について体系的に解説します。「場の概念」に基づいたマクスウェル方程式の理解と、電磁波の導出までが目標です。関連する科学史についても紹介します。講義の一部は物理学実験とも連動していますので、能動的に取り組んで理解を深めてください。 |

| | |
|--------|---------------------------------|
| 講義コード | I241080 |
| 講義名称 | 熱とエネルギーの物理学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Fundamentals of Thermal Physics |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 藤本 雅文 |
| 全担当教員 | 藤本雅文 |
| 概要 | 熱現象の理解という観点から重要になるエントロピーの概念を知り、熱現象を応用するにあたり重要になる自由エネルギーの考え方を理解する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 熱現象の研究は、これまで多くの医学者が関わってきた分野である。このことを学ぶとともに、医学、医療の発展に貢献する使命感を持ち、熱現象を学習し研鑽していくことができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 熱現象の研究と医学の密接な関わりを説明することができる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 指定された処方に従い、計算、作図、表を用いて、レポートを作成できる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | - |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 現代物理学の研究で明らかになってきた新しい知見とそれを応用した装置を理解し、説明できる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ■ 受講態度（10%）《I》 ■ レポート（45%）《II, IV, VI》 ■ 定期試験（45%）《II, IV, VI》 |
| 出席確認方法 | 回ごとに座席表を作成し、本人がその座席で受講したかどうかを教官が確認する。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 年月日(曜日) | 担当者 | 授業形態 |
|----|---------------------------|---------------|-----|------|
| 1 | 第1回 熱力学とはどのような分野であるのか | 2026/09/18(金) | 藤本 | 講義 |
| 2 | 第2回 高校の物理の復習 1 | 2026/09/25(金) | 藤本 | 講義 |
| 3 | 第3回 高校の物理の復習 2 | 2026/10/02(金) | 藤本 | 講義 |
| 4 | 第4回 熱平衡状態 | 2026/10/09(金) | 藤本 | 講義 |
| 5 | 第5回 熱と仕事とエネルギー | 2026/10/16(金) | 藤本 | 講義 |
| 6 | 第6回 完全微分と不完全微分 | 2026/10/30(金) | 藤本 | 講義 |
| 7 | 第7回 熱力学の第一法則とその定式化 | 2026/11/06(金) | 藤本 | 講義 |
| 8 | 第8回 カルノーサイクルと熱力学の第二法則 | 2026/11/13(金) | 藤本 | 講義 |
| 9 | 第9回 エントロピーと熱力学第二法則の定式化 | 2026/11/20(金) | 藤本 | 講義 |

| | | | | |
|----|-------------------------|---------------|----|----|
| 10 | 第10回 自由エネルギー | 2026/11/27(金) | 藤本 | 講義 |
| 11 | 第11回 熱力学の応用 | 2026/12/04(金) | 藤本 | 講義 |
| 12 | 第12回 量子力学の考え方 | 2026/12/11(金) | 藤本 | 講義 |
| 13 | 第13回 ボルツマンの原理 | 2026/12/18(金) | 藤本 | 講義 |
| 14 | 第14回 マクスウェル・ボルツマンの分布 | 2027/01/08(金) | 藤本 | 講義 |
| 15 | 第15回 まとめとさらなる学習について | 2027/01/15(金) | 藤本 | 講義 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 教務システムに毎週の講義資料を掲示する。必要に応じてこれを用いた予習復習を指示する。 |
| テキスト | 教務システムに講義資料を掲示するとともに、必要に応じてプリントを配布する。 |
| 参考書 | 物理学の考え方3「熱・統計力学の考え方」 砂川重信 著、岩波書店 "Fundamentals of statistical and thermal physics", F. Reif, McGraw-Hill Inc. |
| 学生へのメッセージ等 | 基本方程式が元々知られていたわけではありませんが、定式化の過程で様々な発見があり、大発展を遂げた分野になります。温度計の発明は熱現象の研究の起源の一つであり、これは医者が深く関わった出来事であったことが知られています；以後も医者立場からこの分野に貢献した人物は少なくありません。結果として、赤外線サーモグラフィ、エアコンの原理などが、医療現場はもとより我々の生活を大きく変えたということになります。 エネルギーの保存則と同時に、そのれき化が導かれ、2つが基本原理なのですが、これらはSDGs学習にも大いに関係があります。高校の物理（化学）の復習から議論を始める予定です；高校物理の学習経験のあるなしにかかわらず、意欲のある人はふるって参加して下さい。数式を用いた議論だけでなく、科学的な事柄、エピソードなども含めてお話しします。 |

| | |
|--------|------------------------|
| 講義コード | I18104A I18104B |
| 講義名称 | 基礎物理学演習 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Basic Physics Exercise |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 藤本 雅文 |
| 全担当教員 | 藤本雅文、高木拓明、北出智巳 |
| 概要 | 基礎物理学の学習を念頭に置いて、講義内容に即した演習問題を考察する。まず、物理学と密接に関連した数学的手法の存在を知る。次に、数学的手法の有用性を理解し、それらを自由に使用する能力を養成する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医学、医療の発展に貢献することを念頭に、様々な物理現象を数式、表、作図を用いて学習し研鑽することができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 力学の法則と波動現象、様々な物理現象の演習を通して、物理学と医学との密接な関わりを説明することができる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 指定された様式に従いノートを作成し、この学習をもとに、レポート、答案の作成、相互添削、説明が行える。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | — |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 現代物理学の研究で明らかになってきた新しい知見を理解し、説明できる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 <ul style="list-style-type: none"> ■ 受講態度（20%）《I》 ■ ノート、小テスト、レポート（50%）《II, IV, VI》 ■ 定期試験（30%）《II, IV, VI》 |
| 出席確認方法 | 次の2つの方法で出席確認を行う： 1) 回ごとに座席表を作成し、本人がその座席で受講したかどうかを教官が確認する。 2) 毎週の小テストの提出で出席確認を行う。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 年月日(曜日) | 担当者 | 授業形態 |
|----|----------------------|------|---------------|----------|------|
| 1 | 第1回 微分と不定積分 | | 2026/04/14(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 2 | 第2回 ベクトル | | 2026/04/21(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 3 | 第3回 定積分 | | 2026/04/28(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 4 | 第4回 変数分離形の微分方程式 | | 2026/05/12(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 5 | 第5回 定係数の2階線形微分方程式 | | 2026/05/19(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 6 | 第6回 座標変換 | | 2026/05/26(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 7 | 第7回 線積分 | | 2026/06/02(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |

| | | | | | |
|----|--------------------|----------------|---------------|----------|----|
| 8 | 第8回 偏微分 | | 2026/06/09(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 9 | 第9回 平面極座標 | | 2026/06/16(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 10 | 第10回 相対座標 | | 2026/06/23(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 11 | 第11回 体積積分 (球対称) | | 2026/06/30(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 12 | 第12回 体積積分 (軸対称) | | 2026/07/07(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 13 | 第13回 表面積分 (球対称) | | 2026/07/14(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 14 | 第14回 フーリエ級数 | | 2026/07/21(火) | 高木/藤本/北出 | 演習 |
| 15 | 第15回 偏微分方程式 | 補講を行う (日程は調整中) | | 高木/藤本/北出 | 演習 |

| | |
|--------------------------|--|
| 授業外学修 (事前学修・事後学修) | 教務システムに掲示した講義資料を参照して、復習を行うことを前提とする。本演習では、この学習をふまえた小テストを行う。 |
| テキスト | 教務システムに資料を掲示する。 |
| 参考書 | 第5版「物理学基礎」 原康夫 著、学術図書 "GENERAL PHYSICS", Sternheim and Kane, John Wiley and Sons |
| 学生へのメッセージ等 | 物理学は対象とする事柄よりもその手法に特徴があります：まず、典型的な観測・実験例のいくつかを分析し基本方程式を導出する。次に、それを解くことで様々な現象が理解できることを示す。 分析ツールとして広く用いられるのは微分法であり、基本方程式は微分方程式、その計算に積分法が必要とされます。これらの演習を行うに際しては、見ているだけでは十分な成果は得られません；示された演習問題を自分のノートに計算し、作図、表等も用いて解いて行って下さい。 最後の定期試験だけでなく、演習では普段の学習をノート、小テスト、レポートの形で評価していきます。 努力賞あり、敢闘賞ありの科目になります。 |

| | |
|--------|--------------------------|
| 講義コード | I18105A I18105B |
| 講義名称 | 基礎物理学実験 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Basic Physics Experiment |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 藤本 雅文 |
| 全担当教員 | 藤本雅文、高木拓明、中村元彦、釣優香、北出智巳、上村尚平 |
| 概要 | 物理現象についての実験、観測を行い、力学、波動、熱などに関する物理法則を知る。同時に、基本的な測定機器の取り扱いや測定結果の解析法を理解する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | <input type="checkbox"/> 医学、医療の発展に貢献することを念頭に、様々な物理現象の実験、観測を行い、学習、研鑽することができる。 <input type="checkbox"/> 実験、観測を行うにあたってのルール、規則を理解し、それを遵守、実践することができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 様々な物理現象について、医学との密接な関わりを説明することができる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <input type="checkbox"/> 実験チームを作り、そのメンバーとして役割を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> 指定された様式に従いノートを作成し、これをもとに、プレゼンテーション、レポート作成ができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | - |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 現代物理学の研究で明らかになってきた新しい知見を理解し、説明できる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 <ul style="list-style-type: none"> ■ 受講態度（20%）《I》 ■ ノート、プレゼンテーション、レポート（50%）《II, IV, VI》 ■ 中間テスト（30%）《I, II, IV, VI》 |
| 出席確認方法 | 次の2つの方法で出席確認を行う： 1) 回ごとに座席表を作成し、本人がその座席で受講したかどうかを教官が確認する。 2) 毎週の実験報告書・レポートを本人が提出したかどうかで出席確認を行う。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|---------------------------------|------|-----------|------|
| 1 | 実験 A マイクロコンピュータ：中心極限定理と誤差の法則 | | 上記より4名の教官 | 実験 |
| 2 | 実験 B ヤング率の測定：最小二乗法を用いた測定値の解析 | | 上記より4名の教官 | 実験 |
| 3 | 実験 C 光の吸収と吸収スペクトル | | 上記より4名の教官 | 実験 |
| 4 | 実験 D マイケルソン干渉計、光の回折と干渉 | | 上記より4名の教官 | 実験 |
| 5 | 実験 E 空気中の音速測定、音の振動数 | | 上記より4名の教官 | 実験 |
| 6 | 実験 F 超音波 | | 上記より4名の教官 | 実験 |
| 7 | 実験 G 空気の比熱比の測定、冷却法による液体の比熱測定 | | 上記より4名の教官 | 実験 |

| | | | | |
|----|-------------------------|---|-------------|----|
| 8 | 実験 H 金属および半導体の電気抵抗 | | 上記より 4 名の教官 | 実験 |
| 9 | 実験 I 合金の熱解析 | | 上記より 4 名の教官 | 実験 |
| 10 | 実験 J 自然放射能の計測 | | 上記より 4 名の教官 | 実験 |
| 11 | 実験 K 電子の比電荷測定、電子線の回折 | | 上記より 4 名の教官 | 実験 |
| 12 | 実験 L フランク・ヘルツの実験 | | 上記より 4 名の教官 | 実験 |
| 13 | 実験 M プランク定数の測定 | | 上記より 4 名の教官 | 実験 |
| 14 | 実験 N オシロスコープ | | 上記より 4 名の教官 | 実験 |
| 15 | 実験 O トランジスタの特性 | | 上記より 4 名の教官 | 実験 |
| 16 | 実験 P ホール効果 | | 上記より 4 名の教官 | 実験 |
| 17 | 注 | 各自が行うテーマと、3、4名の班に分かれて行うテーマがある。 週ごとにテーマを指定し、試験を含め12週の授業を行う。 | | |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 教務システムに提示された資料を参照し、これを用いた予習をノートに行うものとする。 |
| テキスト | 教務システムに資料を掲示する。 |
| 参考書 | 第5版「物理学基礎」 原康夫 著、学術図書 |
| 学生へのメッセージ等 | <p>基本的な測定機器の取り扱い、データの記録及び解析、レポートの作成などは、物理学を専門とするしなやかにかかわらず重要なことである。本実験科目では先ずこれらの作業を重視します。</p> <p>実際に自分自身で操作してみる、計算してみる、まとめる、説明するといったことに積極的に取り組む姿勢はもとより、場合によっては、くり返し行う（やり直す）粘り強さも必要とされます。</p> <p>物理の研究に起源を持つ装置が様々な医療現場で使われる時代になってきております；次に、このことを強調しておきます。</p> <p>学習を通して、医療現場に直結する実験テーマが多くあることがわかるはずです。</p> <p>限られた回数になりますが、多くのことを学習していきましょう。</p> |

| | |
|--------|----------------------|
| 講義コード | I181060 |
| 講義名称 | 分析化学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Analytical Chemistry |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 酒井 宏水 |
| 全担当教員 | 酒井 宏水、田中 裕滋 |
| 概要 | ライフサイエンス全般の研究手段として、さらには診断のための必要情報を得る手段として、様々な分析化学の技術が用いられている。本講義では、物質を構成する原子、分子の構造と性質について物理化学の基本概念についての知識を習得するとともに、主要な機器分析法についてその測定原理や、操作手法などについて知識を習得する。バイオ関連研究/診断における実際の測定例についても紹介する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医学生としての自覚をもって授業に臨み、医学、医療の発展に貢献する使命感と責任感を持つことができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 分析化学と医学（診断・検査・分析）の関わりについて説明できる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | — |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医学・医療の研究に分析化学が関与し、社会に貢献していることを理解できる |
| VI 国際的視野と科学的探究 | <input type="checkbox"/> 国際的視野で分析化学の発展を考えることができる。 <input type="checkbox"/> 医学的発見の基礎となる分析手法の理論と方法論を理解し、説明できる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■受講態度/レポート(5%)《I》 ■ミニツッペーパー提出(10%)《I, II, V, VI》 ■定期試験(85%)の総合評価《II, V, VI》 |
| 出席確認方法 | 出席確認端末及び授業中のミニテストで確認する。 出席確認端末に打刻があっても、ミニテストの回答がない場合は欠席とする。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 年月日(曜日) | 担当者 | 授業形態 |
|----|----------------------------|----------------|---------------|-----|------|
| 1 | 第1回 ライフサイエンスに必要な分析化学（1） | | 2026/04/08(水) | 酒井 | 講義 |
| 2 | 第2回 ライフサイエンスに必要な分析化学（2） | | 2026/04/15(水) | 酒井 | 講義 |
| 3 | 第3回 分光光度法(1) | 紫外・可視光領域 | 2026/04/22(水) | 酒井 | 講義 |
| 4 | 第4回 分光光度法(2) | 紫外・可視光領域、蛍光、燐光 | 2026/04/27(月) | 酒井 | 講義 |
| 5 | 第5回 分光光度法(3) | 赤外光領域 | 2026/05/13(水) | 酒井 | 講義 |
| 6 | 第6回 ESR法、NMR法 | | 2026/05/20(水) | 酒井 | 講義 |
| 7 | 第7回 光学顕微鏡、電子顕微鏡 | | 2026/05/27(水) | 酒井 | 講義 |

| | | | | | |
|----|-----------------------------------|----------|---------------|-------------------|----|
| 8 | 第8回 原子吸光分析、プラズマ発光分光分析、電気化学的測定法 | | 2026/06/03(水) | 酒井 | 講義 |
| 9 | 第9回 ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー | | 2026/06/10(水) | 酒井 | 講義 |
| 10 | 第10回 電気泳動、核酸分析 | | 2026/06/17(水) | 酒井 | 講義 |
| 11 | 第11回 酵素活性測定法、酵素結合免疫測定法 | | 2026/06/29(月) | 酒井 | 講義 |
| 12 | 第12回 質量分析法 | | 2026/07/01(水) | 酒井 | 講義 |
| 13 | 第13回 臨床検査における分析化学の役割 | | 2026/07/06(月) | 田中 裕滋(中央臨床検査部)・酒井 | 講義 |
| 14 | 第14回 同位体分析法 | | 2026/07/15(水) | 酒井 | 講義 |
| 15 | 第15回 分析化学の総括 | 試験内容について | 2026/07/22(水) | 酒井 | 講義 |

| | |
|-------------------------|----------------------------|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | － |
| テキスト | プリント配布、および、教務システムにアップロード |
| 参考書 | 「生命科学のための分析化学」（化学同人） |
| 学生へのメッセージ等 | 医学を極めれば極めるほど、化学の重要性に気づきます。 |

| | |
|--------|-------------------|
| 講義コード | I181070 |
| 講義名称 | 有機化学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Organic Chemistry |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 松平 崇 |
| 全担当教員 | 松平 崇 |
| 概要 | <p>ヒトの体は炭素骨格を基本とした有機化合物で構成されている。</p> <p>生体内の反応のほとんどすべては有機化学反応であり、有機化学の原理に従って進行する。</p> <p>従って、生体内で進行する複雑な反応を根本から理解するためには、有機化学の知識が不可欠である。</p> <p>本科目では、医学専門教育に関連する種々の学問の基礎となる、有機化学の基本的な考え方を習得する。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 医学生としてふさわしい行動を示すことができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 有機化学の基本的な考え方が生体分子の性質や生化学反応にどのように関連しているか説明できる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | - |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 有機化学の発展が医学研究において重要な役割を果たし、社会に貢献していることを理解できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 科学的探求を行う上で基礎となる化学反応のメカニズムを理解できる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | <p>◇内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 受講態度（10%）《I》 ■ 小テスト（10%）《II, V, VI》 ■ 定期試験（80%）《II, V, VI》 |
| 出席確認方法 | 出席確認端末により確認する。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|------|---|-----|------|
| 1 | 第1回 | ガイダンス (なぜ有機化学が必要なのか) 原子の構造 (ヒトの体を構成する主な元素、電子配置と原子軌道) | 松平 | 講義 |
| 2 | 第2回 | 有機化合物の分子軌道 (共有結合の本質、炭素の混成軌道と分子の形の関係) | 松平 | 講義 |
| 3 | 第3回 | 有機酸と有機塩基 (酸と塩基の強さの指標(pKa)、置換基効果) | 松平 | 講義 |
| 4 | 第4回 | 有機化合物のIUPAC命名法 (系統名から構造式を導く) | 松平 | 講義 |
| 5 | 第5回 | 鏡像異性体とジアステレオマー (立体配置の表し方、立体異性体の性質の違い) | 松平 | 講義 |
| 6 | 第6回 | 有機化合物のコンホメーション変化 (ブタン、シクロヘキサン、生体分子のコンホメーション) | 松平 | 講義 |
| 7 | 第7回 | 有機化学反応の機構 (反応機構の表し方、ラジカルの反応、求核置換反応) | 松平 | 講義 |

| | | | | |
|----|------|--|----|----|
| 8 | 第8回 | 生体を構成するカルボニル化合物 (脂肪、脂肪酸の一般的な性質と加水分解反応) | 松平 | 講義 |
| 9 | 第9回 | 触媒作用 (触媒作用の機構、求核性と求電子性) カルボン酸エステルの化学反応 (リボソームにおけるタンパク質合成) | 松平 | 講義 |
| 10 | 第10回 | アルデヒド・ケトンが生成する酸化還元反応 (ヒドリド還元、生体内(in vivo)と試験管内(in vitro)での化学反応) | 松平 | 講義 |
| 11 | 第11回 | 単糖の構造と水溶液中での化学平衡 (糖の鎖状構造と環状構造、アルデヒド・ケトンと主要な官能基との化学反応) | 松平 | 講義 |
| 12 | 第12回 | 糖質の化学 (単糖と多糖の種類と構造、単糖の化学平衡、糖に特有の化学反応) アミノ酸の化学 (アミノ酸の化学構造と性質による分類) | 松平 | 講義 |
| 13 | 第13回 | タンパク質の化学 (アミド結合・ペプチド結合の性質と化学合成) | 松平 | 講義 |
| 14 | 第14回 | 核酸の化学 (DNAとRNAの構造と化学的性質の違い、核酸の化学反応と突然変異) | 松平 | 講義 |
| 15 | 第15回 | 有機合成化学 (炭素-炭素結合を形成する反応が化学工業分野や医薬品開発にもたらした恩恵とは?) | 松平 | 講義 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 授業外学修 (事前学修・ 事後学修) | 講義前に教務システムで配布する資料を活用した予習・復習を行う。 |
| テキスト | 教科書 基礎生命化学-分子から見た私たち-(かきく書房) プリント配布 |
| 参考書 | ボルハルト・ショアー 現代有機化学(上、下巻)(化学同人) 生体分子の化学(化学同人) 化合物命名法(東京化学同人) |
| 学生へのメッセージ等 | 医学を学び、細胞、組織、臓器などを扱うようになると、ヒトの体は原子、分子、イオンで構成されているという自明の事実は忘れ去られてしまいがちです。生体が示す複雑な挙動の本質を理解するためには、分子レベルで構造と性質との関係を探求する必要があります。有機化学の講義は、そのための知識や思考を身につける助けとなるでしょう。 |

| | |
|--------|------------------------|
| 講義コード | I181080 |
| 講義名称 | 生体分子化学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Biomolecular Chemistry |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 山本 惠三 |
| 全担当教員 | 山本 惠三 |
| 概要 | 生体内の反応を理解するためには、生体を構成する分子の化学的性質や反応性を理解することが重要です。本講義では、特にタンパク質と糖に焦点を当て、化学的構造、反応性、速度論的解釈、研究手法等を理解することを目的とします。さらに、医学、医学研究に関するテーマについて、各自で調べて発表してもらう予定です。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | <input type="checkbox"/> 医学生としてふさわしい行動を示すことができる。 <input type="checkbox"/> 生涯にわたる医学研究の基礎を身につけることができる |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 生体分子と医学とのかかわりについて説明できる。 |
| III 医療の実践 | 文献を検索し、医学研究について理解することができる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 協力して研究発表を構築したうえで発表することができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 生体分子がどのように機能しているかを理解できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | リサーチマインドを持ち、医学研究についてアプローチすることができる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 <ul style="list-style-type: none"> ■ 受講態度（10%）《I》 ■ 小テスト（10%）《II、III、V、VI》 ■ 発表（20%）《I、II、III、IV、V、VI》 ■ 定期試験（60%）《II、V、VI》 |
| 出席確認方法 | 出席確認端末及び授業中の小テストの両方で確認する。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 年月日(曜日) | 担当者 | 授業形態 |
|----|------------------------|---|---------------|-----|------|
| 1 | 第1回 講義内容の概説 | 生体分子化学では、どのように講義を進めるのかについて説明します。また、自主研究発表の内容について説明します。 | 2026/04/10(金) | 山本 | 講義 |
| 2 | 第2回 生体分子の立体化学 | 生体分子は高度にホモキラルです。enantiomerの化学についての理解を深める講義を行います。 | 2026/04/17(金) | 山本 | 講義 |
| 3 | 第3回 タンパク質の化学的構造 1 | タンパク質の1～4次構造について、化学的な視点からの理解を深めます。 | 2026/04/24(金) | 山本 | 講義 |
| 4 | 第4回 タンパク質の化学的構造 2 | タンパク質の構造を安定化する相互作用について講義します。 | 2026/05/01(金) | 山本 | 講義 |
| 5 | 第5回 糖の構造と化学反応 | 糖の絶対構造がどのようにして決定されてきたかを理解し、その中で使用された化学反応について説明します。 | 2026/05/08(金) | 山本 | 講義 |
| 6 | 第6回 化学反応と酵素反応の速度論 1 | 化学反応における1次、2次反応と反応速度定数の求め方を理解したうえで、酵素反応が化学反応とどのように異なるのかを速度論的に解釈する方法について説明します。 | 2026/05/15(金) | 山本 | 講義 |

| | | | | | |
|----|--|---|---------------|----|----|
| 7 | 第7回 化学反応と酵素反応の速度論2 | 酵素反応の現代的解釈について説明します。また、阻害剤が存在する場合の酵素反応の速度論について説明します。 | 2026/05/22(金) | 山本 | 講義 |
| 8 | 第8回 リガンドの結合に対する物理化学的解釈 1 | タンパク質にリガンドが結合する場合の物理化学的性質について説明します。 | 2026/05/29(金) | 山本 | 講義 |
| 9 | 第9回 リガンドの結合に対する物理化学的解釈 2, モレキュラークラウド イング | リガンドの結合部位の数と結合数との関係式を求めます。 細胞内はどのような状態になっているかについて、化学的に解釈します。 | 2026/06/05(金) | 山本 | 講義 |
| 10 | 第10回 生体分子を見る方法 1 | 生体（細胞）～生体分子を見る手法について講義します。 | 2026/06/12(金) | 山本 | 講義 |
| 11 | 第11回 生体分子を見る方法 2 | タンパク質を見る手法について講義します。 | 2026/06/19(金) | 山本 | 講義 |
| 12 | 第12回 機能を持つタンパク質を得る方法 | タンパク質を対象とした研究手法とトピックスについて説明します。 | 2026/06/26(金) | 山本 | 講義 |
| 13 | 第13回 自主研究発表 1 | 医学研究に関するトピックスについて調べ、発表してもらいます。 | 2026/07/03(金) | 山本 | 演習 |
| 14 | 第14回 自主研究発表 2 | 医学研究に関するトピックスについて調べ、発表してもらいます。 | 2026/07/10(金) | 山本 | 演習 |
| 15 | 第15回 演習 | 演習を行うことにより、講義内容について理解を深めてもらいます。 | 2026/07/17(金) | 山本 | 演習 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | － |
| テキスト | プリントを配布します。 |
| 参考書 | 参考書 有坂 文雄 蛋白質科学入門（裳華房） ボルハルト、ショアー 現代有機化学（化学同人） 大西 正健 酵素反応速度論入門（学会出版センター） Lehninger Principles of Biochemistry（W. H. Freeman and Company） |
| 学生へのメッセージ等 | 生体分子を化学的に理解することは、将来基礎医学を学ぶ基礎となるとともに、医学研究を行うための必要な知識です。 |

| | |
|--------|--------------------------------|
| 講義コード | I181090 |
| 講義名称 | 医用材料化学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Biomedical Materials Chemistry |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 酒井 宏水 |
| 全担当教員 | 酒井 宏水、武村 潤一 |
| 概要 | 医用材料・人工臓器、ドラッグデリバリーシステム、血液代替物に使われている高機能材料、汎用性材料、さらに研究開発が進められている材料について、化学の視点から構造、物性、生体適合性、安全性に関する知識を習得する。医用材料・人工臓器の実物を目で見、手で触り、特徴を実感する。 また、先進医療技術の課題についての理解を深める。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医学生としての自覚をもって授業に臨み、医学、医療の発展に貢献する使命感と責任感を持つことができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 様々な医用材料が治療に使用されることについて化学的に説明することができる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | — |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医学・医療に医用材料が関与し、社会に貢献していること、またその課題を理解し、説明することができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 医用材料の開発動向や課題を理解し、将来あるべき医療技術の研究開発を考え、リサーチマインドを持つことができる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 <ul style="list-style-type: none"> ■受講態度(5%)《I》 ■ミニッツペーパー(10%)《I, II, V, VI》 ■定期試験(85%)《I, II, V, VI》 |
| 出席確認方法 | 出席確認端末及び授業中のミニッツペーパーで確認する。 出席確認端末に打刻があっても、ミニッツペーパーの回答がない場合は欠席とする。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 年月日(曜日) | 担当者 | 授業形態 |
|----|---------------------------|---------------------------------------|---------------|-----|------|
| 1 | 第1回目 講義の概要・医用材料 | 無機材料 | 2026/09/28(月) | 酒井 | 講義 |
| 2 | 第2回目 医用材料 | 合成高分子材料 | 2026/10/05(月) | 酒井 | 講義 |
| 3 | 第3回目 医用材料 | 生体高分子材料 | 2026/10/15(木) | 酒井 | 講義 |
| 4 | 第4回目 医用材料として用いられる合成高分子 | 合成法と基本物性 | 2026/10/19(月) | 酒井 | 講義 |
| 5 | 第5回目 人工臓器として用いられる医用材料 | 人工骨、人工関節、人工歯根など | 2026/10/26(月) | 酒井 | 講義 |
| 6 | 第6回目 人工臓器として用いられる医用材料 | 人工心臓、人工血管、人工透析など 臓器移植-人工臓器-再生医療の関係 | 2026/11/02(月) | 酒井 | 講義 |

| | | | | | |
|----|---------------------------------------|------------------------|---------------|---------------|----|
| 7 | 第7回目 人工臓器として用いられる医用材料 | アフレス、人工臓器、インターフェース材料など | 2026/11/09(月) | 酒井 | 講義 |
| 8 | 第8回目 臨床外科手術現場における医用材料の使用法の実例 | | 2026/11/16(月) | 武村（心臓血管外科）・酒井 | 講義 |
| 9 | 第9回目 医用材料に求められる生体適合性 | 生体側の変化、材料側の変化 | 2026/11/30(月) | 酒井 | 講義 |
| 10 | 第10回目 医用材料の滅菌操作法、ウィルス不活化・除去法 | | 2026/12/03(木) | 酒井 | 講義 |
| 11 | 第11回目 ドラッグデリバリーシステム(DDS)に使用される材料 | | 2026/12/07(月) | 酒井 | 講義 |
| 12 | 第12回目 リポソーム（1） | 疎水性相互作用とリポソームの形成、機能 | 2026/12/14(月) | 酒井 | 講義 |
| 13 | 第13回目 リポソーム（2） | ドラッグデリバリーシステムへの応用 | 2026/12/21(月) | 酒井 | 講義 |
| 14 | 第14回目 献血-輸血システムの課題、血液成分の役割とその代替物材料 | | 2027/01/04(月) | 酒井 | 講義 |
| 15 | 第15回目 医用材料化学の総括 | 試験について | 2027/01/18(月) | 酒井 | 講義 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | - |
| テキスト | プリント配布 |
| 参考書 | 堀内孝、村林俊 著 「医用材料工学」 コロナ社 橋田充 監修 「図解で学ぶDDS」 じほう |
| 学生へのメッセージ等 | 先進的医療技術を深く理解するには化学が不可欠です。医工連携の学際研究が新しい医用材料を誕生させます。 |

| | |
|--------|---------------------------|
| 講義コード | I18110A I18110B |
| 講義名称 | 基礎化学実験 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Basic Chemical Experiment |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 山本 惠三 |
| 全担当教員 | 山本 惠三、松平 崇、久禮 智子、山田 孫平、菅原 啓祐 |
| 概要 | 医学専門科目の実習の準備として、実験方法の基礎を身につける。 講義や実技を通じて器具や装置の正しい使い方を習得し、実験に臨む態度を身につけるとともに、ノートとレポートの提出を行い、実験記録の取り方、科学論文に準拠した結果のまとめ方を学習する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医学生としてふさわしい行動を示すことができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 医学研究を行う上で基礎となる実験操作や測定方法について理解し、実践することができる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <input type="checkbox"/> メンバーと協力して実験することができる。 <input type="checkbox"/> 実験結果からレポートを作成することができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | - |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 科学的な理論と方法を理解し、実験し、記録することができる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 <ul style="list-style-type: none"> ■ 実習中の受講態度（20%）《I》 ■ 実験ノート（定性実験）（40%）《I、II、VI》 ■ レポート（定量実験）（40%）《I、II、IV、VI》 |
| 出席確認方法 | 13時に担当教員が出席をとることで確認する。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|-------------------|--|----------------|------|
| 1 | 第1回 定性実験ガイダンス | 定性実験についてのガイダンスに加え、基礎化学実験全体で使用する特定化学物質や医薬用外劇物等の取扱いに関する説明を行います。 《使用化学物質》 水酸化ナトリウム・シュウ酸・塩酸・硝酸・硫酸・水酸化カリウム・アンモニア水・塩化スズ・酢酸鉛・クロム酸カリウム・硝酸銀・硝酸鉛 | 山本、松平、久禮、山田、菅原 | 講義 |
| 2 | 第2回 無機陽イオン定性分析 | I 族金属イオンの分離・同定 | 山本、松平、久禮、山田、菅原 | 実習 |
| 3 | 第3回 無機陽イオン定性分析 | II 族金属イオンの分離・同定 | 山本、松平、久禮、山田、菅原 | 実習 |
| 4 | 第4回 無機陽イオン定性分析 | III 族金属イオンの分離・同定 | 山本、松平、久禮、山田、菅原 | 実習 |

| | | | | |
|----|----------------------|--|----------------------------|----|
| 5 | 第5回 実技試験 | 未知試料中に含まれる金属イオンの分離、同定 試験は2グループに分けて行います。 | 山本、松 平、 久禮、山 田、菅原 | 実習 |
| 6 | 第6回 定量実験ガイ ダンス | 6項目（A-1～C-2）の定量実験の説明を行います。定量実験で使用する医薬用外劇物の使用に関する再度の説明を行います。また、器具・装置の使い方を説明します。 | 山本、松 平、 久禮、山 田、菅原 | 講義 |
| 7 | A* 中和滴定 | 滴定結果の統計処理 | 山本、松 平、 久禮、山 田、菅原 | 実習 |
| 8 | B* 中和滴定 | 逆滴定と未知試料の濃度定量 | 山本、松 平、 久禮、山 田、菅原 | 実習 |
| 9 | C* pH測定 | pH滴定曲線の作成と電離定数の決定 | 山本、松 平、 久禮、山 田、菅原 | 実習 |
| 10 | D* pH測定 | 緩衝液の調製と緩衝能の比較 | 山本、松 平、 久禮、山 田、菅原 | 実習 |
| 11 | E* 分光分析 | モル吸光係数の測定 | 山本、松 平、 久禮、山 田、菅原 | 実習 |
| 12 | F* 分光分析 | 擬一次反応速度定数の測定 | 山本、松 平、 久禮、山 田、菅原 | 実習 |
| 13 | | *注：A～Fはローテーションを組んで実験を行うので、順番は前後します。 | | |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 定性実験：英語で書かれた実験テキストを基に、プロトコルをノートに記述する予習を行う。 定量実験：実験終了後に科学論文に準拠した様式のレポートを作成し、提出する。 |
| テキスト | プリントを配布する |
| 参考書 | 実験を安全に行うために 第8版（化学同人） クリスチャン分析化学Ⅰ 基礎（丸善） Introduction To Semimicro Qualitative Analysis（Prentice Hall, Inc.） |
| 学生へのメッセージ等 | 化学実験で習得する手法・実験ノートの記述・レポートの作成方法は、専門科目の実習や医学研究を行うための基礎となります。 安全のため、白衣、保護メガネ（手袋：定性実験）の着用が必須です。 |

| | |
|--------|------------------------------------|
| 講義コード | I241010 |
| 講義名称 | 生命科学概論（基礎） |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択必修 |
| 英文科目名称 | Principles to Life Science(Basics) |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 永淵 昭良 |
| 全担当教員 | 前期：永淵昭良 後期：永淵昭良、小林千余子、裏山悟司 |
| 概要 | 【前期】 永淵：細胞生物学の基本用語を習得し、生命活動の様式を分子・細胞レベルで理解する能力を身につける。 【後期】 永淵・小林・裏山：細胞生物学の基本現象を理解し、それを説明する能力を身につける。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 医学生として、学習内容の把握に真剣に取り組み、自己研鑽に努める。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 生体を構成する細胞と分子について理解し、その働きを説明することができる。 |
| III 医療の実践 | 教科書や参考資料から、目的に応じた内容を見つけ出し、問題を解決することができる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 異なった興味や知識をもった同級生と、意見を交換し、問題を解決することができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | － |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 細胞や分子に基づく知見が、国際的な研究に必要であることを理解し、その重要性を説明することができる。 |

| | |
|------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 【前期】 ■定期試験（90％）《 I, II, VI 》 ■受講態度（10％）《 I 》 【後期】 永淵・小林・裏山： ■定期試験（90％）《 I, II, III, VI 》 ■受講態度（10％）《 I, IV 》 ただし、最終成績は前期×0.2+後期×0.8とする。 |
| | 出席確認方法 前期：毎回の小テスト提出。 後期：毎回の課題提出と教科書持参確認。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|-----------------------|-----|------|
| 1 | 第1回 ガイダンス 生物学学習の意味 | 永淵 | 講義 |
| 2 | 第2回 タンパク質の構成因子と構造 | 永淵 | 講義 |
| 3 | 第3回 複製の基本原則 | 永淵 | 講義 |

| | | | |
|----|-------------------------------|----------|----|
| 4 | 第4回 転写の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 5 | 第5回 翻訳の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 6 | 第6回 生体膜の構成因子と構造 | 永淵 | 講義 |
| 7 | 第7回 細胞骨格とモーター関連因子と基本機能 | 永淵 | 講義 |
| 8 | 第8回 細胞接着関連因子と基本機能 | 永淵 | 講義 |
| 9 | 第9回 細胞周期の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 10 | 第10回 膜電位の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 11 | 第11回 生体における化学変化 | 永淵 | 講義 |
| 12 | 第12回 細胞内区画の基本機能とATP産生の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 13 | 第13回 情報伝達の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 14 | 第14回 細胞生物学から見たがん | 永淵 | 講義 |
| 15 | 第15回 がんの分子生物学 | 永淵 | 講義 |
| 16 | 第16回 複製の理解 1 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 17 | 第17回 複製の理解 2 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 18 | 第18回 転写・翻訳の理解 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 19 | 第19回 翻訳の詳細についての理解 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 20 | 第20回 オルナティブスプライシングの理解 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 21 | 第21回 複製・転写・翻訳のまとめ | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 22 | 第22回 細胞周期の理解 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 23 | 第23回 細胞周期と複製の関連についての理解 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 24 | 第24回 ATP産生の理解 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 25 | 第25回 細胞周期・複製・ATP産生のまとめ | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 26 | 第26回 膜電位の理解 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 27 | 第27回 達成度評価 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 28 | 第28回 DNA修復・アポトーシス・情報伝達の理解 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
| 29 | 第29回 総復讐 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |

| | | | |
|----|--------------------|----------|----|
| 30 | 第30回 最先端の生物学の講義 | 永淵・小林・裏山 | 講義 |
|----|--------------------|----------|----|

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | － |
| テキスト | 教科書 Essential細胞生物学 最新版 南江堂（現時点では原著第5版 2021年） プリント配布 |
| 参考書 | 細胞の分子生物学 最新版 |
| 学生へのメッセージ等 | <p>【前期】 医学の基礎として、また一般教養として重要な生物学の基礎を確実に習得してください。</p> <p>【後期】 永淵・小林・裏山：生物学の基礎を問題を解くことにより、確実に理解してください。</p> |

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 講義コード | I241020 |
| 講義名称 | 生命科学概論（発展） |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択必修 |
| 英文科目名称 | Principles of Life Science(Advanced) |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 永淵 昭良 |
| 全担当教員 | 前期：永淵昭良 後期：後藤弘爾 |
| 概要 | <p>【前期】 永淵：細胞生物学の基本用語を習得し、生命活動の様式を分子・細胞レベルで理解する能力を身につける。</p> <p>【後期】 後藤：生物学の基本概念を習得し、それらがどのような研究によって生み出されてきたのかを理解する。 単なる知識の習得に止まらず、生物学の発想や研究手法、論理展開の方法を学ぶ。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 医学生として、学習内容の把握に真剣に取り組み、自己研鑽に努める。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 生体を構成する細胞と分子について理解し、その働きを説明することができる。 |
| III 医療の実践 | 教科書や参考資料から、目的に応じた内容を見つけ出し、問題を解決することができる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 異なった興味や知識をもった同級生と、意見を交換し、問題を解決することができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | － |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 細胞や分子に基づく知見が、国際的な研究に必要であることを理解し、その重要性を説明することができる。 |

| | |
|------|---|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>【前期】 ■定期試験（90％）《 I, II, VI 》 ■受講態度（10％）《 I 》</p> <p>【後期】 後藤： ■定期試験（70％）《 I, II, III, VI 》 ■受講態度（30％：講義中の小テスト、提出課題、授業参加度）《 I, IV 》</p> <p>ただし、最終成績は前期×0.2+後期×0.8とする。</p> |
| | <p>出席確認方法</p> <p>前期：毎回の小テスト提出。</p> <p>後期：出席確認端末及び授業中のミニテストで確認する。 出席確認端末に打刻があっても、ミニテストの回答がない場合は欠席とする。</p> |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|-----------------------|-----|------|
| 1 | 第1回 ガイダンス 生物学学習の意味 | 永淵 | 講義 |
| 2 | 第2回 タンパク質の構成因子と構造 | 永淵 | 講義 |
| 3 | 第3回 複製の基本原理 | 永淵 | 講義 |

| | | | |
|----|-------------------------------|----|----|
| 4 | 第4回 転写の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 5 | 第5回 翻訳の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 6 | 第6回 生体膜の構成因子と構造 | 永淵 | 講義 |
| 7 | 第7回 細胞骨格とモーター関連因子と基本機能 | 永淵 | 講義 |
| 8 | 第8回 細胞接着関連因子と基本機能 | 永淵 | 講義 |
| 9 | 第9回 細胞周期の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 10 | 第10回 膜電位の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 11 | 第11回 生体における化学変化 | 永淵 | 講義 |
| 12 | 第12回 細胞内区画の基本機能とATP産生の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 13 | 第13回 情報伝達の基本原理 | 永淵 | 講義 |
| 14 | 第14回 細胞生物学から見たがん | 永淵 | 講義 |
| 15 | 第15回 がんの分子生物学 | 永淵 | 講義 |
| 16 | 第16回 生物学の学び方、生物学の歴史 | 後藤 | 講義 |
| 17 | 第17回 生物の特徴 | 後藤 | 講義 |
| 18 | 第18回 生体高分子 | 後藤 | 講義 |
| 19 | 第19回 細胞構造と細胞周期 | 後藤 | 講義 |
| 20 | 第20回 遺伝学 1 (メンデル遺伝とその拡張) | 後藤 | 講義 |
| 21 | 第21回 遺伝学 2 (非メンデル遺伝) | 後藤 | 講義 |
| 22 | 第22回 遺伝学 3 (遺伝子と染色体) | 後藤 | 講義 |
| 23 | 第23回 分子生物学 1 (DNAの構造と複製) | 後藤 | 講義 |
| 24 | 第24回 分子生物学 2 (転写と翻訳) | 後藤 | 講義 |
| 25 | 第25回 分子生物学 3 (遺伝子発現調節) | 後藤 | 講義 |
| 26 | 第26回 分子生物学 4 (分子発生学) | 後藤 | 講義 |
| 27 | 第27回 ウイルス | 後藤 | 講義 |
| 28 | 第28回 DNAテクノロジーと遺伝子工学 | 後藤 | 講義 |
| 29 | 第29回 ゲノム科学 | 後藤 | 講義 |

| | | | |
|----|------------------------|----|----|
| 30 | 第30回 まとめ（ゲノム、発生、進化） | 後藤 | 講義 |
|----|------------------------|----|----|

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | <p>【後期】 後藤：最低1時間の予習、1時間の復習（課題への取り組み）が必要。</p> |
| テキスト | <p>教科書</p> <p>【前期】 Essential細胞生物学 最新版 南江堂（現時点では原著第5版 2021年） プリント配布</p> <p>【後期】 後藤：キャンベル生物学 原書11版以降（原書/日本語版） プリント配布。</p> |
| 参考書 | <p>【前期】 細胞の分子生物学 最新版</p> <p>【後期】 後藤：Molecular Biology of the Cell 原書第7版（原書/日本語版）</p> |
| 学生へのメッセージ等 | <p>【前期】 医学の基礎として、また一般教養として重要な生物学の基礎を確実に習得してください。</p> <p>【後期】 後藤：生物学は医学の基礎となる学問です。 分子遺伝学を中心に、生物学を体系的に学ぶと共に、科学的根拠に基づいて論理的に思考することを身につけてください。 物理選択者に対しても十分な理解が得られるよう配慮します。</p> |

| | |
|--------|-------------------|
| 講義コード | I181120 |
| 講義名称 | 分子生物学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Molecular Biology |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 永淵 昭良 |
| 全担当教員 | 永淵 昭良 |
| 概要 | 生物の複雑な現象を理解するために必要な用語を習得し、複雑な生命活動の様式を分子の言葉で理解し、説明する能力を身につける。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医学生として、学習内容の把握に真剣に取り組み、自己研鑽に努める。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 生体を構成する細胞と分子について理解し、その働きを説明することができる |
| III 医療の実践 | 教科書や参考資料から、目的に応じた内容を見つけ出し、問題を解決することができる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | - |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医学研究に関する基礎知識を習得し、その応用の可能性を考えることができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 細胞や分子に基づく知見が、国際的な研究に必要であることを理解し、その重要性を説明することができる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | ④内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■定期試験（90%）《I, II, III, VI》 ■受講態度・机間指導（10%）《I, V》 |
| 出席確認方法 | 毎回の小テスト提出。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|------------------------|-----|------|
| 1 | 第1回 カドヘリンの歴史 | 永淵 | 講義 |
| 2 | 第2回 クロマチンの構造と機能 | 永淵 | 講義 |
| 3 | 第3回 DNA修復の基本原則 | 永淵 | 講義 |
| 4 | 第4回 細胞骨格とモーターの複雑な機能 | 永淵 | 講義 |
| 5 | 第5回 細胞周期の複雑な調節機構 | 永淵 | 講義 |
| 6 | 第6回 細胞間接着の複雑な機能 | 永淵 | 講義 |
| 7 | 第7回 細胞基質間接着の複雑な機能 | 永淵 | 講義 |
| 8 | 第8回 細胞内区画の複雑な機能 | 永淵 | 講義 |
| 9 | 第9回 小胞輸送の複雑な制御機構 | 永淵 | 講義 |

| | | | |
|----|-------------------------------------|----|----|
| 10 | 第10回 エキソサイトーシス・エンドサイトーシスの制御機構と役割 | 永淵 | 講義 |
| 11 | 第11回 情報伝達－GPCRと酵素共役型 | 永淵 | 講義 |
| 12 | 第12回 情報伝達－サイトカインと形態形成 | 永淵 | 講義 |
| 13 | 第13回 アポトーシスの制御機構 | 永淵 | 講義 |
| 14 | 第14回 がん遺伝子とがん抑制遺伝子 | 永淵 | 講義 |
| 15 | 第15回 がんの複雑さ | 永淵 | 講義 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | － |
| テキスト | Essential細胞生物学 最新版 南江堂（現時点では原著第5版 2021年） プリント配布 |
| 参考書 | 細胞の分子生物学 最新版 |
| 学生へのメッセージ等 | 生物の不思議と複雑さを理解し、全体像を把握してください。 |

| | |
|--------|-------------------------|
| 講義コード | I241090 |
| 講義名称 | 入門生物学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Introduction to Biology |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 小林 千余子 |
| 全担当教員 | 小林 千余子 |
| 概要 | (一般目標) 最近の驚異的な生命科学の発展により、いまや生命科学の理解なしに「いのち」を理解することは出来ない。生命科学に関する基礎知識を習得し、「生きているしくみ」を細胞および分子レベルで理解する能力を養う。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 将来の医療人として、ふさわしい行動を示すことができる |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <input type="checkbox"/> 細胞や生体を構成する物質（タンパク質、DNA）のはたらきについて、概略を説明することができる <input type="checkbox"/> 生殖と発生について、概略を説明することができる |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | - |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 自然科学研究を基とした医学の研究と開発が社会に貢献することを理解できる |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 自然科学研究で明らかになった新しい知見や、その発見の基礎となった科学的理論と方法論を理解し、説明できる |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■ 受講態度、課題、小テスト（10%）《 I, II, V, VI 》 ■ 定期試験（90%）《 II, V, VI 》 |
| 出席確認方法 | 出席確認端末および授業中の質疑応答 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 年月日(曜日) | 担当者 | 授業形態 |
|----|------------------------|---------------|-----|------|
| 1 | 第1回 生物と細胞、生体を構成する物質 | 2026/09/28(月) | 小林 | 講義 |
| 2 | 第2回 生物と遺伝子、ゲノム | | 小林 | 講義 |
| 3 | 第3回 細胞周期 | | 小林 | 講義 |
| 4 | 第4回 遺伝情報の分配 | | 小林 | 講義 |
| 5 | 第5回 DNAの複製 | | 小林 | 講義 |
| 6 | 第6回 遺伝情報の転写 | | 小林 | 講義 |
| 7 | 第7回 遺伝情報の翻訳 | | 小林 | 講義 |
| 8 | 第8回 遺伝子の発現調節 | | 小林 | 講義 |

| | | | | |
|----|-----------------------|--|----|----|
| 9 | 第9回 バイオテクノロジー 基礎編 | | 小林 | 講義 |
| 10 | 第10回 バイオテクノロジー 応用編 | | 小林 | 講義 |
| 11 | 第11回 生殖と減数分裂 | | 小林 | 講義 |
| 12 | 第12回 配偶子形成 | | 小林 | 講義 |
| 13 | 第13回 受精と発生 | | 小林 | 講義 |
| 14 | 第14回 再生現象 再生医療技術 | | 小林 | 講義 |
| 15 | 第15回 総復習とまとめ | | 小林 | 講義 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | － |
| テキスト | Essential 細胞生物学 最新版, 高校教科書 基礎生物 生物, プリント配布 |
| 参考書 | 「細胞の分子生物学」最新版 ニュートンプレス |
| 学生へのメッセージ等 | 高校で生物学を履修していない学生を対象に、高校レベルからはじめ、基礎医学履修への橋渡しをする。 生命科学概論（基礎）と、連携した講義を行うこともあり、授業計画は前後することがある。 |

| | |
|--------|---------------|
| 講義コード | I241100 |
| 講義名称 | 基礎生物学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Basic Biology |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 裏山 悟司 |
| 全担当教員 | 裏山 悟司 |
| 概要 | 生命の捉え方・生命活動の様式について、専門教育課程で学ぶための基礎知識を習得することを目的とする。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医学生としてとしてふさわしい行動を示すことができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 生命科学の基礎的な現象について、適切な用語を用いて説明することができる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 教員の指示を理解し、適切なレポートを作成することができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 生命科学の基礎的な現象を理解することにより、将来学ぶ様々な疾患についてより深く理解することができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 生命科学の基礎的な現象を理解することにより、科学的研究で明らかになった新しい知見をより深く理解することができる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■定期試験 (80%) < II > ■受講態度/小テスト/中テスト/レポート (20%) < I, II, IV, V, VI > |
| 出席確認方法 | 授業中に実施する小テストと、Microsoft Formsによるアンケートの双方を持って出席とする。 どちらか一方しか実施しない授業回もある。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|---------------------------------|------|-----|------|
| 1 | 第1回 ガイダンス/細胞と分子 I | | 裏山 | 講義 |
| 2 | 第2回 細胞と分子 II | | 裏山 | 講義 |
| 3 | 第3回 DNAの構造と機能 I (DNAの複製) | | 裏山 | 講義 |
| 4 | 第4回 DNAの構造と機能 II (DNAの複製、修復) | | 裏山 | 講義 |
| 5 | 第5回 遺伝子発現(転写、翻訳) | | 裏山 | 講義 |
| 6 | 第6回 エネルギーと代謝 I (細胞内呼吸) | | 裏山 | 講義 |
| 7 | 第7回 エネルギーと代謝 II (細胞内呼吸、光合成) | | 裏山 | 講義 |

| | | | | |
|----|-----------------------|--|----|----|
| 8 | 第8回 体細胞分裂 | | 裏山 | 講義 |
| 9 | 第9回 減数分裂、初期発生 | | 裏山 | 講義 |
| 10 | 第10回 復習1 | (1)便宜上、10回目に記載しているが進捗状況に応じて実施回は前後する。 (2)授業の進捗が遅い場合には、復習回は通常授業進行となる。 | 裏山 | 講義 |
| 11 | 第11回 生物工学(遺伝子工学) | | 裏山 | 講義 |
| 12 | 第12回 体の成り立ちと恒常性の維持 | | 裏山 | 講義 |
| 13 | 第13回 免疫 | | 裏山 | 講義 |
| 14 | 第14回 中テスト | (1)便宜上、14回目に記載しているが進捗状況に応じて実施。実施日はあらかじめ通知する。状況によっては、未実施の可能性もあり。 (2)実施するとしても中テストのみではなく、前後どちらかの授業項目の講義を実施予定 | 裏山 | 講義 |
| 15 | 第15回 復習2 | (1)最終回を予定しているが、授業の進行が遅れている場合、未実施の単元を実施する場合あり。 (2)必要に応じて、14回目までに振り分ける可能性あり。 | 裏山 | 講義 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修(事前学修・事後学修) | — |
| テキスト | — |
| 参考書 | <p>教科書 特に指定しないが、参考図書のを1冊読破することを推奨する。詳しくは初回の授業で言及する。 ※なお、Essential 細胞生物学 原書第5版 / 中村桂子 松原謙一 榎佳之 水島昇 監訳 / 南江堂、の内容を必要に応じて取り扱うので持参することが望ましい; こちらは生命科学概論(必修;授業コード; I27013)のテキストになっている。</p> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の基礎生物、生物の教科書、およびそれに対する参考書全般 ・生物学・細胞生物学 第3版 / 和田勝 著 / 羊土社 ・やさしい基礎生物学 第3版 / 南雲保 著 / 羊土社 ・理系総合のための生命科学 第4版 / 東京大学生命科学教科書編集委員会 編 / 羊土社 ・スター生物学 / 八杉貞雄 監訳 / 東京科学同人 |
| 学生へのメッセージ等 | <p>1. 基礎生物学は高校生物非履修者を対象とした基礎的な授業となる。高校生物履修者など、基礎的な生物学の知識を既に身につけている学生は、本講義と同じ時間に開講されている分子生物学(授業コード; I25015)の受講を強く勧める。</p> <p>2. 学生の習熟度をみつつ授業進行を行うので、状況により、シラバスと実際の進行速度、および順序が異なる場合がある。 ※特に生命科学概論の進行に合わせた単元を実施する場合あり。</p> |

| | |
|--------|--------------------------|
| 講義コード | I18114A I18114B |
| 講義名称 | 基礎生物学実験 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Basic Biology Experiment |

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 科目責任者 | 永淵 昭良 |
| 全担当教員 | 永淵昭良、小林千余子、裏山悟司、川島牧、秋山康子、後藤弘爾 |
| 概要 | 生物学に関する一般的な知識、および基礎実験の手法と考え方を身につける。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 共用の実習用機器の重要性を理解し、丁寧に取り扱うことができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | □ 生体を構成する臓器、組織、細胞の形態や名称を理解し、説明することができる。 □ 生物学研究の大きな柱である、分子生物学的実験の基礎と手法を理解し、実際に行うことができる。 |
| III 医療の実践 | 遺伝子情報のデータベースについて理解し、操作することができる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 機器や情報の共有を介して、班員と良好で生産的な関係を築くことができる |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医学研究にも使われる機器の名称と使用方法を理解し、その応用の可能性を考えることができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 細胞や分子に基づく知見が、国際的な研究に必要であることを理解し、その重要性を説明することができる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■ レポート（受講態度を含む）100% 《 I, II, III, IV, V, VI 》 |
| 出席確認方法 | レポート提出。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|----------------------------------|-----|------|
| 1 | 第1回 光学顕微鏡観察Ⅰ 光学顕微鏡の使い方講習 | 全教員 | 実習 |
| 2 | 第2回 光学顕微鏡観察Ⅱ 腎臓の切片（ハツカネズミ）の観察 | 全教員 | 実習 |
| 3 | 第3回 光学顕微鏡観察Ⅲ 動物細胞、植物細胞の観察① | 全教員 | 実習 |
| 4 | 第4回 光学顕微鏡観察Ⅳ 動物細胞、植物細胞の観察② | 全教員 | 実習 |
| 5 | 第5回 光学顕微鏡観察Ⅴ 植物細胞の浸透圧変化の観察① | 全教員 | 実習 |
| 6 | 第6回 光学顕微鏡観察Ⅵ 植物細胞の浸透圧変化の観察② | 全教員 | 実習 |
| 7 | 第7回 光学顕微鏡観察Ⅶ 血球の観察① | 全教員 | 実習 |
| 8 | 第8回 光学顕微鏡観察Ⅷ 血球の観察② | 全教員 | 実習 |
| 9 | 第9回 光学顕微鏡観察Ⅸ 脊椎動物の組織切片の観察① | 全教員 | 実習 |

| | | | |
|----|---|-----|----|
| 10 | 第10回 光学顕微鏡観察 X 脊椎動物の組織切片の観察② | 全教員 | 実習 |
| 11 | 第11回 資料作成 I 本実習内容に関する発表資料作成① | 全教員 | 実習 |
| 12 | 第12回 資料作成 II 本実習内容に関する発表資料作成② | 全教員 | 実習 |
| 13 | 第13回 発表 I 資料作成 I・IIで作成した資料の発表 I | 全教員 | 実習 |
| 14 | 第14回 発表 II 資料作成 I・IIで作成した資料の発表 II | 全教員 | 実習 |
| 15 | 第15回 分子生物学実験 I 実験機器の名称と使用法の把握① | 全教員 | 実習 |
| 16 | 第16回 分子生物学実験 II 実験機器の名称と使用法の把握② | 全教員 | 実習 |
| 17 | 第17回 分子生物学実験 III 制限酵素処理と電気泳動 | 全教員 | 実習 |
| 18 | 第18回 分子生物学実験 IV プラスミド DNA 配列情報の解析 | 全教員 | 実習 |
| 19 | 第19回 分子生物学実験 V PCR 反応の原理、DNA 解析方法の習得 | 全教員 | 実習 |
| 20 | 第20回 分子生物学実験 VI プラスミドをテンプレートにした PCR 反応 | 全教員 | 実習 |
| 21 | 第21回 分子生物学実験 VII PCR 反応産物の解析、ゲノム DNA をテンプレートにした PCR 反応 | 全教員 | 実習 |
| 22 | 第22回 分子生物学実験 VIII ゲノム DNA 情報処理方法の習得 | 全教員 | 実習 |
| 23 | 第23回 分子生物学実験 IX PCR 反応産物の制限酵素処理による確認 | 全教員 | 実習 |
| 24 | 第24回 分子生物学実験 X ゲノム情報処理の応用 (cDNA とゲノム DNA の違いの把握) | 全教員 | 実習 |

| | |
|--------------------------|-------------------------|
| 授業外学修 (事前学修・事後学修) | - |
| テキスト | プリントを配布する。 |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 状況により、授業の順番が前後する可能性がある。 |

| | |
|--------|----------|
| 講義コード | I26101A |
| 講義名称 | 微積分学A |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Calculus |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 安田 順平 |
| 全担当教員 | 安田 順平 |
| 概要 | 関数近似を大きなテーマとし、高校数学の先にある微積分を学ぶ。三角関数や指数関数、対数関数などよく知られた初等関数であっても、具体的に与えられた入力値に対し出力値を知ることは意外に困難である。それをどのようにして求めるのか、またそれが可能になると何が起るのか。関数近似の手法とそこから得られる様々な知見や応用を眺めながら、解析学に関する教養を深める。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医師にとって必要不可欠な自分の頭で考える力を身に付けている。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 医学や自然科学を背後から支える数学の基礎理論を説明できる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | - |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | - |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 自然科学の共通言語である数学を学び、柔軟な発想の大切さを理解している。 数学の学習を通して良い意味での批判精神を身に付け、物事を真に自由に考えることができる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 受講態度(10%)《I》 定期試験(90%)《II,VI》 |
| 出席確認方法 | 講義終了時にレポートを提出してもらう。詳細については初回の講義で説明する。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|---------------------|-----|------|
| 1 | いろいろな関数 | 安田 | 講義 |
| 2 | 連続性、微分可能性 | 安田 | 講義 |
| 3 | 中間値の定理、平均値の定理 | 安田 | 講義 |
| 4 | コーシーの平均値の定理、ロピタルの定理 | 安田 | 講義 |
| 5 | テイラー展開(1) | 安田 | 講義 |
| 6 | テイラー展開(2) | 安田 | 講義 |
| 7 | ここまでの学習のまとめと復習 | 安田 | 講義 |
| 8 | 広義積分 | 安田 | 講義 |
| 9 | 累次積分と重積分 | 安田 | 講義 |
| 10 | 重積分の変数変換 | 安田 | 講義 |
| 11 | 重積分の応用 | 安田 | 講義 |
| 12 | フーリエ級数展開 | 安田 | 講義 |
| 13 | 複素フーリエ級数展開 | 安田 | 講義 |

| | | | |
|----|----------------|----|----|
| 14 | フーリエ変換 | 安田 | 講義 |
| 15 | これまでの学習のまとめと復習 | 安田 | 講義 |

| | | | |
|-------------------------|--|--|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | - | | |
| テキスト | 教科書 難波誠 著 「微分積分学」 裳華房 | | |
| 参考書 | 参考書 三宅敏恒 著 「入門微分積分」 培風館 | | |
| 学生へのメッセージ等 | 微積分学について、理論と応用の両面を学んでいきます。幅広い話題を扱いますが、講義をしっかりと聞いていれば十分理解可能な内容です。高校までの学習内容は既知としますが、状況に応じて復習しながら講義を進めます。なお、理解度や講義の進度によって内容が変更になる場合もあります。 | | |

| | |
|--------|----------|
| 講義コード | I26101B |
| 講義名称 | 微積分学B |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Calculus |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 川口 良 |
| 全担当教員 | 川口 良 |
| 概要 | 関数近似を大きなテーマとし、高校数学の先にある微積分を学ぶ。三角関数や指数関数、対数関数などよく知られた初等関数であっても、具体的に与えられた入力値に対し出力値を知ることは意外に困難である。それをどのようにして求めるのか、またそれが可能になると何が起るのか。関数近似の手法とそこから得られる様々な知見や応用を眺めながら、解析学に関する教養を深める。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 医師にとって必要不可欠な自分の頭で考える力を身に付けている。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 医学や自然科学を背後から支える数学の基礎理論を説明できる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | - |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | - |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 自然科学の共通言語である数学を学び、柔軟な発想の大切さを理解している。 数学の学習を通して良い意味での批判精神を身に付け、物事を真に自由に考えることができる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 受講態度(10%)《I》 定期試験(90%)《II,VI》 |
| 出席確認方法 | 学生証タッチによる出欠管理システム。小テストを実施する場合もある。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|------------------|-----|------|
| 1 | いろいろな関数 | 川口 | 講義 |
| 2 | 平均値の定理の再考とテイラー展開 | 川口 | 講義 |
| 3 | テイラー展開による関数近似 | 川口 | 講義 |
| 4 | テイラー展開の応用 | 川口 | 講義 |
| 5 | 広義積分 | 川口 | 講義 |
| 6 | 広義積分の応用 | 川口 | 講義 |
| 7 | 累次積分 | 川口 | 講義 |
| 8 | 重積分 | 川口 | 講義 |
| 9 | 重積分の変数変換 | 川口 | 講義 |
| 10 | フーリエ級数展開 | 川口 | 講義 |
| 11 | 複素フーリエ級数展開 | 川口 | 講義 |
| 12 | フーリエ変換 | 川口 | 講義 |
| 13 | フーリエ変換の応用（1） | 川口 | 講義 |

| | | | |
|----|----------------|----|----|
| 14 | フーリエ変換の応用（2） | 川口 | 講義 |
| 15 | これまでの学習のまとめと復習 | 川口 | 講義 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | － |
| テキスト | 難波誠 著「微分積分学」裳華房 |
| 参考書 | 三宅敏恒 著「入門微分積分」培風館 |
| 学生へのメッセージ等 | 微積分学について、理論と応用の両面を学んでいきます。幅広い話題を扱いますが、講義をしっかりと聞いていれば十分理解可能な内容です。高校までの学習内容は既知としますが、状況に応じて復習しながら講義を進めます。なお、理解度や講義の進度によって内容が変更になる場合があります。 |

| | |
|--------|----------------|
| 講義コード | I26102A |
| 講義名称 | 線形代数学A |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Linear Algebra |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 安田 順平 |
| 全担当教員 | 安田 順平 |
| 概要 | 線形代数学は微分積分学と並ぶ数学の基本分野であり、統計学や機械学習などへの応用も幅広い。本講義では、行列の基本や行列式、逆行列といった概念を学習し、それらを連立一次方程式の解法に応用する方法を学ぶ。さらに線形写像やその性質について講義する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医師にとって必要不可欠な自分の頭で考える力を身に付けている。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 医学や自然科学を背後から支える数学の基礎理論を説明できる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | - |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | - |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 自然科学の共通言語である数学を学び、柔軟な発想の大切さを理解している。 数学の学習を通して良い意味での批判精神を身に付け、物事を真に自由に考えることができる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■受講態度（10%）《I,VI》 ■定期試験（90%）《I,II,VI》 |
| 出席確認方法 | 講義終了時にレポートを提出してもらう。詳細については初回の講義で説明する。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|-----------------------|-----|------|
| 1 | ベクトルと行列 | 安田 | 講義 |
| 2 | 行列の演算 | 安田 | 講義 |
| 3 | 行列と連立一次方程、係数行列と拡大係数行列 | 安田 | 講義 |
| 4 | 行列の基本変形と連立一次方程式 | 安田 | 講義 |
| 5 | 行列の階数と解の関係 | 安田 | 講義 |
| 6 | 逆行列と正則行列 | 安田 | 講義 |
| 7 | 行列式 | 安田 | 講義 |
| 8 | 逆行列と連立一次方程式 | 安田 | 講義 |
| 9 | ベクトル空間、部分空間 | 安田 | 講義 |
| 10 | 一次独立と一次従属 | 安田 | 講義 |
| 11 | 基底と次元 | 安田 | 講義 |
| 12 | 写像と線形写像、核と像 | 安田 | 講義 |
| 13 | 線形変換、表現行列 | 安田 | 講義 |
| 14 | 固有値と固有ベクトル | 安田 | 講義 |

| | | | |
|----|--------|----|----|
| 15 | 行列の対角化 | 安田 | 講義 |
|----|--------|----|----|

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | - |
| テキスト | 三宅久恒「線形代数学-初歩からジョルダンの標準形へ-」培風館 |
| 参考書 | - |
| 学生へのメッセージ等 | <p>線形代数学は高校では習っていない内容ですが、データ分析や機械学習に応用されるなど、近年その重要性が特に増している分野です。</p> <p>初めて聞く概念がたくさん出てきますが、講義をしっかりと聞いていれば十分理解可能な内容です。状況に応じて復習しながら講義を進め、理解度や講義の進度によって内容が変更になる場合があります。</p> |

| | |
|--------|----------------|
| 講義コード | I26102B |
| 講義名称 | 線形代数学B |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Linear Algebra |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 川口 良 |
| 全担当教員 | 川口 良 |
| 概要 | 線形代数学は微分積分学と並ぶ数学の基本分野であり、統計学や機械学習などへの応用も幅広い。本講義では、行列の基本や行列式、逆行列といった概念を学習し、それらを連立一次方程式の解法に応用する方法を学ぶ。さらに線形写像やその性質について講義する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医師にとって必要不可欠な自分の頭で考える力を身に付けている。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 医学や自然科学を背後から支える数学の基礎理論を説明できる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | - |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | - |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 自然科学の共通言語である数学を学び、柔軟な発想の大切さを理解している。 数学の学習を通して良い意味での批判精神を身に付け、物事を真に自由に考えることができる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■受講態度（10%）《I,VI》 ■定期試験（90%）《I,II,VI》 |
| 出席確認方法 | 学生証タッチによる出欠管理システム。小テストを実施する場合もある。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|-----------------------|-----|------|
| 1 | ベクトルと行列 | 川口 | 講義 |
| 2 | 行列の演算 | 川口 | 講義 |
| 3 | 行列と連立一次方程、係数行列と拡大係数行列 | 川口 | 講義 |
| 4 | 行列の基本変形と連立一次方程式 | 川口 | 講義 |
| 5 | 行列の階数と解の関係 | 川口 | 講義 |
| 6 | 逆行列と正則行列 | 川口 | 講義 |
| 7 | 行列式 | 川口 | 講義 |
| 8 | 逆行列と連立一次方程式 | 川口 | 講義 |
| 9 | ベクトル空間、部分空間 | 川口 | 講義 |
| 10 | 一次独立と一次従属 | 川口 | 講義 |
| 11 | 基底と次元 | 川口 | 講義 |
| 12 | 写像と線形写像、核と像 | 川口 | 講義 |
| 13 | 線形変換、表現行列 | 川口 | 講義 |
| 14 | 固有値と固有ベクトル | 川口 | 講義 |

| | | | |
|----|--------|----|----|
| 15 | 行列の対角化 | 川口 | 講義 |
|----|--------|----|----|

| | |
|-----------------------------------|---|
| 授業外学修 (事前学修・ 事後学修) | － |
| テキスト | 三宅久恒「線形代数学-初歩からジョルダンの標準形へ-」培風館 |
| 参考書 | － |
| 学生へのメッ セージ等 | 線形代数学は高校では習っていない内容ですが、データ分析や機械学習に応用されるなど、近年その重要性が特に増している分野です。初めて聞く概念がたくさん出てきますが、講義をしっかりと聞いていれば十分理解可能な内容です。状況に応じて復習しながら講義を進め、理解度や講義の進度によって内容が変更になる場合もあります。 |

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 講義コード | I26103A I26103B |
| 講義名称 | データサイエンス・AI入門 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Introduction to Data Science and AI |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 野島 陽水 |
| 全担当教員 | 野島 陽水 |
| 概要 | <p>近年、医療分野において、ビッグデータの活用・人工知能（AI）の発展により、診断・予測・治療方針決定の高度化が急速に進んでいる。本講義では、医療従事者がデータサイエンス・AIを学ぶ必要性や様々なデータサイエンス・AIに関する手法を解説すると共に、それらが臨床および研究の現場でどのように活用されているか、実例を交えて講義する。</p> <p>加えて、データサイエンス・AIの基本的な構造を理解し、プログラミング言語を用いて各自のコンピュータ上で再現することを目指す。授業計画の《》内のコード：MDASH（数理・データサイエンス・AI教育プログラム）リテラシーレベルモデルカリキュラム（2024年2月22日改訂）</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | データサイエンス・AIを医療に応用する際の課題を理解する。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | データサイエンス・AIの基礎となる数学を理解する。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | データサイエンス・AIの基本的な構造を理解し、プレゼンテーションを行うことができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | データサイエンス・AIに関連した手法が医療現場でどのように活用されているか説明することができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 国際的視野をもって、データサイエンス・AIの基礎を理解し、新しい活用を立案できる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ■受講態度（10%）《I》 ■レポート（10%）《IV,VI》 ■定期試験（80%）《II,IV,V,VI》 |
| 出席確認方法 | 出席確認端末 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|------|--|-----|------|
| 1 | 第1回 | <p>データサイエンス・AIを学ぶ意義</p> <p>医療におけるデータサイエンス・AIの活用例・活用領域</p> <p>医療現場で活用されているデータ</p> <p>キーワード：データサイエンスのサイクル、AI最新技術の活用例、データ・AI活用領域の広がり、画像データの処理</p> <p>《1-5》《1-6》《1-3》《4-6》</p> | 野島 | 講義 |
| 2 | 第2回 | <p>代表値・散布度、分布</p> <p>キーワード：データ可視化（2軸グラフ）、データの種類（量的変数、質的変数）、データの分布（ヒストグラム）と代表値（平均値、中央値、最頻値）、確率</p> <p>《1-4》《2-1》《4-1》</p> | 野島 | 講義 |
| 3 | 第3回 | <p>プログラミング1</p> <p>キーワード：データの取得、データの集計（和、平均）、表形式のデータ（csv）、変数、代入、プログラミング</p> <p>《1-5》《2-3》《4-3》《4-7》</p> | 野島 | 講義 |
| 4 | 第4回 | <p>相関分析</p> <p>キーワード：実験データ、構造化データ、データのオープン化（オープンデータ）、データ可視化（2軸グラフ、関係性の可視化）、相関と因果（相関係数、交絡）、データ表現（散布図）</p> <p>《1-2》《1-4》《2-1》《2-2》</p> | 野島 | 講義 |

| | | | | |
|----|------|--|----|----|
| 5 | 第5回 | <p>回帰分析 キーワード：実験データ、構造化データ、データのオープン化（オープンデータ）、データ可視化（2軸グラフ、関係性の可視化）、相関と因果（相関係数、交絡）、データ表現（散布図）、データの分析（単回帰分析） 《1-2》《1-4》《2-1》《2-2》《4-8》</p> | 野島 | 講義 |
| 6 | 第6回 | <p>相関分析・回帰分析の実装 キーワード：実験データ、構造化データ、データのオープン化（オープンデータ）、データ可視化（2軸グラフ、関係性の可視化）、相関と因果（相関係数、交絡）、データ表現（散布図）、データの分析（単回帰分析）、プログラミング 《1-2》《1-4》《2-1》《2-2》《4-8》《4-7》</p> | 野島 | 講義 |
| 7 | 第7回 | <p>プログラミング2 キーワード：データの取得、データの集計（和、平均）、表形式のデータ（csv）、変数、代入、プログラミング 《2-3》《4-3》《4-7》</p> | 野島 | 講義 |
| 8 | 第8回 | <p>機械学習の概要 キーワード：教師あり学習による予測（罹患予測）、教師なし学習によるグルーピング 《4-8》《4-9》</p> | 野島 | 講義 |
| 9 | 第9回 | <p>古典的機械学習により患者データで分類モデルを構築 キーワード：ビッグデータ、実験データ、構造化データ、データのオープン化（オープンデータ）、教師あり学習による予測（罹患予測）、データの取得、データの集計（和、平均）、表形式のデータ（csv）、変数、代入、プログラミング 《1-1》《1-2》《4-8》《2-3》《4-3》《4-7》</p> | 野島 | 講義 |
| 10 | 第10回 | <p>古典的機械学習により患者データで回帰モデルを構築 キーワード：ビッグデータ、実験データ、構造化データ、データのオープン化（オープンデータ）、教師あり学習による予測（罹患予測）、データの取得、データの集計（和、平均）、表形式のデータ（csv）、変数、代入、プログラミング 《1-1》《1-2》《4-8》《2-3》《4-3》《4-7》</p> | 野島 | 講義 |
| 11 | 第11回 | <p>深層学習により患者データで分類モデルを構築 キーワード：ビッグデータ、実験データ、構造化データ、データのオープン化（オープンデータ）、教師あり学習による予測（罹患予測）、データの取得、データの集計（和、平均）、表形式のデータ（csv）、変数、代入、プログラミング 《1-1》《1-2》《4-8》《2-3》《4-3》《4-7》</p> | 野島 | 講義 |
| 12 | 第12回 | <p>深層学習により患者データで回帰モデルを構築 キーワード：ビッグデータ、実験データ、構造化データ、データのオープン化（オープンデータ）、教師あり学習による予測（罹患予測）、データの取得、データの集計（和、平均）、表形式のデータ（csv）、変数、代入、プログラミング 《1-1》《1-2》《4-8》《2-3》《4-3》《4-7》</p> | 野島 | 講義 |
| 13 | 第13回 | <p>医療データを使った自然言語処理 キーワード：非構造化データ（文章）、データのオープン化（オープンデータ）、非構造化データ処理（言語処理）、単語分割 《1-2》《1-4》《4-5》</p> | 野島 | 講義 |
| 14 | 第14回 | <p>生成AIの概要 キーワード：AI最新技術の活用例（生成AI）、大規模言語モデル、生成AIを活用したデータ加工 《1-6》《4-7》</p> | 野島 | 講義 |
| 15 | 第15回 | 講義のまとめ | 野島 | 講義 |

| | |
|----------------------|--|
| 授業外学修 （事前学修・事後学修） | — |
| テキスト | <p>教員が作成した講義資料を配布またはWebページを案内する。 必要に応じて授業中に参考図書を紹介する。</p> |
| 参考書 | — |
| 学生へのメッセージ等 | <p>本講義では、医療の現場で急速に重要性が高まっているデータサイエンスやAIの基礎を学びます。AIは一部の専門家だけのものではなく、将来医療に携わるすべての人にとって必要不可欠な素養となりつつあります。本講義を通じて、医学的課題をデータの視点から捉え、AIを理解し適切に活用できる力の習得を目指します。</p> |

| | |
|--------|----------------------------------|
| 講義コード | I261050 |
| 講義名称 | 医用画像データサイエンス |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Data Science for Medical Imaging |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 佐藤 嘉伸 |
| 全担当教員 | 佐藤 嘉伸 |
| 概要 | <p>医療・生命科学において、医用画像およびそれら画像データを活用するためのデータサイエンスの重要性が増している。本講義では、将来、臨床業務や医学研究で扱うであろう大量の医用画像データ（医用画像ビッグデータ）の解析や可視化、これらデータを活用したAIの開発等を行うための基礎となる数学とデータサイエンスを学ぶ。実際に、コンピュータによる医用画像データ解析を行うことで、講義内容の理解を深める。本講義では、医用画像に関連するデータサイエンスの各理論や医用画像撮像原理の基本概念を理解することで、洞察力をもって画像データ解析ソフトウェアを活用でき、さらに興味のある学生は、プログラムを作成して画像データ解析を行えるようになることを重視する。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 臨床現場で得られる医用画像を中心とする患者データや生命科学実験で得たデータの重要性和プライバシーの問題を把握した上で、その貴重なデータをフル活用できるためのデータサイエンスの素養を身につけ、医療の質向上や新しい生命科学研究への貢献を目指して行動できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 画像を中心とした医療データ・生命科学データを活用した診断・治療や基礎研究のために必要なデータ解析法を説明できる。 |
| III 医療の実践 | 医用画像データと付随する臨床データ等を用いて、数学的意味を理解した上で、医療に貢献するデータ解析を行うことができる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 医用画像を対象としたデータサイエンスとその基礎となる数学の意義をレポートなどで述べるができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医師として、日常臨床で積み重ねた医用画像を中心とする医療データが、データサイエンスの素養をもつことで、より意義の高い解析につなげることができ、社会に貢献することが理解できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 国際的な視野において、医学と諸科学の融合研究の重要性を、特に、医用画像、データサイエンス、その基礎となる数学との融合において理解し、説明できる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■受講態度（20%）《I》</p> <p>■演習課題のレポート（80%）《II,III,IV,V,VI》</p> |
| 出席確認方法 | 学生証による出席確認端末のデータに基づいて出席を確認する。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|-------------------------|---|-------|------|
| 1 | 第1回 医用画像データサイエンス概論 | 本講義全体の目的・要点の直観的な説明および具体的な医学応用事例の紹介 | 佐藤 嘉伸 | 講義 |
| 2 | 第2回 医用画像データサイエンスの基礎数学 | 医用画像データサイエンスの基礎となる微積分学および線形代数学概論（必須科目「微積分学および線形代数学」の予習/復習を含む） | 佐藤 嘉伸 | 講義 |
| 3 | 第3回 医用画像ビッグデータ解析・モデル化 1 | 画像処理の基本となる「フーリエ変換」を理解するための数理的基礎（直交変換、直交関数展開、離散コサイン変換） | 佐藤 嘉伸 | 講義 |
| 4 | 第4回 医用画像ビッグデータ解析・モデル化 2 | 統計的データ解析の数理的基礎（最小二乗法、回帰、最尤推定） | 佐藤 嘉伸 | 講義 |

| | | | | |
|----|-------------------------|--|------|----|
| 5 | 第5回 医用画像ビッグデータ解析・モデル化 3 | 深層学習を理解するための数理的基礎（たたまみ積分／信号・画像処理／畳み込みニューラルネットワーク） | 佐藤嘉伸 | 講義 |
| 6 | 第6回 医用画像ビッグデータ解析・モデル化 4 | 微分方程式を理解するための数理的基礎（微分方程式の直観的説明、微分方程式とデータサイエンスの融合） | 佐藤嘉伸 | 講義 |
| 7 | 第7回 医用画像ビッグデータ解析・モデル化 5 | 医学・生物学における形態的多様性と共通性を扱う統計学的手法（主成分分析、統計形状モデル） | 佐藤嘉伸 | 講義 |
| 8 | 第8回 医用画像ビッグデータ解析・モデル化 6 | 統計的推定問題の基礎・AIによる推論の基本原則（逆問題、ベイズ定理） | 佐藤嘉伸 | 講義 |
| 9 | 第9回 医用画像AI 1 | 医用画像AIの基礎（深層学習による画像認識の基礎概念） | 佐藤嘉伸 | 講義 |
| 10 | 第10回 医用画像AI 2 | 医用画像AIの応用（深層学習の画像診断への応用） | 佐藤嘉伸 | 講義 |
| 11 | 第11回 医用画像XR 1 | 医用画像XRの基礎（XRとは？ 仮想現実(VR)、拡張現実(AR)システムにおける仮想空間と実空間のセンシングと融合のための基礎技術と理論） | 佐藤嘉伸 | 講義 |
| 12 | 第12回 医用画像XR 2 | 医用画像XRの応用（手術ナビゲーション、手術ロボットなどへの応用） | 佐藤嘉伸 | 講義 |
| 13 | 第13回 CT/MRI画像再構成 1 | CT/MRI画像再構成の数理（CT/MRIの基本原則、再構成アルゴリズムを理解するための数学的基礎） | 佐藤嘉伸 | 講義 |
| 14 | 第14回 CT/MRI画像再構成 2 | CT/MRI画像再構成の実際（CT/MRIの再構成アルゴリズムの直観的説明、および、数理的説明） | 佐藤嘉伸 | 講義 |
| 15 | 第15回 医用画像データサイエンスのまとめ | 講義全体のまとめと復習、レポート課題の説明 | | 講義 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | - |
| テキスト | 教員の作成した講義資料を配布する。講義の最初に（あるいは、事前に）、ダウンロードURLを提示する。 |
| 参考書 | 特に、購入の必要はないが、参考になる書籍として以下をあげる。 妥協しないデータ分析のための微積分＋線形代数 著者：杉山 聡、定価：3,080円（本体2,800円＋税）、ソシム株式会社 ISBN：978-4-8026-1480-1 授業中に、その他の参考書やわかりやすいYoutubeコンテンツ等を紹介する。 スマホやPC用の無料の画像解析アプリでの演習を行うことを検討している。 |
| 学生へのメッセージ等 | 医用画像およびその解析法の基礎となるデータサイエンスの活用は、今後、医学研究、医療の質向上のために、ますます重要になってきますので、ぜひとも積極的に取り組んでください。数学が苦手な人にも、数式の意味を直観的に理解できるよう、また、医用画像データサイエンスの具体的な応用を常に示しながら、わかりやすい講義にしたいと思っています。 高校の時に、数学が不得意ではなくても（むしろ、得意でも）、大学で、数学が急に難しくなったと感じる学生も多いと思います。本講義では、必須科目の「微積分学および線形代数」の予習/復習/補習にもなるよう、さらには、その講義で行われるようなフォーマルな数学のポイントや重要性の理解にもつながり、受講意欲が増すように配慮したいと思っています。 |

| | |
|--------|---|
| 講義コード | I261040 |
| 講義名称 | 微積分学及び線形代数学演習 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Exercise of Calculus and Linear Algebra |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 川口 良 |
| 全担当教員 | 川口 良 |
| 概要 | この授業は前期に学んだ微積分学と線形代数学の演習科目である。毎回配布する演習問題を通して前期の授業内容を復習し、知識の定着を図ることを目的とする。出席確認として毎回テストを行う。その他にも豊富な量の問題に取り組むが、解けなかった分については自宅学習で次の回までに解いてきてもらい、解答を板書で発表してもらうこともある。内容は前期の講義に沿った流れになるので、受講する際は微積分学と線形代数学の授業ノートを持参すること。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 医師にとって必要不可欠な自分の頭で考える力を身に付けている。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 医学や自然科学を背後から支える数学の基礎理論を説明できる。 |
| III 医療の実践 | － |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 他者との意見交換や自分の考えの発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | － |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 自然科学の共通言語である数学を学び、柔軟な発想の大切さを理解している。 数学の学習を通して良い意味での批判精神を身に付け、物事を真に自由に考えることができる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■受講態度（10％）《I,VI》</p> <p>■定期試験（90％）《I,II,IV》</p> |
| 出席確認方法 | 毎回実施するテストの提出。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|-----------------|-----|------|
| 1 | 初等関数 | 川口 | 演習 |
| 2 | テイラー展開 | 川口 | 演習 |
| 3 | 広義積分 | 川口 | 演習 |
| 4 | 累次積分と重積分 | 川口 | 演習 |
| 5 | 重積分の変数変換 | 川口 | 演習 |
| 6 | フーリエ級数展開 | 川口 | 演習 |
| 7 | フーリエ変換 | 川口 | 演習 |
| 8 | ここまでの内容の復習 | 川口 | 演習 |
| 9 | 行列と連立一次方程式 | 川口 | 演習 |
| 10 | 行列式、逆行列 | 川口 | 演習 |
| 11 | 一次独立と一次従属、基底と次元 | 川口 | 演習 |
| 12 | 写像と線形写像、核と像 | 川口 | 演習 |
| 13 | 線形変換、表現行列 | 川口 | 演習 |

| | | | |
|----|------------|----|----|
| 14 | 固有値と固有ベクトル | 川口 | 演習 |
| 15 | 行列の対角化 | 川口 | 演習 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | — |
| テキスト | 前期の講義ノート |
| 参考書 | 三宅敏恒 著「入門微分積分」培風館 三宅久恒「線形代数学-初歩からジョルダンの標準形へ-」培風館 |
| 学生へのメッセージ等 | 前期の授業の復習を目的とした科目です。新しい内容はありませんが、より多くの問題に取り組みたい、計算力を高めたいという人向けに演習問題を配布して解いてもらいます。理解度や進度に応じて内容を変更する場合があります。 |

| | |
|--------|---------------|
| 講義コード | I181180 |
| 講義名称 | 生物統計学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Biostatistics |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 周藤 俊治 |
| 全担当教員 | 周藤 俊治 |
| 概要 | <p>生物統計学は、保健医療分野における課題を統計的手法により明らかにし解決に資する学問である。ここでは、統計学の基礎から本分野においてどのような統計的手法が用いられてきたのかの理解し、データの収集・解析・結果の解釈に必要なとされる基礎知識を修得する。</p> <p>授業内容に関連するモデルカリキュラムのコードを示す。授業資料にコードの詳細を記載しているので適宜確認のこと。</p> <p>《》内のコード：MDASH（数理・データサイエンス・AI教育プログラム）リテラシーレベルモデルカリキュラム（2024年2月22日改訂）</p> <p>【】内のコード：医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | <input type="checkbox"/> 医療者として研究倫理・規範を理解し説明できる <input type="checkbox"/> 医学、医療の発展に統計分析が寄与することを説明できる <input type="checkbox"/> 生涯にわたり統計分析について関心を持ち続ける必要性について説明できる |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <input type="checkbox"/> 統計と医学の関わりについて説明できる |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | - |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | - |
| VI 国際的視野と科学的探究 | <input type="checkbox"/> 新たな知見と統計分析の関係について説明できる <input type="checkbox"/> 科学的研究で明らかになった知見における統計手法について説明できる |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■提出課題(10%)《I》</p> <p>■小テスト(20%)《I, II, VI》</p> <p>■定期試験(70%)《I, II, VI》</p> |
| 出席確認方法 | 出席確認端末で確認する。授業開始前に出席確認端末で手続きを行わなかった場合、欠席や遅刻として取り扱うので注意のこと |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 年月日(曜日) | 担当者 | 授業形態 |
|----|-------------------------------|---|---------------|-----|----------|
| 1 | 第1回*オンデマンド* ~5月8日(金) 科学と統計 | Evidence-Based Medicine 《1-1》社会で起きている変化(データを起点としたもの見方) 《1-3》データ・AIの活用領域(仮説検証) 【GE-01-04-01】 根拠に基づいた医療(EBM)の5つのステップを列挙できる 【GE-01-04-02】 PICO (PECO) を用いた問題の定式化ができる (教科書1章1,2) | 2026/04/08(水) | 周藤 | オンデマンド講義 |
| 2 | 第2回*オンデマンド* ~5月8日(金) 記述統計 | 尺度、度数、代表値 《2-1》データを読む(データの種類) 《2-2》データを説明する(データのばらつき) 《4-4》時系列データ解析(移動平均) 【SO-02-03-01】 尺度(間隔、比、順序、名義)について説明できる 【SO-02-03-02】 データの分布(欠損値を含む)について説明できる (教科書2章1) | 2026/04/08(水) | 周藤 | オンデマンド講義 |

| | | | | | |
|----|--------------------|--|---------------|----|----|
| 3 | 第3回 推測統計 (1) | 点推定(平均と分散) 《2-1》データを読む(母集団と標本抽出) (教科書2章1) | 2026/04/13(月) | 周藤 | 講義 |
| 4 | 第4回 推測統計 (2) | 区間推定(1)正規分布 《4-1》統計および数理基礎(確率) 【SO-02-03-03】正規分布の母平均の信頼区間について説明できる (教科書2章1,2,3) | 2026/04/20(月) | 周藤 | 講義 |
| 5 | 第5回 推測統計 (3) | 区間推定(2)t分布 《4-1》統計および数理基礎(確率) 【SO-02-03-03】正規分布の母平均の信頼区間について説明できる (教科書3章2標本平均の理論分布と標準誤差(SE),教科書4章1正規分布とt分布の違い,2) | 2026/04/27(月) | 周藤 | 講義 |
| 6 | 第6回 推測統計 (4) | 母比率の区間推定(二項分布と正規分布), 仮説検定 《1-3》データ・AIの活用領域(仮説検証) 《4-1》統計および数理基礎(確率) 【SO-02-02-02】割合・比・率の違い及び代表的な疫学指標(有病割合、リスク比、罹患率等)を理解している 【SO-02-03-04】相関分析、平均値と割合の検定等を実施できる (教科書3章検定の原理,7章1母比率の信頼区間の推定) | 2026/05/11(月) | 周藤 | 講義 |
| 7 | 第7回 推測統計 (5) | パラメトリック検定 (t検定) 《1-3》データ・AIの活用領域(仮説検証) 【SO-02-03-04】相関分析、平均値と割合の検定等を実施できる (教科書4章1,5章1,教科書8章1,3,10章1Q7) | 2026/05/18(月) | 周藤 | 講義 |
| 8 | 第8回 推測統計 (6) | パラメトリック検定 (ANOVA,有意確率補正法) 《1-3》データ・AIの活用領域(仮説検証) 《4-1》統計および数理基礎(確率) 【SO-02-03-04】相関分析、平均値と割合の検定等を実施できる (教科書8章1,2教科書10章1Q7) | 2026/05/25(月) | 周藤 | 講義 |
| 9 | 第9回 中間まとめ | 小テスト/これまでの振り返り | 2026/06/01(月) | 周藤 | 講義 |
| 10 | 第10回 推測統計 (7) | ノンパラメトリック検定, カイ二乗検定 《1-3》データ・AIの活用領域(仮説検証) 《4-1》統計および数理基礎(確率) 【SO-02-03-04】相関分析、平均値と割合の検定等を実施できる (教科書4章3,教科書5章4,教科書7章1,2) | 2026/06/08(月) | 周藤 | 講義 |
| 11 | 第11回 相対リスク | 観察研究における研究法と相対リスク(リスク比とオッズ比) 《2-1》データを読む(クロス集計表) 【SO-02-02-02】割合・比・率の違い及び代表的な疫学指標(有病割合、リスク比、罹患率等)を理解している。 【SO-02-02-05】主な疫学の研究デザインとして、観察研究(記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究)及び介入研究(ランダム化比較試験等)を理解している | 2026/06/15(月) | 周藤 | 講義 |
| 12 | 第12回 ROC解析 | 検査法の診断的有用性評価 【CS-02-03-04】主要な臨床・画像検査(表6)の特性(感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率・検査後確率、尤度比、ROC曲線)と判定基準(基準値・基準範囲、カットオフ値、パニック値)を理解している (教科書6章1,2,3) | 2026/06/22(月) | 周藤 | 講義 |
| 13 | 第13回 相関係数, 回帰分析 | 相関分析, 重回帰分析, ロジスティック回帰分析 《1-3》データ・AIの活用領域(仮説検証, 知識発見, 原因究明, 計画策定) 《2-1》データを読む(仮説検証) 《4-1》統計および数理基礎(相関と因果, 指数関数, 対数関数) 【SO-02-03-04】相関分析、平均値と割合の検定等を実施できる 【SO-02-03-05】多変量解析の意義を理解している (教科書9章1,2,3) | 2026/06/29(月) | 周藤 | 講義 |
| 14 | 第14回 生存時間分析 | Kaplan-Meier法, ログランク検定, Cox比例ハザード 【SO-02-02-02】割合・比・率の違い及び代表的な疫学指標(有病割合、リスク比、罹患率等)を理解している 【SO-02-03-04】相関分析、平均値と割合の検定等を実施できる | 2026/07/06(月) | 周藤 | 講義 |
| 15 | 第15回 まとめ | これまでの振り返り | 2026/07/13(月) | 周藤 | 講義 |

<事前学修>

事前に教科書および講義サイトを確認し、用語など不明なものをリストアップしておくこと

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業で使用する資料が指示されている場合、必要に応じてプリントアウトすること <事後学修> 例題や課題に関する不明点について調べて理解する、もしくは担当教員に相談し解決すること |
| テキスト | 教科書：カラーイメージで学ぶ統計学の基礎 新版 第2版（日本教育研究センター） 授業資料： https://medbb.net/sjlist |
| 学生へのメッセージ等 | 受講生の理解度や実態を考慮してシラバスを変更する場合がある。講義用Webサイトに変更内容を反映するので確認の事 |

| | |
|--------|---------------------|
| 講義コード | I201010 |
| 講義名称 | 医療情報学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Medical Informatics |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 周藤 俊治 |
| 全担当教員 | 周藤 俊治 |
| 概要 | <p>医療情報学は、保健医療分野における情報資源に関連する学問領域である。</p> <p>機微な情報を取り扱う一方で地域完結型医療や遠隔医療などで幅広く利活用が求められるなど、技術的な側面のみならず様々な側面からのアプローチが求められる学際的な側面の強い領域である。</p> <p>ここでは様々な側面から保健医療に関する情報のあり方について基礎的な部分を理解しながら、さらなる発展が期待される科学技術の進展を見据える力をグループワークによる意見交換を通して獲得していく。</p> <p>授業内容に関連するモデルカリキュラムのコードを示す。授業資料にコードの詳細を記載しているので適宜確認のこと。</p> <p>《》内のコード：MDASH（数理・データサイエンス・AI教育プログラム）リテラシーレベルモデルカリキュラム（2024年2月22日改訂）</p> <p>【】内のコード：医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | <input type="checkbox"/> 医療者として発生するデータの取り扱いに関する倫理・規範を理解し説明できる <input type="checkbox"/> 医学、医療の発展にデータの利活用が寄与することを説明できる <input type="checkbox"/> 生涯にわたりICTの活用について関心を持ち続ける必要性について説明できる |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <input type="checkbox"/> データサイエンスと医学の関わりについて説明できる <input type="checkbox"/> 社会において発生する保健医療データの役割について説明できる <input type="checkbox"/> パーソナルデータの有用性について説明できる |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | - |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | <input type="checkbox"/> 医師として地域医療に関わることの必要性を理解し、ICTをどのように活用しているのか説明できる <input type="checkbox"/> 医療情報分野の研究開発が社会に貢献していることを説明できる |
| VI 国際的視野と科学的探究 | - |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■提出課題(30%)《I》 ■小テスト(30%)《I, II, V》 ■レポート(40%)《I, II, V》</p> |
| 出席確認方法 | 出席確認端末で確認する。授業開始前に出席確認端末で手続きを行わなかった場合、欠席や遅刻として取り扱うので注意のこと |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|--------|--|-----|------|
| 1 | 情報学（1） | <p>情報とは、データ、情報、知識の違いについて</p> <p>《1-1》社会で起きている変化(人間の知的活動を起点としたもの)の考え方</p> <p>《3-1》データ・AIを扱う上での留意事項(データ倫理)</p> <p>【IT-01-02-02】ソーシャルメディア(インターネット、SNS等)の利用において、医療者として相応しい情報発信の在り方を理解し、実践できる</p> | 周藤 | 講義 |
| 2 | 情報学（2） | <p>情報量(1)定義、文字、シャノンの情報理論</p> <p>《1-2》社会で活用されているデータ(構造化データ、非構造化データ)</p> <p>《4-3》データ構造とプログラミング基礎(データ量の単位)</p> <p>《4-5》テキスト解析(形態素解析)</p> | 周藤 | 講義 |
| 3 | 情報学（3） | <p>情報量(2)画像、音、標本化、量子化、符号化</p> <p>《1-2》社会で活用されているデータ(構造化データ、非構造化データ)</p> | 周藤 | 講義 |

| | | | | |
|----|-------------------------|---|----|----|
| 4 | ネットワーク技術 | ノードとエッジ, 通信速度 《1-1》社会で起きている変化(IoT) 《1-4》データ・AI利活用のための技術(リアルタイム可視化) | 周藤 | 講義 |
| 5 | 情報セキュリティ | サイバーセキュリティ基本法, 機密性, 完全性, 可用性 《3-2》データを守る上での留意事項(情報セキュリティ, 匿名加工情報, 暗号化, パスワード) 【IT-01-01-02】医療における情報・科学技術に関連する規制(法律, ガイドライン等)の概要を理解している | 周藤 | 講義 |
| 6 | 保健医療情報(1) | 診療情報と診療記録と診療録 【CS-05-06-02】診療録の重要性を理解し, 適切に記載し取り扱うことができる | 周藤 | 講義 |
| 7 | 保健医療情報(2) | 診療情報, 診療記録の電子化, ELSI 《3-1》データ・AIを扱う上での留意事項(ELSI, GDPR) 【IT-01-02-01】電子カルテをはじめとする医療情報の管理・保管の原則について理解し, 関連する規制(法律, 倫理基準, 個人情報保護のための規定等)を遵守できる 【IT-02-02-01】医療に関連する情報・科学技術(医療情報システム, ウェアラブルデバイス, アプリ, 人工知能, 遠隔医療技術, IoT等)を理解し, それらの応用可能性について議論できる | 周藤 | 講義 |
| 8 | 保健医療情報(3) | 遠隔保健医療(DtoD, DtoN, DtoP, PtoP) 【IT-02-02-01】医療に関連する情報・科学技術(医療情報システム, ウェアラブルデバイス, アプリ, 人工知能, 遠隔医療技術, IoT等)を理解し, それらの応用可能性について議論できる | 周藤 | 講義 |
| 9 | 保健医療情報(4) | 医療機関外で蓄積される情報 《3-1》データ・AIを扱う上での留意事項(オプトアウト) 【IT-01-02-01】電子カルテをはじめとする医療情報の管理・保管の原則について理解し, 関連する規制(法律, 倫理基準, 個人情報保護のための規定等)を遵守できる | 周藤 | 講義 |
| 10 | 保健医療分野におけるデジタルディバイド(1) | 示したテーマに基づくグループワーク 【IT-01-01-01】情報・科学技術を医療に活用することの重要性と社会的意義を理解している 【IT-01-01-03】デジタル情報や科学技術の活用における社会的格差が医療や福祉にもたらす影響や倫理的問題を議論できる 【IT-02-02-02】情報・科学技術の専門家とともに, 技術を医療へ応用する際に, 医療者に求められる役割を理解している 【IT-03-02-01】自己学習や協同学習の場に適切なICT(eラーニング, モバイル技術等)を活用できる | 周藤 | 講義 |
| 11 | 保健医療分野におけるデジタルディバイド(2) | 示したテーマに基づくグループワーク 【IT-01-01-01】情報・科学技術を医療に活用することの重要性と社会的意義を理解している 【IT-01-01-03】デジタル情報や科学技術の活用における社会的格差が医療や福祉にもたらす影響や倫理的問題を議論できる 【IT-02-02-02】情報・科学技術の専門家とともに, 技術を医療へ応用する際に, 医療者に求められる役割を理解している 【IT-03-02-01】自己学習や協同学習の場に適切なICT(eラーニング, モバイル技術等)を活用できる | 周藤 | 講義 |
| 12 | 保健医療分野における倫理的問題と情報技術(1) | 示したテーマに基づくグループワーク 【IT-01-01-01】情報・科学技術を医療に活用することの重要性と社会的意義を理解している 【IT-01-01-02】医療における情報・科学技術に関連する規制(法律, ガイドライン等)の概要を理解している 【IT-02-02-02】情報・科学技術の専門家とともに, 技術を医療へ応用する際に, 医療者に求められる役割を理解している 【IT-03-02-01】自己学習や協同学習の場に適切なICT(eラーニング, モバイル技術等)を活用できる | 周藤 | 講義 |
| 13 | 保健医療分野における倫理的問題と情報技術(2) | 示したテーマに基づくグループワーク 【IT-01-01-01】情報・科学技術を医療に活用することの重要性と社会的意義を理解している 【IT-01-01-02】医療における情報・科学技術に関連する規制(法律, ガイドライン等)の概要を理解している 【IT-02-02-02】情報・科学技術の専門家とともに, 技術を医療へ応用する際に, 医療者に求められる役割を理解している 【IT-03-02-01】自己学習や協同学習の場に適切なICT(eラーニング, モバイル技術等)を活用できる | 周藤 | 講義 |
| 14 | 情報技術の進展がもたらす未来の保健医療分野 | 示したテーマに基づくグループワーク 【IT-01-01-01】情報・科学技術を医療に活用することの重要性と社会的意義を理解している 【IT-02-02-02】情報・科学技術の専門家とともに, 技術を医療へ応用する際に, 医療者に求められる役割を理解している 【IT-03-02-01】自己学習や協同学習の場に適切なICT(eラーニング, モバイル技術等)を活用できる 【IT-03-02-02】新たに登場する情報・科学技術を自身の学び及び医療に活用する柔軟性を有する | 周藤 | 講義 |
| 15 | まとめ | 小テスト, 提出された課題やレポートについて | 周藤 | 講義 |

<事前学修>

事前に講義サイトを確認し, 用語など不明なものをリストアップしておくこと

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業で使用する資料が指示されている場合、必要に応じてプリントアウトすること <事後学修> 授業内で生じた不明点について調べて理解する、もしくは担当教員に相談し解決すること |
| テキスト | 授業資料： https://medbb.net/sjlist |
| 学生へのメッセージ等 | 受講生の理解度や実態を考慮してシラバスを変更する場合がある。講義用Webサイトに変更内容を反映するので確認の事 |

| | |
|--------|--------------------|
| 講義コード | I18120A I18120B |
| 講義名称 | スポーツ実践I |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Sports Education I |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 石指 宏通 |
| 全担当教員 | 石指 宏通、王 文超 |
| 概要 | 運動・スポーツが健康の保持・増進に果たす役割を認識するとともに、スポーツという身体活動による爽快感、そこで生まれる仲間との協力・競争を通して好ましい人間関係を形成し、公正、協力、責任、参画など社会的に望ましい行動する能力を養う。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 各種スポーツの実践を通して、スポーツに対する関心や主体的に取り組む意欲を高め、スポーツが健康の保持・増進に果たす役割を説明できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | スポーツ活動の身体に及ぼす有効性と危険性を説明できる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | ルールを守り、仲間と共同してプレーできるとともに「楽しさ」を引き出し、強める方法を考えることができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 既存のスポーツに固執することなく、能力差やハンディキャップの有無に応じてルール等を改変し、新たな実践方法を考えることができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | — |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■受講態度（60%）：《I, IV》 ■レポート（40%）：《II, V》 |
| 出席確認方法 | 毎時、口頭で出席確認をする。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|---------------------------------|------------------------|------|------|
| 1 | 第1回 オリエンテーション（種目選択） | （バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球） | 石指・王 | 実技 |
| 2 | 第2回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム① | | 石指・王 | 実技 |
| 3 | 第3回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム② | | 石指・王 | 実技 |
| 4 | 第4回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム① | | 石指・王 | 実技 |
| 5 | 第5回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム② | | 石指・王 | 実技 |
| 6 | 第6回 リーグ戦 | | 石指・王 | 実技 |
| 7 | 第7回 リーグ戦 | | 石指・王 | 実技 |
| 8 | 第8回 リーグ戦 | | 石指・王 | 実技 |

| | | | | |
|----|----------------------------------|--------|------|----|
| 9 | 第9回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム① | (種目変更) | 石指・王 | 実技 |
| 10 | 第10回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム② | | 石指・王 | 実技 |
| 11 | 第11回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム① | | 石指・王 | 実技 |
| 12 | 第12回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム② | | 石指・王 | 実技 |
| 13 | 第13回 リーグ戦 | | 石指・王 | 実技 |
| 14 | 第14回 リーグ戦 | | 石指・王 | 実技 |
| 15 | 第15回 リーグ戦とまとめ | | 石指・王 | 実技 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | － |
| テキスト | 教科書 ナシ（必要に応じて、プリント配布） |
| 参考書 | 参考書 ナシ |
| 学生へのメッセージ等 | 2種目（各7回）を選択し、ゲーム中心にスポーツを楽しむ。詳細については1回目（オリエンテーション）で説明する。 |

| | |
|--------|---------------------|
| 講義コード | I18121A I18121B |
| 講義名称 | スポーツ実践II |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Sports Education II |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 石指 宏通 |
| 全担当教員 | 石指 宏通, 王 文超, 陳 昱龍 |
| 概要 | 運動・スポーツが健康の保持・増進に果たす役割を認識するとともに、スポーツという身体活動による爽快感、そこで生まれる仲間との協力・競争を通して好ましい人間関係を形成し、公正、協力、責任、参画など社会的に望ましい行動する能力を養う。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 各種スポーツの実践を通して、スポーツに対する関心や主体的に取り組む意欲を高め、スポーツが健康の保持・増進に果たす役割を説明できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | スポーツ活動の身体に及ぼす有効性と危険性を説明できる。 |
| III 医療の実践 | － |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | ルールを守り、仲間と共同してプレーできるとともに「楽しさ」を引き出し、強める方法を考えることができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 既存のスポーツに固執することなく、能力差やハンディキャップの有無に応じてルール等を改変し、新たな実践方法を考えることができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | － |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | ◇内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■受講態度（60％）：《I, IV》 ■レポート（40％）：《II, V》 |
| 出席確認方法 | 毎時、口頭で出席確認をする。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|---------------------------------|------------------------|------|------|
| 1 | 第1回 オリエンテーション（種目選択） | （バスケットボール、サッカー、テニス、卓球） | 石指・王 | 実技 |
| 2 | 第2回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム① | | 石指・王 | 実技 |
| 3 | 第3回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム② | | 石指・王 | 実技 |
| 4 | 第4回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム① | | 石指・王 | 実技 |
| 5 | 第5回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム② | | 石指・王 | 実技 |
| 6 | 第6回 リーグ戦 | | 石指・王 | 実技 |
| 7 | 第7回 リーグ戦 | | 石指・王 | 実技 |

| | | | | |
|----|----------------------------------|--------|------|----|
| 8 | 第8回 リーグ戦 | | 石指・王 | 実技 |
| 9 | 第9回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム① | (種目変更) | 石指・王 | 実技 |
| 10 | 第10回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム② | | 石指・王 | 実技 |
| 11 | 第11回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム① | | 石指・王 | 実技 |
| 12 | 第12回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム② | | 石指・王 | 実技 |
| 13 | 第13回 リーグ戦 | | 石指・王 | 実技 |
| 14 | 第14回 リーグ戦 | | 石指・王 | 実技 |
| 15 | 第15回 リーグ戦とまとめ | | 石指・王 | 実技 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | － |
| テキスト | 教科書 ナシ（必要に応じて、プリント配布） |
| 参考書 | 参考書 ナシ |
| 学生へのメッセージ等 | 2種目（各7回）を選択し、ゲーム中心にスポーツを楽しむ。詳細については1回目（オリエンテーション）で説明する。 |

| | |
|--------|----------------|
| 講義コード | I181220 |
| 講義名称 | 健康科学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Health Scirnce |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 石指 宏通 |
| 全担当教員 | 石指 宏通 |
| 概要 | 健康の保持・増進のための運動やスポーツ、競技力向上のためのトレーニングを行うために必要となる人体各部の構造および機能に関する解剖生理学的基礎知識を身につけるとともに、運動・スポーツ傷害の予防や対処方法を理解し、安全に運動・スポーツを実施できる能力を養う。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 自己の目標を設定し、生涯にわたり向上を図るために学習し、研鑽することができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <input type="checkbox"/> 運動・スポーツが健康に果たす役割について説明できる。 <input type="checkbox"/> 身体諸機能（神経系・骨格系・呼吸循環系・消化系）の正常機能と構造を理解し、それらに及ぼす運動の影響について説明できる。 <input type="checkbox"/> 運動・スポーツ時に発生し得る事故について、その予防法を応急処置が説明できる。 |
| III 医療の実践 | - |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 医学生として、共感的態度で他者に敬意をはらったコミュニケーションができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 教養教育を学ぶことにより、将来医学・医療・保健・社会に貢献できることを理解する。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 科学的研究で明らかになった新しい知見を理解し、説明できる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■受講態度（30%）：《I, IV, V》 ■小テスト（20%）：《II》 ■定期試験（50%）：《II, VI》 |
| 出席確認方法 | 毎時、小テストの提出で出席確認をする。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|-------------------|----------|-----|------|
| 1 | 第1回 運動と健康 | | 石指 | 講義 |
| 2 | 第2回 筋の構造と筋収縮 | | 石指 | 講義 |
| 3 | 第3回 エネルギー供給機構 | | 石指 | 講義 |
| 4 | 第4回 骨格器の機能と構造① | (上肢帯と上肢) | 石指 | 講義 |
| 5 | 第5回 骨格器の機能と構造② | (下肢帯と下肢) | 石指 | 講義 |
| 6 | 第6回 骨格器の機能と構造③ | (体幹) | 石指 | 講義 |
| 7 | 第7回 骨格器の障害① | (上肢帯と上肢) | 石指 | 講義 |

| | | | | |
|----|---------------------------|----------|----|----|
| 8 | 第8回 骨格器の障害② | (下肢帯と下肢) | 石指 | 講義 |
| 9 | 第9回 呼吸・循環器の機能と構造および疾患 | | 石指 | 講義 |
| 10 | 第10回 消化器の機能と構造および疾患 | | 石指 | 講義 |
| 11 | 第11回 神経・内分泌の機能と構造および疾患 | | 石指 | 講義 |
| 12 | 第12回 運動時の体温調節 | | 石指 | 講義 |
| 13 | 第13回 運動と栄養 | | 石指 | 講義 |
| 14 | 第14回 運動の有効性と危険性 | | 石指 | 講義 |
| 15 | 第15回 まとめと復習 | | 石指 | 講義 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | － |
| テキスト | 教科書 授業ごとにプリント配布 |
| 参考書 | 参考書 坂井建雄、河原克雅（総編集）「人体の正常構造と機能」 日本医事新報社 |
| 学生へのメッセージ等 | 授業内容は順番が前後する可能性もあります。 |

| | |
|--------|--------------------------------|
| 講義コード | I260060 |
| 講義名称 | English for Medical Purposes I |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | English for Medical Purposes I |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | Mathieson Paul |
| 全担当教員 | Mathieson, Paul / Murray, Claire / Ghashut, Rima / Strickland, Zach / Banham, Matt |
| 概要 | <p>この授業では、以下のことを目標とします。</p> <p>1) 読む・書く・話す・聞くという4つの言語技能すべてにおいて、英語の正確さ・流暢さ・自信を身につけること。</p> <p>2) 学術的・科学的な英語語彙について、その形 (form) ・意味 (meaning) ・使い方 (use) を学ぶこと。</p> <p>3) 学生が英語でさまざまな科学・医療のテーマに取り組めるようにします。授業の前半 (前期) は社会科学に焦点を当て、医学の学習や実践に関連するテーマを扱います。</p> <p>後半 (後期) は、根拠に基づく医療 (EBM) に関するテーマについて、議論や討論に挑戦します。</p> |

目標 (医学部医学科)

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | <p>a) 本授業を通して、学生は、論理的思考、科学的根拠、そして共感を用いて、個人的・社会的・科学的に重要な課題について議論・討論することが求められます。</p> <p>b) 反転授業 (Flipped-class) では、授業がより双方向的になり、学生は時間管理の習慣を身につけることが求められます。</p> <p>c) 主に根拠に基づく医療 (EBM) を中心とした内容では、学生は自分とは異なる見方や意見を評価・理解することが求められます。</p> |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <p>a) 本授業を通して、学生は、個人のニーズと社会全体のニーズとのバランスに着目しながら、さまざまな視点からテーマについて議論することが期待されます。</p> <p>b) 前期を通して、学生は、論理的思考、科学的根拠、そして共感を用いて、個人的および社会的に重要な課題について議論・討論することが求められます。</p> <p>c) 第2学期は、根拠に基づく医療 (EBM) の原則と、医学における科学の役割に基づいて進められます。学生は、科学的手法、論理的思考、偏り (バイアス) などの理解を使って、授業で扱われる様々なテーマに対して議論することが求められます。</p> |
| III 医療の実践 | <p>後期全体は、英語での根拠に基づく医療 (EBM) の原則の議論と応用を中心に進められます。学生には以下が期待されます：</p> <p>a) 様々な医療情報の出どころを理解し、評価できるようにします。</p> <p>b) EBM (根拠に基づく医療) の原則を使って、医療データを解釈できるようにします。</p> <p>c) EBM (根拠に基づく医療) の原則に基づいて、医療に関する具体的な問題に対して適切な対応や行動を考えられるようにします。</p> |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <p>a) 学生は、毎回の授業で他のクラスメートとペアで10分間英語で会話することで、さまざまな考え方や視点に触れることができます。</p> <p>b) 学生は、授業内でさまざまなグループに分かれて活動し、それぞれのグループ内で異なる役割を担い、グループ活動の議論に参加したり主導したりすることが求められます。</p> <p>c) 様々な文化背景を持つ先生たちと多くのやり取りをすることで、学生は異文化間でのコミュニケーション能力を高めることができます。</p> |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | <p>a) 学生は、世界のさまざまな医療・保健システムのさまざまな側面について議論・討論することが期待されます。</p> <p>b) 学生は、世界各地における医薬品や医療手技の規制に関するさまざまなアプローチの倫理について議論・討論することが求められます。</p> <p>c) 学生は、世界の医療制度の様々な側面について、いろいろな立場 (医療の規制者、医療提供者、患者の立場) から考えることも求められます。</p> |
| VI 国際的視野と科学的探究 | <p>a) 学生は、英語の4技能 (読む・書く・話す・聞く) を使った基本的なコミュニケーション能力をさらに伸ばし、国際的な科学者コミュニティに参加し、英語 (科学・医療の国際共通語) でやり取りできるレベルを目指します。</p> <p>b) 本授業を通して、学生は、関連する医学・科学研究の成果に基づき、個人的・社会的・科学的に重要な課題について、英語で議論・討論することが求められます。</p> <p>c) 授業に関連する活動に参加する中で、学生は自分の文化を振り返ることにチャレンジします。これは、外国の文化をより深く理解するためです。</p> |

《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載

出席

学生に求められること

- 1) 授業の前に宿題や授業の準備を終わらせること
- 2) すべての授業に出席すること*
- 3) 授業の活動に積極的に参加すること

*注：1学期につき2回までの欠席はペナルティはありません。しかし、それ以上の欠席は最終成績から5%ずつ減点されます。

例：欠席3回 → -5%、欠席4回 → -10%、欠席5回 → -15%、…

また、宿題が完成しない場合や授業に遅刻した場合も欠席として扱われることがあります。

評価

総合的な英語力

このコースを合格するには、学生は授業内のテストや評価を通して、次の技能分野で求められる基準を達成していることを示す必要があります。

- 1) 話す・聞く力の流暢さ → 話す・聞く力の流暢さを測る4回のテストに合格すること（前期に2回、後期に2回）
- 2) ライティングの流暢さ → ライティング能力を測る4回のテストに合格すること（前期に2回、後期に2回）
- 3) リーディングの流暢さ → 速読力を測る4回のテストに合格すること（前期に2回、後期に2回）
- 4) 学術的語彙 → 前期に行われる3回のAWL (Academic Word List) 最終のテストに合格すること
- 5) 科学的語彙 → 後期に行われる3回のテスト (AWL + SWL) 最終のテストに合格すること

評価方法

これらの基準を満たすことができない学生は、本試験や再試験、またその他の評価での成績に関わらず、この授業の単位を取得することはできません。

最終成績

この授業の最終成績は、次の方法で決まります。

- a) 授業への参加（欠席に関する注意事項を参照してください）《I, II, III, IV, V, VI》
- b) 総合的な英語力の最終テスト／評価（上記の総合的な英語力1）～5）を参照《I, II, IV, VI》
- c) 毎週の語彙テスト = 20%（前期 = 10%、後期 = 10%）《V, VI》
- d) 多読リーディングプログラム (Xreading) * = 20%（前期 = 10%、後期 = 10%）《I, II, IV, V, VI》
- e) 中間テスト（前期）† = 20% 《I, II, III, IV, V, VI》
- f) 本試験（後期）† = 40% 《I, II, III, IV, V, VI》
- g) ボーナス = 各 Optional Special English Course (OSEC) を修了すると、1コースごとに+5%（1学期につき最大1コース）

* 多読リーディング・プログラム (Xreading) を合格するには、前期に最低80,000語、後期に最低80,000語を読む必要があります。各学期のXreadingの得点基準は次の通りです。

- 80,000語以上 → 60%（6点）
- 100,000語以上 → 80%（8点）
- 120,000語以上 → 100%（10点）

† 中間テストと本試験の内容は、この授業で扱うトピックに関連するテキストやポッドキャストに基づいて作られます。

中間テストと本試験の合格最低点は60%です。中間テストで60%に達しなかった学生は、この授業の単位を取得するために、後期にOptional Special English Course (OSEC) を受講する必要があります。

この授業全体の合格最低点（すべての評価を合計した総合成績）も60%です。

出席確認方法

出席確認端末、授業中の語彙テスト及びレポートで確認する。
出席確認端末に打刻があっても、語彙テスト及びレポートの回答がない場合は欠席とする。

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|--|---|--|----------|
| 1 | (前) WEEK 1 Introduction to the Course | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 8 April & Friday, 10 April | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 2 | (前) WEEK 2 Orientation Week | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 15 April & Friday, 17 April AWL 1-10 (α) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |

| | | | | |
|----|--|--|--|----------|
| 3 | (前) WEEK 3 Topic 1: Learning a Second Language: Vocabulary and Fluency Strategies | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 22 April & Friday, 24 April AWL Sublist 1 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 4 | (前) WEEK 4 Topic 2: Why Do Japanese Physicians Need English? I | 10:40 am - 12:10 pm, Friday, 1 May AWL Sublist 2 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 5 | (前) WEEK 5 Topic 2: Why Do Japanese Physicians Need English? II | 10:40 am - 12:10 pm, Friday, 8 May AWL Sublist 3 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 6 | (前) WEEK 6 Topic 3: Knowledge versus Skills | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 13 May & Friday, 15 May AWL Sublist 4 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 7 | (前) WEEK 7 Topic 4: A Day in the Life of a Medical Student | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 20 May & Friday, 22 May AWL Sublist 5 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 8 | (前) WEEK 8 Topic 5: Motivation and Creativity | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 27 May & Friday, 29 May AWL Sublist 6 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 9 | (前) WEEK 9 Topic 6: Happiness Studies | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 3 June & Friday, 5 June AWL Sublist 7 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 10 | (前) WEEK 10 Topic 7: The Half-life of Knowledge | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 10 June & Friday, 12 June AWL Sublist 8 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 11 | (前) WEEK 11 Topic 8: What Makes a Good Doctor? Empathy and the Art of Medicine | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 17 June & Friday, 19 June AWL Sublist 9 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 12 | (前) WEEK 12 Topic 9: Rich Doctors, Poor Patients | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 24 June & Friday, 26 June AWL Sublist 10 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 13 | (前) WEEK 12 Special Topic: Academic Integrity | 4:40 pm - 6:10 pm, Friday, 26 June | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 14 | (前) WEEK 13 Topic 10: Death and Dying | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 1 July & Friday, 3 July AWL 1-10 (A) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |

| | | | | |
|----|---|--|--|----------|
| 15 | (前) WEEK 14 Topic 11: Sleep, Stress, and the Brain | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 8 July & Friday, 10 July AWL 1-10 (B) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 16 | (前) WEEK 15 Topic 12: Neuroplasticity | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 15 July & Friday, 17 July AWL 1-10 (C) + AWL 1-10 (D) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 17 | (前) WEEK 16 前期の復習授業 | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 22 July AWL 1-10 (E) + AWL 1-10 (F) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lecture |
| 18 | (後) WEEK 1 Introduction to the Second Semester Programme | 10:40 am - 12:10 pm, Friday, 18 September AWL 1-10 (A2) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 19 | (後) WEEK 2 Second Semester Orientation Class | 10:40 am - 12:10 pm, Friday, 25 September AWL 1-10 (B2) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 20 | (後) WEEK 3 Topic 1: What Is Evidence-based Medicine and Why Is it Important? | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 30 September & Friday, 2 October SWL Sublist 1 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 21 | (後) WEEK 4 Topic 2: The Scientific Method: What Is it and Why Does it Work? | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 7 October & Friday, 9 October SWL 1-2 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 22 | (後) WEEK 5 Topic 3: Cause and Effect and the Human Experience | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 14 October & Friday, 16 October SWL 1-3 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lecture |
| 23 | (後) WEEK 6 Special Topic: AI — Friend or Foe? | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 21 October SWL 1-4 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 24 | (後) WEEK 7 Topic 4: Logic and Critical Thinking in Science | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 28 October & Friday, 30 October SWL 1-5 | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 25 | (後) WEEK 8 Topic 5: Statistics — Their Use and Misuse | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 4 November & Friday, 6 November SWL 1-6 (A) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |

| | | | | |
|----|---|---|---|----------|
| 26 | (後) WEEK 9 Topic 6: Clinical Science versus Basic Science | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 11 November & Friday, 13 November SWL 1-6 (B) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 27 | (後) WEEK 10 Topic 7: Bad Science: How Science Fails | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 18 November & Friday, 20 November SWL 1-6 (C) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 28 | (後) WEEK 11 Topic 8: Replication in Science and Medicine | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 25 November & Friday, 27 November AWL 1-10 + SWL 1-6 (A) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 29 | (後) WEEK 12 Topic 9: Publish or Perish: The Publication Bias | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 2 December & Friday, 4 December AWL 1-10 + SWL 1-6 (B) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 30 | (後) WEEK 13 Topic 10: A Dance with the Devil: Industry-funded Research | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 9 December & Friday, 11 December AWL 1-10 + SWL 1-6 (C) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 31 | (後) WEEK 14 Topic 11: The Vaccination Debate | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 16 December & Friday, 18 December AWL 1-10 + SWL 1-6 (D) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 32 | (後) WEEK 15 Mock Exam | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 23 December | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 33 | (後) WEEK 16 Topic 12: An Investigation of Antidepressants | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 6 January & Friday, 8 January AWL 1-10 + SWL 1-6 (E) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |
| 34 | (後) WEEK 17 後期の復習授業 | 10:40 am - 12:10 pm, Wednesday, 13 January & Friday, 15 January AWL 1-10 + SWL 1-6 (F) | Mathieson Murray Ghashut Strickland Banham | Lectures |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 授業外学修 (事前学修・ 事後学修) | この授業では、反転学習 (flipped classroom) 方式を採用しています。つまり、学生は授業に来る前に、(1) そのトピックの準備 (テキストを読んだり、ポッドキャストを聞いたりするなど) をして、(2) 教師から出された宿題を終わらせておくことが求められます。さらに、授業時間外での多読リーディング (Xreading) も行うことが期待されています。 |
| テキスト | 1) Xreading VL. XLearning Systems. ISBN: 9784865390704. |
| 参考書 | Bergstrom, C. T., & Jevin, D. W. (2020). Calling Bullshit: The Art of Skepticism in a Data-Driven World. Random House. ISBN: 978-0525509189 |
| | この授業は課題が多いため、学生は授業を通して良い学習習慣を身につけることがとても大切です。毎週の授業の準備 (記事を読んだり、トピックに関する |

学生へのメッセージ等

るポッドキャストを聞いたりする)に加えて、学生は毎週、次のことに十分な時間を取る必要があります:

- (1) 語彙の勉強 (AWLとSWL)
- (2) Xreadingのバーチャルライブラリで本を読むこと

| | |
|--------|-------------------|
| 講義コード | I18123A I18123B |
| 講義名称 | 医療に関わる倫理学Ⅰ |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Clinical Ethics I |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 池邊 寧 |
| 全担当教員 | 池邊 寧 |
| 概要 | <p>医療行為は患者の身体や生命、患者や患者の家族の人生に深く関わる。それだけに医療行為に携わる者には、医学・看護学に関する専門的な知識や技術だけでなく、人間に対する深い認識や高い倫理的意識をもつことが求められる。</p> <p>本講義では、現代医療が抱える諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | <input type="checkbox"/> 医療倫理・研究倫理の重要性を理解し、倫理的に適切な行動について説明できる。 <input type="checkbox"/> 医療現場で直面する倫理的問題について、倫理的な考え方に依拠して自分で対応策を立てることができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <input type="checkbox"/> 社会と医学・医療の関係を理解し、人々の行動について説明できる。 <input type="checkbox"/> 生と死に関わる倫理的問題を理解し、自身の考えを述べるができる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <input type="checkbox"/> 多様な人生観・価値観を理解し、医療現場における倫理的葛藤への対処について説明できる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | — |
| VI 国際的視野と科学的探究 | — |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■ ミニツペーパー（100％）《I, II, IV》</p> |
| 出席確認方法 | <p>出席確認端末、および講義時に課すミニツペーパーで確認する。</p> <p>出席確認端末に打刻があっても、ミニツペーパーの回答がない場合は欠席とする。</p> |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|--------------------------------|---|-----|------|
| 1 | 第1回 倫理学と医療倫理学 | | 池邊 | 講義 |
| 2 | 第2回 人間の尊厳と医療 | | 池邊 | 講義 |
| 3 | 第3回 患者の自己決定権 | | 池邊 | 講義 |
| 4 | 第4回 インフォームド・コンセント（1）、共同意思決定 | インフォームド・コンセントの定義と構成要素、共同意思決定 | 池邊 | 講義 |
| 5 | 第5回 インフォームド・コンセント（2）、患者の権利 | インフォームド・コンセントの歴史的経緯（1）- 診療におけるIC-、患者の権利 | 池邊 | 講義 |
| 6 | 第6回 インフォームド・コンセント（3）、研究倫理 | インフォームド・コンセントの歴史的経緯（2）- 研究におけるIC-、研究倫理 | 池邊 | 講義 |
| 7 | 第7回 インフォームド・アセント | 子どもの自己決定、インフォームド・アセント | 池邊 | 講義 |

| | | | | |
|----|-----------------------------|-----------------|----|----|
| 8 | 第8回 守秘義務 | | 池邊 | 講義 |
| 9 | 第9回 生殖医療の倫理的諸問題（1） | 社会問題としての不妊、人工授精 | 池邊 | 講義 |
| 10 | 第10回 生殖医療の倫理的諸問題（2） | 体外受精、卵子凍結 | 池邊 | 講義 |
| 11 | 第11回 生殖医療の倫理的諸問題（3） | 代理出産、子宮移植 | 池邊 | 講義 |
| 12 | 第12回 出生前診断の倫理的諸問題 | | 池邊 | 講義 |
| 13 | 第13回 移植医療の倫理的諸問題（1） | 脳死、日本の臓器移植法 | 池邊 | 講義 |
| 14 | 第14回 移植医療の倫理的諸問題（2） | 生体移植 | 池邊 | 講義 |
| 15 | 第15回 エンド・オブ・ライフケアの倫理的諸問題 | | 池邊 | 講義 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。 |
| テキスト | 使用しない。随時プリントを配布する。 |
| 参考書 | 松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 明確な問題意識を持って講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。 |

| | |
|--------|--------------------|
| 講義コード | I181240 |
| 講義名称 | 医療に関わる倫理学Ⅱ |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Clinical Ethics II |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 池邊 寧 |
| 全担当教員 | 池邊 寧 |
| 概要 | <p>生命科学や医療技術の発達に伴って、技術的に可能なことと倫理的に容認されることの間にはどのような折り合いをつけていけばよいのかが問われる場面が多々生じている。われわれは今日、従来の生命観や価値観を問い直すことを余儀なくされている。</p> <p>本講義では「医療に関わる倫理学Ⅰ」に引き続き、現代医療をめぐる倫理的諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | <input type="checkbox"/> 医療倫理・研究倫理の重要性を理解し、倫理的に適切な行動について説明できる。 <input type="checkbox"/> 医療現場で直面する倫理的問題について、倫理的な考え方に依拠して自分で対応策を立てることができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <input type="checkbox"/> 社会と医学・医療の関係を理解し、人々の行動について説明できる。 <input type="checkbox"/> 生と死に関わる倫理的問題を理解し、自身の考えを述べることができる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <input type="checkbox"/> 多様な人生観・価値観を理解し、医療現場における倫理的葛藤への対処について説明できる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | — |
| VI 国際的視野と科学的探究 | — |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | <p>◇ 内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■ ミニツペーパー（100％）《I, II, IV》</p> |
| 出席確認方法 | <p>出席確認端末、および講義時に課すミニツペーパーで確認する。</p> <p>出席確認端末に打刻があっても、ミニツペーパーの回答がない場合は欠席とする。</p> |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|------------------------|----------------------------|-----|------|
| 1 | 第1回 パンデミックの倫理学 | | 池邊 | 講義 |
| 2 | 第2回 医学研究の倫理（1） | 歴史的経緯 | 池邊 | 講義 |
| 3 | 第3回 医学研究の倫理（2） | 研究参加者の保護 | 池邊 | 講義 |
| 4 | 第4回 動物実験の倫理 | | 池邊 | 講義 |
| 5 | 第5回 人工妊娠中絶とパーソン論（1） | 優生保護法から母体保護法へ、アメリカにおける中絶論争 | 池邊 | 講義 |
| 6 | 第6回 人工妊娠中絶とパーソン論（2） | パーソン論の展開 | 池邊 | 講義 |
| 7 | 第7回 重症新生児治療の差し控えと中止 | | 池邊 | 講義 |

| | | | | |
|----|------------------------|-------------|----|----|
| 8 | 第8回 エンハンスメントの倫理的諸問題 | | 池邊 | 講義 |
| 9 | 第9回 ナラティブと医療（1） | E B MとN B M | 池邊 | 講義 |
| 10 | 第10回 ナラティブと医療（2） | ナラティブ・メディスン | 池邊 | 講義 |
| 11 | 第11回 痛み（1） | 痛みと人間 | 池邊 | 講義 |
| 12 | 第12回 痛み（2） | 痛みと医療 | 池邊 | 講義 |
| 13 | 第13回 死生観の諸相 | | 池邊 | 講義 |
| 14 | 第14回 緩和ケア | | 池邊 | 講義 |
| 15 | 第15回 スピリチュアル・ケア | | 池邊 | 講義 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。 |
| テキスト | 使用しない。随時プリントを配布する。 |
| 参考書 | 松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 明確な問題意識をもって講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。 |

| | |
|--------|------------|
| 講義コード | I181250 |
| 講義名称 | 哲学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Philosophy |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 池邊 寧 |
| 全担当教員 | 池邊 寧 |
| 概要 | <p>哲学的思索は、世界や人間の根本原理を追求する営みである。それゆえ、現実と遊離したところで行われる「机上の空論」という印象を抱く人がいるかもしれない。しかし、哲学が理念として描く事柄は、現実の日常生活から抽出した事柄である。哲学的思索の出発点は今ここに生きる「私」であり、「私を取り巻く現実」である。</p> <p>本講義では以下に列挙した主題について、主として西洋の哲学思想を手がかりにしながら考えていくことにする。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | <input type="checkbox"/> 人の生と死に深く関わる医師にふさわしい哲学的教養を身につける。 <input type="checkbox"/> 医師の職責を自覚し、人間としてよりよく生きる道を探求することができる。 <input type="checkbox"/> 答えのない問いについて考え続けることができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <input type="checkbox"/> 哲学と医学・医療の関わりを理解し、自身の考えを述べることができる。 <input type="checkbox"/> ささまざまな哲学思想を理解し、人々の行動について説明できる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <input type="checkbox"/> ディスカッションにおいて自身の考えを明確に述べるができる。 <input type="checkbox"/> レポートを適切に作成し、自分の考えを提示することができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | — |
| VI 国際的視野と科学的探究 | — |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | <p>◇内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■ 受講態度（40％）《I, II, IV》 ■ レポート（60％）《I, II, IV》</p> |
| 出席確認方法 | <p>出席確認端末、および講義時に課すミニツペーパーで確認する。 出席確認端末に打刻があっても、ミニツペーパーの回答がない場合は欠席とする。</p> |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|-------------------|---------------|-----|-------|
| 1 | 第1回 哲学とは何か | 哲学とは何か、挨拶について | 池邊 | 講義・演習 |
| 2 | 第2回 私とは | | 池邊 | 講義・演習 |
| 3 | 第3回 他者とは | | 池邊 | 講義・演習 |
| 4 | 第4回 アイデンティティとは | | 池邊 | 講義・演習 |
| 5 | 第5回 反出生主義 | | 池邊 | 講義・演習 |

| | | | | |
|----|-----------------|--|----|-------|
| 6 | 第6回 生の肯定 | | 池邊 | 講義・演習 |
| 7 | 第7回 生きることの意味 | | 池邊 | 講義・演習 |
| 8 | 第8回 友情 | | 池邊 | 講義・演習 |
| 9 | 第9回 愛の諸相 | | 池邊 | 講義・演習 |
| 10 | 第10回 ルッキズム | | 池邊 | 講義・演習 |
| 11 | 第11回 働くということ | | 池邊 | 講義・演習 |
| 12 | 第12回 自由意志 | | 池邊 | 講義・演習 |
| 13 | 第13回 人格の同一性 | | 池邊 | 講義・演習 |
| 14 | 第14回 心と身体 | | 池邊 | 講義・演習 |
| 15 | 第15回 死と不死 | | 池邊 | 講義・演習 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。 |
| テキスト | 使用しない。随時、プリントを配布する。 |
| 参考書 | 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。 |
| 学生へのメッセージ等 | 哲学には絶対に正しいといえる答えはありません。大切なのは「自分で考えること」です。 受講者数にもよりますが、ディスカッション中心の講義を行う予定です。 講義で取り上げる主題は受講者数、受講者の要望などに応じて、適宜、変更します。 積極的に問題提起されることを望みます。 |

| | |
|--------|-------------------------|
| 講義コード | I18126A I18126B I18126C |
| 講義名称 | アジア文化論 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Asian Culture |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授） |
| 全担当教員 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授）／浅井 良純（韓国文化）／水野 杏紀（中国文化）／富岡 三智（インドネシア文化） |
| 概要 | <p>[浅井（韓国文化）]</p> <p>戦後、朝鮮半島では大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）という二つの国家として独立し、対立するなかで民族が分断された状態にある。また近年、日韓両政府はいわゆる「徴用工」や「慰安婦」などの問題を抱えている。さらに朝鮮半島問題を複雑にしているのは、それを取り巻く米国・中国・ロシア・日本などの利害が交差しているためである。本講座では朝鮮半島問題について、南北関係やそれを取り巻く地政学的環境、そして文化的相違性に留意しながら考察する。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）]</p> <p>インドネシアは世界最大のイスラム人口を抱えながら、多様な民族・宗教・文化を擁し、「多様性の統一」を国是とする国である。日本と歴史的、政治的、経済的に関わりの深いインドネシアの文化を知ることを通して、多様な価値を認め合い共存を目指す社会について考える。</p> <p>[水野（中国文化）]</p> <p>中華文化圏とは中国、香港、台湾などの文化エリアを示す。本講義では、この文化圏の歴史、地理、気候、民族、言語、さらには暦法と習俗、飲食と養生、思想（諸子百家）、芸術文化などを学び、中華文化圏の特性を総合的に理解する。さらに学生の関心が高い医学との関連を踏まえた項目、たとえば現代中国の医療事情と、昨今高まる医療インバウンドと中国人の関連、中国人の不老長生の観念などを考察する。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | <p>[浅井（韓国文化）]</p> <p>韓国の現代史や歴史問題を通じて文化的共通性と相違性から韓国における倫理観の背景を理解する。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）]</p> <p>帰属する社会や宗教の違いによって死生観や倫理観が異なることを理解し、患者中心の立場に立つことができる。</p> <p>[水野（中国文化）]</p> <p>古代中国の諸子百家である孔子の「仁」「恕」、老子の「道」などの思想を通じ、倫理観を備えたプロフェッショナルな人材になることを目指すことができる。</p> |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <p>浅井（韓国文化）]</p> <p>朝鮮半島の南北関係やそれを取り巻く地政学的環境や文化的相違を理解することで、この地域の医療にたずさわる際の基礎となる知識を学ぶ。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）]</p> <p>日本と異なる死生観や生活習慣があることを理解し、治療において判断の基盤となる知識を修得している。</p> <p>[水野（中国文化）]</p> <p>中国伝統医学に根ざした本草や養生の学びにより、医学に関連する幅広い領域の知識を得ることができる。</p> |
| III 医療の実践 | <p>[浅井（韓国文化）]</p> <p>—</p> <p>[富岡（インドネシア文化）]</p> <p>—</p> <p>[水野]</p> <p>—</p> |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <p>[浅井（韓国文化）]</p> <p>韓国の医療チームと交流のための文化的基礎知識（文化・歴史的相違性）を習得する。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）]</p> <p>患者が属する社会や宗教の慣習を理解し、コミュニケーションを取りながら医療を実践するため、基盤となる知識を修得している。</p> <p>[水野（中国文化）]</p> <p>自分の属するチームを目標達成に導き、人材育成につながるマネジメント力を磨き、多様な人びとの思考を理解できるコミュニケーション能力について理解することができる。</p> |

| | |
|--------------------------|--|
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | <p>[浅井（韓国文化）] — [富岡（インドネシア文化）] — [水野（中国文化）] 古来、東アジアでは多様な共同体のなかで良好な人間社会を形成し、各々が社会に役立つことを目指した。こうした歴史的な学びを通し、現代における社会貢献とは何かを考えることができる。</p> |
| VI 国際的視野と科学的探究 | <p>[浅井（韓国文化）] 朝鮮半島の諸問題を地政学的特徴（米・ロ・中・日の利害交差）の理解をもとに認識・分析することが出来る。 [富岡（インドネシア文化）] 医療と医学研究を考える上で、国際社会の多様な価値観を視野に入れ、共存してゆくことができるよう、基盤となる知識を修得している。 [水野（中国文化）] アジアは日本が属するエリアであり、多様な民族、さまざまな国家、人口の圧倒的パワーを持つ。その文化を学ぶことから、国際的視野を持つ人材となることを目指すことができる。</p> |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 | <p>④ 内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>[浅井（韓国文化）] ■受講評価（授業毎に提出するミニレポートの内容と回数）40%《Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ,Ⅵ》 ■試験（最終講義(5回目)の後半で到達度確認のための試験を行う）60%による総合評価《Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ,Ⅵ》</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] ■各回（5回）のミニレポートの内容（20%）《Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ,Ⅵ》 ■5回目の授業で実施する確認テスト（80%）《Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ,Ⅵ》</p> <p>[水野（中国文化）] ■小テスト（初回から四回の授業最後に行いその理解度をみる）（40%）《Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ,Ⅴ,Ⅵ》 ■期末試験（第五回の授業最後に行い総合的な理解度を評価する）（60%）《Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ,Ⅴ,Ⅵ》</p> |
| 出席確認方法 | <p>出席確認端末及び授業中のミニレポートの提出で確認する。</p> <p>出席確認端末に打刻があっても、ミニレポートの回答がない場合は欠席とする。</p> |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|----------------------------|--------------|------|
| 1 | 第1回 朝鮮半島の地政学的構造と現代史（1） | 浅井（韓国文化） | 講義 |
| 2 | 第2回 朝鮮半島の地政学的構造と現代史（2） | 浅井（韓国文化） | 講義 |
| 3 | 第3回 日韓歴史問題の構造と認識（1） | 浅井（韓国文化） | 講義 |
| 4 | 第4回 日韓歴史問題の構造と認識（2） | 浅井（韓国文化） | 講義 |
| 5 | 第5回 日韓歴史問題の構造と認識（3） | 浅井（韓国文化） | 講義 |
| 6 | 第6回 インドネシアの地理、歴史、言語、宗教 | 富岡（インドネシア文化） | 講義 |
| 7 | 第7回 インドネシアの様々な死生観 | 富岡（インドネシア文化） | 講義 |
| 8 | 第8回 インドネシアの衣食住 | 富岡（インドネシア文化） | 講義 |
| 9 | 第9回 インドネシアの現代史、日本との関わり | 富岡（インドネシア文化） | 講義 |
| 10 | 第10回 インドネシアの観光と文化、確認テスト | 富岡（インドネシア文化） | 講義 |

| | | | |
|----|---------------------------------------|----------|----|
| 11 | 第11回 中華文化圏の特性（歴史、地理、気候、言語、民族、漢字） | 水野（中国文化） | 講義 |
| 12 | 第12回 中華文化圏の暦法と歳時記（元旦、清明節、端午節、重陽節） | 水野（中国文化） | 講義 |
| 13 | 第13回 中華文化圏の飲食と養生（四季の食養生、中国六大茶） | 水野（中国文化） | 講義 |
| 14 | 第14回 中華文化圏の思想（諸子百家の思想、孔子、孟子、老子、荘子） | 水野（中国文化） | 講義 |
| 15 | 第15回 中華文化圏の芸術（書画、絵画、民居、庭園） | 水野（中国文化） | 講義 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | <p>[浅井（韓国文化）] 朝鮮半島の諸問題（北朝鮮の核・拉致問題、徴用工や慰安婦問題など）に関するニュースをチェックする。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] 高校の世界史の授業で学んだことを復習したり、日々のインドネシアに関わるニュースをチェックしたりする。</p> <p>[水野（中国文化）] 中国に関して、メディアや出版物などを通じ、歴史や文化、政治、経済など幅広く情報を収集する。</p> |
| テキスト | <p>[浅井（韓国文化）] 特になし、また必要な資料は講義時に配布する。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] 特に使用しない。毎回の授業で必要な資料を配布する。</p> <p>[水野（中国文化）] なし。必要に応じてレジュメを配布する。</p> |
| 参考書 | <p>[浅井（韓国文化）] 授業中に紹介する。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] 授業中に紹介する。</p> <p>[水野（中国文化）] 水野杏紀『易、風水、暦、養生、処世 東アジアの宇宙観』（講談社選書メチエ、講談社、2016年）</p> |
| 学生へのメッセージ等 | <p>[浅井（韓国文化）] 朝鮮半島は日本に隣接する地域でありながら理解を難しくしている要因の一つが半島を取り巻く国際環境にあります。東アジア全体から朝鮮半島の諸問題を捉えなおしてみましょう。 注意：授業中、私語等で注意を受けた場合、評価対象から外れる場合があるので注意されたい。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] 現在は海外に駐在・留学する日本人の数も、また日本に在留する外国人の数も増え、相互理解の必要性はますます高まっています。皆さんの職業人生において、異なる文化背景の人々とどのように接してゆくべきか、この講義を契機として考えてみてください。</p> <p>[水野（中国文化）] 日本は中国と古くよりさまざまな交流があり、思想や文化、技術、芸術など多くのものが伝播し、これらはまた日本で独自の発展を遂げています。中国を理解することは日本を理解することにもつながります。そうした視点も踏まえながら、学んでほしいと思います。</p> |

| | |
|--------|-------------------------|
| 講義コード | I18127A I18127B I18127C |
| 講義名称 | 西洋文化論 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Western Culture |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授） |
| 全担当教員 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授）／池邊 寧（ドイツ文化）／勝井 伸子（アメリカ文化）／三原 大輝（フランス文化） |
| 概要 | <p>[池邊（ドイツ文化）] ナチ時代のドイツを取り上げ、ドイツ国民はなぜヒトラーを支持したのか、戦後ドイツがナチ時代とどう向き合ってきたのかについて考えていく。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 21世紀の現在の世界に大きな影響力を及ぼしているアメリカの文化を形成するヒーロー、フロンティア、移民といったいくつかの要素からアメリカ文化を理解することから、アメリカ人にとっての世界の見え方を理解し、また同時にアメリカ文化がグローバル化とともに世界に浸透しているということを改めて認識することで、世界の中で生きる視点を持つことを目的とする。</p> <p>[三原（フランス文化）] 恋愛を主題として描いたフランス文学作品を精選し、それぞれの作品が成立した歴史的・社会的・文化的背景を横断的に考察する。中世文学における宮廷愛の観念から近代以降の心理小説まで、「恋愛」という普遍的テーマがどのように文学の中で表象され、また変容してきたのかを多角的に検討する。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | <p>[池邊（ドイツ文化）] 医療者の職責を自覚し、人間の多様性を尊重することができる。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 幅広い教養と深い洞察力を備えた医療人となるべく、広く世界に目を向け、常に共感をもって異文化に接することができる。</p> <p>[三原（フランス文化）] 医療者の職責を自覚し、人間の多様性を尊重することができる。</p> |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <p>[池邊（ドイツ文化）] 時代の流れや社会の状況のなかで医学・医療について理解できる。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 他国の歴史や文化に触れることにより、自身の考えを相対化することができる。</p> <p>[三原（フランス文化）] 他国の歴史や文化に触れることにより、自身の考えを相対化することができる。</p> |
| III 医療の実践 | <p>[池邊（ドイツ文化）] —</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] —</p> <p>[三原（フランス文化）] —</p> |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <p>[池邊（ドイツ文化）] レポートを適切に作成し、自分の考えを提示することができる。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] アメリカ文化の特徴、日本文化との違いなどについて、自分なりに分析したことを、論理的な文章構成で伝えることができる。</p> <p>[三原（フランス文化）] レポートを適切に作成し、自分の考えを提示することができる。</p> |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | <p>[池邊（ドイツ文化）] —</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] アメリカの医療・医療保険制度と文化、歴史との関係について理解し、説明できる。</p> <p>[三原（フランス文化）] —</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| VI 国際的視野と科学的探究 | <p>[池邊（ドイツ文化）] 他国の歴史や文化を理解し、国際的な視野に立って医学・医療のあり方を考えることができる。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 自国以外の地域の文化を、探求心を持って学ぶことができる。授業で得られた知識を自分の言葉で整理し、それに基づいて考察することができる。</p> <p>[三原（フランス文化）] 他国の歴史や文化を理解し、国際・学際的な視野に立って医学・医療のあり方を考えることができる。</p> |
|-----------------------|--|

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>[池邊（ドイツ文化）] ■ミニッツペーパー（100%）《Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅵ》</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] ■授業中ミニレポート・貢献度（50%）《Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ》 ■期末レポート（50%）《Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ》</p> <p>[三原（フランス文化）] ■ミニッツペーパー（100%）《Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅵ》</p> |
| 出席確認方法 | <p>[池邊（ドイツ文化）] 出席確認端末、および講義時に課すミニッツペーパーで確認する。 出席確認端末に打刻があっても、ミニッツペーパーの回答がない場合は欠席とする。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 出席確認端末、および講義時に課すミニッツペーパーで確認する。 出席確認端末に打刻があっても、ミニッツペーパーの回答がない場合は欠席とする。</p> <p>[三原（フランス文化）] 出席確認端末、および講義時に課すミニッツペーパーで確認する。 出席確認端末に打刻があっても、ミニッツペーパーの回答がない場合は欠席とする。</p> |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|-----------------------------------|------------|------|
| 1 | 第1回 ナチズムと現代 | 池邊（ドイツ文化） | 講義 |
| 2 | 第2回 ナチ時代のドイツ国民 反ナチス抵抗運動 | 池邊（ドイツ文化） | 講義 |
| 3 | 第3回 ナチスの優生思想と医学 | 池邊（ドイツ文化） | 講義 |
| 4 | 第4回 ホロコースト | 池邊（ドイツ文化） | 講義 |
| 5 | 第5回 戦後ドイツの歩み—過去の克服— | 池邊（ドイツ文化） | 講義 |
| 6 | 第6回 アメリカ文化におけるヒーロー | 勝井（アメリカ文化） | 講義 |
| 7 | 第7回 アメリカ文化の特質としてのフロンティア | 勝井（アメリカ文化） | 講義 |
| 8 | 第8回 イデオロギーとしてのアメリカの農民 | 勝井（アメリカ文化） | 講義 |
| 9 | 第9回 アメリカの主流文化の形成と移民 | 勝井（アメリカ文化） | 講義 |
| 10 | 第10回 フロンティアの経験と暴力 | 勝井（アメリカ文化） | 講義 |
| 11 | 第11回 中世 『トリスタンとイゾー』 | 三原（フランス文化） | 講義 |
| 12 | 第12回 17世紀 ラファイエット夫人 『クレヴの奥方』 | 三原（フランス文化） | 講義 |
| 13 | 第13回 18世紀 アヴェ・プレヴォー 『マノン・レスコー』 | 三原（フランス文化） | 講義 |

| | | | |
|----|--|------------|----|
| 14 | 第14回 19世紀 スタンダール『赤と黒』 | 三原（フランス文化） | 講義 |
| 15 | 第15回 20世紀 ブルースト『失われた時を求めて』より「スワンの恋」 | 三原（フランス文化） | 講義 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | <p>[池邊（ドイツ文化）] 講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 5回目授業終了後3週間以内に最終レポート提出</p> <p>[三原（フランス文化）] 講義時に配布する資料を用いて、復習・予習を必ず行うこと。</p> |
| テキスト | <p>[池邊（ドイツ文化）] 使用しない。随時、プリントを配布する。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 使用しない。随時、資料を配布する。</p> <p>[三原（フランス文化）] 使用しない。随時、資料を配布する。</p> |
| 参考書 | <p>[池邊（ドイツ文化）] 講義中に随時紹介する。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 講義中に随時紹介する。</p> <p>[三原（フランス文化）] 講義中に随時紹介する。</p> |
| 学生へのメッセージ等 | <p>[池邊（ドイツ文化）] 他国のこと、昔のことと突き放さず、自分に引きつけて受講してください。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 今まで特に意識していなかったことを前景化する＝意識化することで、世界の見え方が変わる！という経験を一緒に味わえればと思います。授業中の質問やコメントは貢献度として評価しますので、みなさんの積極的な参加を期待しています。</p> <p>[三原（フランス文化）] 授業で取り上げるのは文化の一断面に過ぎません。この点に留意し、これから自分自身で社会を見つめる際の参考にしてください。</p> |

| | |
|--------|-----------------------------|
| 講義コード | I18129E I18129F |
| 講義名称 | 教育実践論A1・B1 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Theory of Teaching Practice |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター） |
| 全担当教員 | 若月 幸平（教育開発センター） / 板橋 孝幸 |
| 概要 | 本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医療者として医療倫理に基づき、生涯にわたる自己学習の重要性を理解できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 医療者として身に付けるべき人の成長や発達についての基礎を理解できる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | レポートを規定に従って適切に作成するとともに、グループワークを通してチーム医療に必要な基礎的コミュニケーション技能を養い、プレゼンテーションができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医療者として社会に関わる大切さと貢献のあり方について、キャリアデザインと重ねて考えることができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | — |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■授業の振り返り：30%《I, II, V》</p> <p>■レポート、プレゼンテーション：30%《I, II, IV, V》</p> <p>■最終試験：40%《I, II, V》</p> |
| 出席確認方法 | 出席確認端末及び授業中の振り返り記入で確認する。出席確認端末に打刻があっても、振り返りの記入がない場合は欠席とする。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|------|--|-----|-------|
| 1 | 第1回 | オリエンテーション | 板橋 | 講義 |
| 2 | 第2回 | 教育における理念と目的 | 板橋 | 講義 |
| 3 | 第3回 | 教授論①：人に教えるということ | 板橋 | 講義 |
| 4 | 第4回 | 教授論②：教育における目標と評価 | 板橋 | 講義 |
| 5 | 第5回 | 教授論③：よりよい患者教育を行うためには | 板橋 | 講義 |
| 6 | 第6回 | 学習論①：大学での学びと職業に就いてからの学びの違い | 板橋 | 講義 |
| 7 | 第7回 | 学習論②：生涯学習の意義と役割 | 板橋 | 講義 |
| 8 | 第8回 | 学習論③：学び続ける医療従事者になるためには | 板橋 | 講義 |
| 9 | 第9回 | 教育の方法と技術①：課題の設定と解決の工夫（発表準備1回目含む） | 板橋 | 講義・演習 |
| 10 | 第10回 | 教育の方法と技術②：協同学習の要件と技法（発表準備2回目含む） | 板橋 | 講義・演習 |
| 11 | 第11回 | 教育の方法と技術③：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 1回目 | 板橋 | 講義・演習 |
| 12 | 第12回 | 教育の方法と技術④：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 2回目 | 板橋 | 講義・演習 |

| | | | | |
|----|------|--|----|-------|
| 13 | 第13回 | 教育の方法と技術⑤：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 3回目 | 板橋 | 講義・演習 |
| 14 | 第14回 | 教育の方法と技術⑥：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 4回目 | 板橋 | 講義・演習 |
| 15 | 第15回 | まとめ | 板橋 | 講義・演習 |

| | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業中に指示する。 |
| テキスト | なし |
| 参考書 | 木村元編『教育学』医学書院、2024年 |
| 学生へのメッセージ等 | グループによる話し合いを行うので、主体的に授業に取り組むことを期待する。 |

| | |
|--------|-----------------------------|
| 講義コード | I18129C I18129D |
| 講義名称 | 教育実践論A2・B2 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Theory of Teaching Practice |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授） |
| 全担当教員 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授）／杉野 竜美 |
| 概要 | 本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 医療者として医療倫理に基づき、生涯にわたる自己学習の重要性を理解できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 医療者として身に付けるべき人の成長や発達についての基礎を理解できる。 |
| III 医療の実践 | － |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | レポートを規定に従って適切に作成するとともに、グループワークを通してチーム医療に必要な基礎的コミュニケーション技能を養い、プレゼンテーションができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医療者として社会に関わる大切さと貢献のあり方について、キャリアデザインと重ねて考えることができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | － |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | <p>①内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■毎回実施するワークシートand/or課題and/orミニッツペーパー 60%（5点×12回）≪I、II≫</p> <p>■プレゼンテーション 20%（10点×2回）≪IV、V≫</p> <p>■最終授業における試験 20%≪V≫</p> |
| 出席確認方法 | 出席確認端末及び授業中の課題（ワークシートやミニッツペーパーを含む）の提出で確認する。出席確認端末の打刻があっても、課題が提出がない場合は欠席とする。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|--------------------------------|----------------------------|-----|------|
| 1 | 第1回 オリエンテーション | 医療従事者における教育実践学を学ぶ意義 | 杉野 | 講義 |
| 2 | 第2回 社会の中の医療と教育 | 機能化された社会の特徴・課題 | 杉野 | 講義 |
| 3 | 第3回 教育とは何か① | 人として生きるための教育の役割 | 杉野 | 講義 |
| 4 | 第4回 教育とは何か② | 「教育の概念」の整理 | 杉野 | 講義 |
| 5 | 第5回 人間の発達 | 子ども観の形成／「発達」という見方 | 杉野 | 講義 |
| 6 | 第6回 社会教育・生涯教育 | 学びの継続／社会教育プログラムをデザインする | 杉野 | 講義 |
| 7 | 第7回 プレゼンテーション：社会教育プログラム | | 杉野 | 講義 |
| 8 | 第8回 「教授・学習」学ぶということ、教えるということ | 他者との関わり／コミュニケーション／リーダーシップ論 | 杉野 | 講義 |

| | | | | |
|----|--------------------------------------|----------------------------|----|--------------|
| 9 | 第9回 個別指導の方法 | 経験学習の支援／コーチング | 杉野 | 講義 |
| 10 | 第10回 集団研修の方法 | 講義法の長所と課題／協同学習／研修運営の技法 | 杉野 | 講義 |
| 11 | 第11回 教育評価 | 目標の設定／教育評価の方法／研修&評価をデザインする | 杉野 | 講義／グループワーク |
| 12 | 第12回 プレゼンテーション&評価：集団研修プログラム | | 杉野 | プレゼンテーション／講義 |
| 13 | 第13回 インクルーシブ教育（イタリアの例） | | 杉野 | 講義 |
| 14 | 第14回 多文化ソーシャルワークにおける課題（医療分野・教育分野） | | 杉野 | 講義 |
| 15 | 第15回 現代社会における教育 | ※授業内試験 | 杉野 | 講義 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 各回授業の最後に、次回の授業テーマを示しますので、関連事項を想像することを事前学修とします。授業内で完了できない課題は事後学修とします。 |
| テキスト | なし |
| 参考書 | 授業内で随時紹介します。 |
| 学生へのメッセージ等 | 知識や技能を獲得するだけでなく、「これらを使って何を考えるか」「何ができるか」という意識をもって授業に参加してください。 |

| | |
|--------|---------------------|
| 講義コード | I18130A |
| 講義名称 | 臨床心理学 A |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Clinical Psychology |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授） |
| 全担当教員 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授）／森 真治 |
| 概要 | 科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格的成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 人の発達・成長のあり方の理解を通して、医学生として相応しい行動を認識できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 対人援助職として、身につけるべき基本的なスキルや態度の基礎を理解できる。 |
| III 医療の実践 | 心理的な問題を抱えた人の理解と援助について、アセスメントする能力を習得する。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | □不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深めることができる。 □上記の者に対する具体的な援助方法・技術・姿勢等について理解できる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医療現場における心理社会的ニーズと必要な支援について理解できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 臨床心理学の実践に求められる様々な知見や研究を理解できる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■受講態度（提出物なども含む）（40%）《I, II, III, VI, V, VI》 ■定期試験（60%）《I, II, III, VI, V, VI》 |
| 出席確認方法 | 教室に設置された出席確認端末にカードをかざすことにより出席確認を行う。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 年月日(曜日) | 担当者 | 授業形態 |
|----|-------------------------------------|--|---------------|-----|------|
| 1 | 第1回 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史 | 受講にあたっての留意点を確認したうえで、臨床心理学とは何かについて、臨床心理学の歴史とその現代的意義を概観する | 2026/09/28(月) | 森 | 講義 |
| 2 | 第2回 人の心の理解① 知覚・認知・記憶 | 知覚・認知の機能および記憶のしくみについて学び、人がどのように世界を捉えているのかを理解する。 | 2026/10/05(月) | 森 | 講義 |
| 3 | 第3回 人の心の理解② 学習・動機・発達 | 学習理論や動機づけについて学ぶとともに、ピアジェやエリクソンなどの発達段階の考え方を通して、パーソナリティ形成の過程について理解する。 | 2026/10/19(月) | 森 | 講義 |
| 4 | 第4回 人の心の理解③ 対人関係と愛着・アタッチメント | 愛着・アタッチメントの考え方を通して、人が他者とどのような関係を築くのか、その基盤となる心の働きについて学ぶ。 あわせて、コミュニケーションのあり方が感情や行動、対人関係にどのような影響を及ぼすのかを理解する。 | 2026/10/26(月) | 森 | 講義 |
| 5 | 第5回 臨床心理学的アセスメント ① 現在の状態を把握する | 臨床心理学的アセスメントの基本的な考え方を学び、質問紙法や認知機能検査、高次脳機能検査を通して、現在の心理状態や認知機能をどのように把握するのかを理解する。 | 2026/11/02(月) | 森 | 講義 |

| | | | | | |
|----|---------------------------------------|--|---------------|---|----|
| 6 | 第6回 臨床心理学的アセスメント ② 発達と個人特性を理解する | 発達検査、知能検査、性格検査を通して、発達の背景や個人特性をどのように理解するのかを学ぶ。 検査結果を固定的に捉えるのではなく、臨床的な見立てとして活用する視点について理解する。 | 2026/11/09(月) | 森 | 講義 |
| 7 | 第7回 臨床心理学的理解① 発達特性をめぐる理解 | 自閉スペクトラム症を素材として、発達特性が対人関係や行動、感情体験にどのように影響するかを理解し、臨床心理学的な見立ての視点を学ぶ。 | | 森 | 講義 |
| 8 | 第8回 臨床心理学的理解② 学習・注意の困難をどう理解するか | ADHDや限局性学習症を素材に、注意・衝動性・学習の困難について臨床心理学の視点から理解する。 | 2026/11/16(月) | 森 | 講義 |
| 9 | 第9回 臨床心理学的理解③ 高齢期の心と心理アセスメント | 認知症や高次脳機能障害を素材として、高齢期にみられる心理的特徴や体験のあり方について理解する。 もの忘れ検査などの心理アセスメントが、高齢者の理解や支援の検討においてどのような役割を果たしているのかを学ぶ。 | 2026/11/30(月) | 森 | 講義 |
| 10 | 第10回 臨床心理学的理解④ 身体的条件と心理的体験 | 視覚・聴覚・肢体の障害を素材として、身体的条件が心理的体験や対人関係にどのような影響を及ぼすのかを理解する。 あわせて、そのような体験世界を踏まえたときに、心理職が関わる意義について考える。 | 2026/12/07(月) | 森 | 講義 |
| 11 | 第11回 臨床心理学的支援① 精神分析的アプローチ | 精神分析的アプローチの基本的な考え方を通して、人の心や対人関係、症状の意味をどのように理解するのかを学ぶ。 | 2026/12/14(月) | 森 | 講義 |
| 12 | 第12回 臨床心理学的支援② 認知行動療法・支持的アプローチ | 認知行動療法および支持的アプローチの基本的な考え方について学び、困難をどのように整理し、現実的な変化や安定につなげていくのかを理解する。 | 2026/12/21(月) | 森 | 講義 |
| 13 | 第13回 臨床心理学的支援③ 気分障害・不安への支援 | うつや不安の理解を通して、心理学的支援がどのように関与できるのかを学ぶ。症状理解と支援の視点の関係について検討する。 | 2027/01/04(月) | 森 | 講義 |
| 14 | 第14回 臨床心理学的支援④ 依存をめぐる臨床心理学的理解と支援 | 依存行動の背景や反復の仕組みについて心理学的に理解し、関係性や環境との関連から支援のあり方を考える。 | | 森 | 講義 |
| 15 | 第15回 臨床心理実践に求められるもの | 倫理、守秘義務、多職種連携、スーパービジョンについて学び、専門職として人と向き合う際の姿勢や自己理解の重要性を考える。 | 2027/01/18(月) | 森 | 講義 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業外学習修については授業内で案内を行う。 |
| テキスト | 特になし。資料を授業中に配布します。 |
| 参考書 | 特になし。資料は授業の際に配布・紹介します。 |
| 学生へのメッセージ等 | 人の発達・成長・心のありかたに興味を持って、授業に積極的に参加することを望みます。 不適応や心の病気への理解を深め、自分自身の心の健康の維持にも留意していくことを望みます。 |

| | |
|--------|---------------------|
| 講義コード | I18130B |
| 講義名称 | 臨床心理学B |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Clinical Psychology |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授）／須磨 知美 |
| 全担当教員 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授）／須磨 知美 |
| 概要 | 科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格の成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 人の発達・成長のあり方の理解を通して、医学生として倫理に基づいた相応しい行動を認識できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 対人援助職として、身につけるべき基本的なスキルや態度の基礎を理解できる。 |
| III 医療の実践 | 心理的な問題を抱えた人の理解と援助について、アセスメントする能力を習得する。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <input type="checkbox"/> 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 上記の者に対する具体的な援助方法・技術・姿勢等について理解できる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医療現場における心理社会的ニーズと必要な支援について理解できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 臨床心理学の実践に求められるさまざまな知見や研究を理解できる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■授業態度（提出物なども含む）40% 《I, II, III, VI, V, VI》 ■定期試験 60% 《I, II, III, VI, V, VI》 |
| 出席確認方法 | 出席確認端末及び授業中のミニレポートで確認する。 出席確認端末に打刻があっても、ミニレポートの回答がない場合は欠席とする。 補講場合は授業内で出席確認方法を伝える。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 年月日(曜日) | 担当教員 | 授業形態 |
|----|------|---|---------------|-------|------|
| 1 | 第1回 | 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史 受講にあたっての留意点。臨床心理学とは、臨床心理学の歴史と現代的意義について学ぶ。 | 2026/09/28(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 2 | 第2回 | 人の心の理解 「知覚、認知」 知覚の機能、認知の機能と記憶のしくみを理解する。 | 2026/10/05(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 3 | 第3回 | 人の心の理解 「人の行動、学習、発達」 学習の理論、動機、ピアジェとエリクソン、生来的な気質や後天的に体験を通して学習について学ぶ。 | 2026/10/19(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 4 | 第4回 | 人の心の理解「アタッチメント（愛着）」 心身機能の発達とアタッチメントの発達、コミュニケーションのあり方、対人関係への影響について学ぶ。 | 2026/10/26(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 5 | 第5回 | 臨床心理学的アセスメント「質問紙法、認知機能検査、高次脳機能検査」 心理学的検査の仕組みを理解する。認知機能障害について学び、認知機能の評価方法について学ぶ。 | 2026/11/02(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 6 | 第6回 | 臨床心理学的アセスメント「発達検査、知能検査、性格検査」 さまざまな心理検査について概要を学ぶ。実際に性格検査を体験し、その検査のメリット・デメリット、限界について考える。 | 2026/11/09(月) | 須磨 知美 | 講義 |

| | | | | | |
|----|------------|---|---------------|-------|----|
| 7 | 第7回 | 臨床心理学的テーマ 「精神分析理論」 精神分析理論について概要を学ぶ。防衛機制について理解する。 | 2026/11/16(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 8 | 第8回 | 臨床心理学的テーマ 「認知行動療法」 認知行動療法の概要を学ぶ。認知再構成法が出来るようになる。 | 2026/11/30(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 9 | 第9回 | 臨床心理学的テーマ 「精神疾患、抑うつ、不安からおこる症状」 さまざまな精神疾患について概要を学ぶ。抑うつと不安の起こる状態の違いを学ぶ。 | 2026/12/07(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 10 | 第10回 | 臨床心理学的テーマ 「依存や自傷など行動化について」 さまざまな精神疾患について概要を学ぶ。、自傷、摂食障害の問題とその回復について理解する。 | 2026/12/14(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 11 | 第11回 | 臨床心理学的テーマ 「疾病別で生じる心理状態」 糖尿病や、心不全、癌、四肢切断など、身体疾患の症状にともない生じる心理反応について。正常な反応と治療が必要な反応との違いについて学ぶ。 | 2026/12/21(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 12 | 第12回 | 臨床心理学的テーマ 「喪失への心的反応、悲嘆」 身体の一部を失う場合、QOLを失う場合、死別への予期悲嘆、家族の悲嘆などさまざまな場面で生じる悲嘆反応を学び、反応の背景にある気持ちを推察できるようになる。 | 2027/01/04(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 13 | 第13回 | 臨床心理学的テーマ 「災害、被害、事故、トラウマ」 被災者支援のあり方、災害派遣医療チームについて学ぶ。事故や事件の被害者支援・加害者支援の実際について学ぶ。外傷的な出来事に直面した際の支援者が陥りやすい心理的危機について学ぶ。 | 2027/01/18(月) | 須磨 知美 | 講義 |
| 14 | 第14回 補講 | 臨床心理学的テーマ 「医療従事者のメンタルヘルス」 感情疲労など医療従事者に生じやすいメンタル不全やサポートを得にくい状態について学び、セルフマネジメントについて考える。 | | 須磨 知美 | 講義 |
| 15 | 第15回 補講 | 補講臨床心理学的テーマ 「学校でのメンタルヘルス、発達障害、虐待、不登校」 スクールカウンセラーの活動の実際、医療との連携について学ぶ。発達障害や虐待、不登校の理解と支援のアプローチについて学ぶ。 | | 須磨 知美 | 講義 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業外学修については授業内で案内を行う。 |
| テキスト | 資料を授業中に配布します。 |
| 参考書 | 資料を授業中に配布・紹介します。 |
| 学生へのメッセージ等 | 自分自身や臨場の現場で出会う人の背景として、発達・成長・心のありかたが関連していることを理解し、興味を持って、授業に積極的に参加することを望みます。 不適応や心の病気への理解を深め、自分自身の心の健康の維持にも留意していくことを望みます。 |

| | |
|--------|---------------------|
| 講義コード | I18130C |
| 講義名称 | 臨床心理学C |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Clinical Psychology |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授） |
| 全担当教員 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授）／宿谷 仁美 |
| 概要 | 科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助方法・技術・姿勢・倫理について学習する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 人の発達・成長のあり方の理解を通して、医学生として倫理に基づいた相応しい行動を認識できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 対人援助職として、身につけるべき基本的なスキルや態度の基礎を理解できる。 |
| III 医療の実践 | 心理的な問題を抱えた人の理解と援助について、アセスメントする能力を習得する。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 医療現場における心理社会的ニーズと必要な支援について理解できる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | <input type="checkbox"/> 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 上記の者に対する具体的な援助方法・技術・姿勢等について理解できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 臨床心理学の実践に求められるさまざまな知見や研究を理解できる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | ①内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■受講態度（提出物なども含む）（40%）<I, II, III, IV, V, VI> ■定期試験（60%）<I, II, III, IV, V, VI> |
| 出席確認方法 | 各自、学生証をポータルにかざしてください。学生証を忘れた人は、授業のはじめ/入室した際に講師に申し出てください（名前と学籍番号を書いていただき、後で講師が出席/遅刻の入力をします）。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 年月日(曜日) | 担当者 | 授業形態 |
|----|--|--|---------------|-----|------|
| 1 | 第1回 オリエンテーション、臨床心理学とは | 受講にあたっての留意点。臨床心理学とは、臨床心理学の歴史と現代的意義について学ぶ。 | 2026/09/28(月) | 宿谷 | 講義 |
| 2 | 第2回 人の心の理解「知覚、認知」 | 知覚の機能、認知の機能について学び、人はいかに見ているようで見ていないか、聞いているようで聞いていないかについて学術的に理解する。 | 2026/10/05(月) | 宿谷 | 講義 |
| 3 | 第3回 人の心の理解「学習、発達とパーソナリティ」 | 学習の理論、生来的な気質や後天的に体験を通して学習し形成される人のパーソナリティについて学ぶ。 | 2026/10/19(月) | 宿谷 | 講義 |
| 4 | 第4回 人の心の理解「アタッチメントとコミュニケーション」 | 心身機能の発達とアタッチメントの発達、コミュニケーションのあり方について学ぶ。 | 2026/10/26(月) | 宿谷 | 講義 |
| 5 | 第5回 臨床心理学的アセスメント「心理検査：質問紙法」 | 臨床心理学的アセスメントと医療的診断との違いについて学ぶ。心理学的アセスメントの一つとして、質問紙法を体験し、その検査メリット・デメリットについて考える。また、自分自身のあり方について考える。 | 2026/11/02(月) | 宿谷 | 講義 |
| 6 | 第6回 臨床心理学的アセスメント「心理検査：発達検査、知能検査、性格検査」 | さまざまな心理検査について概要を学ぶ。実際に性格検査を体験し、その検査のメリット・デメリット、限界について考える。また、自分自身のあり方について考える。 | 2026/11/09(月) | 宿谷 | 講義 |

| | | | | | |
|----|--|---|---------------|----|----|
| 7 | 第7回 臨床心理実践に求められるもの「心理的援助の枠組み、構造、倫理」 | さまざまな心理的援助、心理療法、心理治療のための枠組みや構造、倫理的課題について学ぶ。 | 2026/11/16(月) | 宿谷 | 講義 |
| 8 | 第8回 臨床心理学的援助「深層心理学、精神分析的理解とアプローチ①」 | 人の心のしくみと働きについての理論について学ぶ。 | 2026/11/30(月) | 宿谷 | 講義 |
| 9 | 第9回 臨床心理学的援助「深層心理学、精神分析的理解とアプローチ②」 | 人の心のしくみについての精神分析理論、自我機能、病態水準、防衛機制について学ぶ。 | 2026/12/07(月) | 宿谷 | 講義 |
| 10 | 第10回 臨床心理学的援助「認知・行動療法、マインドフルネス」 | 認知療法の基本、自動思考、マインドフルネス、海外の研究について学ぶ。 | 2026/12/14(月) | 宿谷 | 講義 |
| 11 | 第11回 臨床心理学におけるテーマ「精神的な問題と身体症状、職場のメンタルヘルス」 | 働く人をとりまく環境とそれが人の心身に与える影響について学ぶ。ストレス、ストレッサーが人の心身機能に与える影響、ストレスチェック制度のあり方とその課題（医療者の役割）、対人援助者が陥りやすい心理について学ぶ。 | 2026/12/21(月) | 宿谷 | 講義 |
| 12 | 第12回 臨床心理学におけるテーマ「学校のメンタルヘルス、ひきこもり、発達障害」 | スクールカウンセラーの活動の実際、子どもの心をはぐくむ学校教育・システムのあり方、医療との連携について学ぶ。昨今のひきこもりや発達障害の理解と支援のアプローチについて学び、医療においてできる治療や支援について学ぶ。 | 2027/01/04(月) | 宿谷 | 講義 |
| 13 | 第13回 臨床心理学におけるテーマ「虐待、DV、離婚」 | 虐待やDVが人の心のあり方に及ぼす影響について学ぶ。両親の不仲や離婚が子どもの心のあり方に及ぼす影響について学び、医療においてできる治療や支援について考える。 | 2027/01/18(月) | 宿谷 | 講義 |
| 14 | 第14回 臨床心理学におけるテーマ「被災者支援、被害者／加害者支援」 | 被災者支援のあり方、災害派遣医療チームについて学ぶ。事故や事件の被害者支援・加害者支援の実際について学ぶ。外傷的な出来事に直面した際の支援者が陥りやすい心理的危機について学ぶ。 | | 宿谷 | 講義 |
| 15 | 第15回 臨床心理学におけるテーマ「精神病、依存症」 | 統合失調症、うつや躁鬱病、依存症、器質性疾患、摂食障害などさまざまな精神疾患と治療・援助アプローチの概要について学ぶ。 | | 宿谷 | 講義 |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：各単元のテーマに関連した書籍や時事ニュース等を読む。 ・事後学習：学習した内容をふまえて、日常の中での自分のこころの動きや人との関係に目を向ける。事件や事故、災害、医療的な問題（身体や精神の病気、障害、中途障害、緩和ケア、不妊治療など）、時事問題（教育、福祉、いじめ、ハラスメント、DV、不登校、発達障害、メンタルヘルス、自殺、ジェンダーバイアス、マイクロアグレッション等）に積極的に目を向け、そうした事態に伴う人の心や苦悩、痛みに関して調べる。学習した内容をふまえて、課題に取り組む、提出物を出す。 |
| テキスト | 資料は授業の際に配布します。 配布した資料は、掲示板にアップします。 |
| 参考書 | 資料は授業の際に配布・紹介します。 |
| 学生へのメッセージ等 | 自分を含めた人の発達・成長・心のあり方に興味関心を持って、授業に積極的に参加することを望みます。 |

| | |
|--------|--------------------------------|
| 講義コード | I18131A I18131B |
| 講義名称 | 社会福祉と医療法規 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Social Welfare and Medical Law |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授） |
| 全担当教員 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授）／谷 直之／倉持 史朗 |
| 概要 | <p>（倉持） 本講義の目的は、「社会福祉」に含まれる制度や実践の理解、および、「社会福祉」の価値や視点を理解することである。社会福祉に関する制度や社会福祉が対象とする諸問題と実践内容を取り上げることを通して、社会福祉の今日的意義と医療とのかかわりについて考えることを目指す。</p> <p>（谷） 法とは何かを理解し、法的視点から、医療（倫理）、保健衛生、福祉の概要と諸問題について理解を深める。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | <input type="checkbox"/> 人間の尊厳を尊重し、患者中心の立場に立つことを理解できる。 <input type="checkbox"/> 医療倫理を理解し、説明できる。 <input type="checkbox"/> 医療者として法的責任・規範を理解し、遵守することの重要性を説明できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <input type="checkbox"/> 社会と医学・医療との関係、死と法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 医療安全の重要性、医療事故の予防と対処について説明できる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | レポートなどの文書を規定に従って適切に作成し、提出できる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | <input type="checkbox"/> 保健・医療・福祉・介護に関連する法規・制度等を理解できる。 <input type="checkbox"/> 健康・福祉に関する問題を評価し、地域や国際社会の疾病予防や健康増進の重要性を説明できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | — |

| | |
|------|--|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>（倉持） ■期末試験（90%）《V》 ■授業への参加姿勢（10%）《I》</p> <p>（谷） ■受講態度（10%）《I》 ■小レポート等（30%）《I,II,IV》 ■期末レポート（60%）《I,II》</p> <p>※評価点数は『社会福祉』の評価点（100点を満点）×2/3+『医療法規』の評価点（100点を満点）×1/3で算出し、60点以上を合格とする。この評価点とは、試験、レポート、出席を含む平常評価すべてを総合した最終的な評価点であって、筆記試験の点数を指しているわけではない。</p> |
| | <p>出席確認方法</p> <p>（倉持） 別途通知</p> <p>（谷） 出席確認端末及び授業中のミニテストで確認する。出席確認端末に打刻があっても、ミニテストの回答がない場合は欠席とする。</p> |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|----------------------------------|---|-----|------|
| 1 | 第1回 (医法1) 法学オリエンテーション | ①法とは何か？法と倫理 ②自然法論と法実証主義 ③パターンリズムと自己決定権 | 谷 | 講義 |
| 2 | 第2回 (福祉1) オリエンテーション | | 倉持 | 講義 |
| 3 | 第3回 (福祉2) 社会福祉の価値と理念 | | 倉持 | 講義 |
| 4 | 第4回 (医法2) 医事法制医療法・医療職の資格法 | ①医療法の目的・理念と医療施設 ②医療職の資格要件と業務規程 | 谷 | 講義 |
| 5 | 第5回 (福祉3) 社会福祉に関する制度 | - 社会保障・社会福祉の体系 - 社会福祉の実践 - 障がい児・者福祉 - | 倉持 | 講義 |
| 6 | 第6回 (福祉4) 社会福祉支援(ソーシャルワークの視点) | | 倉持 | 講義 |
| 7 | 第7回 (医法3) 医療従事者の法的責任 | ①医療契約 ②医療過誤 ③法的責任 * 刑事上の責任 * 民事上の責任 * 行政上の責任 | 谷 | 講義 |
| 8 | 第8回 (福祉5) 社会福祉の実践 | - 子ども家庭福祉①子どもの貧困 - | 倉持 | 講義 |
| 9 | 第9回 (福祉6) 社会福祉の実践 | - 子ども家庭福祉②児童虐待 - | 倉持 | 講義 |
| 10 | 第10回 (福祉7) 社会福祉の実践 | - 婦人保護事業・DV - | 倉持 | 講義 |
| 11 | 第11回 (医法4) 医療倫理 | ①法と医療倫理 ②出産前診断・人工妊娠中絶 ③移植医療 | 谷 | 講義 |
| 12 | 第12回 (福祉8) 医療現場における社会福祉の実践 | - MSW・PSW等 - | 倉持 | 講義 |
| 13 | 第13回 (福祉9) 医療現場における社会保障 | | 倉持 | 講義 |
| 14 | 第14回 (福祉10) 医療現場における社会保障 | | 倉持 | 講義 |
| 15 | 第15回 (医法5) 薬機法・感染症法と薬害訴訟 | ①薬機法の目的と概要 ②感染症法の目的と概要 ③薬害・薬禍問題 (B型肝炎) | 谷 | 講義 |

| | |
|----------------------|---|
| 授業外学修 (事前学修・事後学修) | 授業外学習については、授業内で案内を行う。 |
| テキスト | (倉持) 特に指定しない。プリント・資料などを配布する。 (谷) 「姫嶋瑞穂『医事法学入門 (第3版)』」成文堂、2024年 |
| 参考書 | (倉持) 授業中に適宜紹介する。 (谷) 必要に応じて適宜指示する。 |
| | (倉持) |

学生へのメッセージ等

社会福祉は生活を支える制度であり実践です。皆さんが向き合っていく人達はたとえ同じような病気や症状をみせていても、それぞれに異なる生活歴や環境の中で生きている「固有の存在」です。そのような人間観を持つことが、現代社会において医療・保健・福祉が協働していく意義を理解いただけると思います。

(谷)

法律というと、難解で自分とは縁遠いもの、と思われがちですが、小説やドラマで頻繁に取り上げられているように、実は、私たちの生活、とりわけ、医師・看護師の業務とは密接に関連しています。法を守ることは、第一に患者さんを守ることであり、同時に自分自身や自分の同僚を守ること。興味関心を持って受講されることを望みます。

| | |
|--------|---------------------|
| 講義コード | I181320 |
| 講義名称 | 市民と法 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Citizenship and Law |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 竹村 和也 |
| 全担当教員 | 竹村 和也 |
| 概要 | まず、憲法を頂点とする法体系・統治のしくみについて、また市民生活を送るために必要な基礎知識を習得することを目的として講義を行う。その上で、私人間の紛争を解決するための一般法である民法、及び医師の権利義務や医療紛争に関する医事法について説明する。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 法的に適切な行動を示すことができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | わが国の法のしくみ、及び市民生活を送るために必要な基礎知識を説明することができる。 |
| III 医療の実践 | 医療の実践にあたり、法的に適切な判断を下すことができる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 医師の看護師、もしくは上位の医師と下位の医師間に発生する契約の履行補助者責任ならびに監督者責任に関連して、適切に行動することができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医師にかかわる法的紛争を未然に防止することができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | - |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■定期試験（80％）《I, II, III》 ■授業への積極的な参加やレポート（20％）《I, III, IV, V》 |
| 出席確認方法 | 出欠確認端末で確認する。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|-----------------------------------|-----|------|
| 1 | 第1回 イントロダクション：法律・憲法・立憲主義 | 竹村 | 講義 |
| 2 | 第2回 統治の仕組み、特に裁判所について | 竹村 | 講義 |
| 3 | 第3回 捜査・裁判と法①（憲法31条と捜査・裁判のプロセス） | 竹村 | 講義 |
| 4 | 第4回 捜査・裁判と法②（捜査・裁判と身体的自由権） | 竹村 | 講義 |
| 5 | 第5回 民法と財産権①（物権） | 竹村 | 講義 |
| 6 | 第6回 民法と財産権②（債権と契約・医療契約） | 竹村 | 講義 |
| 7 | 第7回 民法と財産権③（債権と不法行為・医療過誤） | 竹村 | 講義 |
| 8 | 第8回 民法と家族法①（親族法） | 竹村 | 講義 |

| | | | |
|----|---|----|----|
| 9 | 第9回 民法と家族法②（相続法） | 竹村 | 講義 |
| 10 | 第10回 契約・不法行為と過失責任（医療水準） | 竹村 | 講義 |
| 11 | 第11回 契約・不法行為と過失責任（チーム医療と信頼の原則） | 竹村 | 講義 |
| 12 | 第12回 契約・不法行為と過失責任（自己決定権とインフォームド・コンセント） | 竹村 | 講義 |
| 13 | 第13回 契約・不法行為と過失責任（個人情報の保護と第三者への開示） | 竹村 | 講義 |
| 14 | 第14回 因果関係と過失責任 | 竹村 | 講義 |
| 15 | 第15回 まとめ | 竹村 | 講義 |

| | |
|-------------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | - |
| テキスト | パワーポイントのスライドを印刷したものを配布します。また、授業内容の一部についてテキストを配布します。 |
| 参考書 | <p>手嶋豊『医事法入門(第6版)』有斐閣, 2022 甲斐克則・手嶋豊編『医事法判例百選（別冊ジュリスト）』（第3版）有斐閣, 2022 磯義一郎・大滝恭弘・荒神裕之『医療法学入門』（第3版）医学書院, 2021 米村滋人『医事法講義(法セミLAWCLASシリーズ)』日本評論社, 2016 久々湊晴夫・旗手俊彦編『はじめての医事法』（第2版）成文堂, 2011 甲斐克則編『ブリッジブック 医事法』信山社, 2008</p> <p>他に入手・購読が容易な一般的な法学に関する新書として、 青井未帆『憲法を守るのは誰か』幻冬舎, 2013 渋谷茂樹『憲法への招待(新版)』岩波書店, 2014 青井未帆『憲法と政治』岩波書店, 2016 後藤昭『わたしたちと裁判』岩波書店, 2006 森炎『裁判所ってどんなところ?』筑摩書房, 2016 木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』星海社, 2012 今村核『冤罪と裁判』講談社, 2012 鎌野邦樹『不動産の法律知識 第2版』日本経済新聞社, 2017 池田真朗『民法はおもしろい』講談社, 2013 二宮周平『家族と法』岩波書店, 2007</p> |
| 学生へのメッセージ等 | 社会の動きについて日常的な関心を持つことが必要です。具体的には新聞を通読することは、大学生として当然に行うべき事柄です。 |

| | |
|--------|----------------------------|
| 講義コード | I181340 |
| 講義名称 | 医学研究入門 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Exploring Medical Research |

| | |
|-------|--------------------------|
| 科目責任者 | 森 英一郎 |
| 全担当教員 | 森 英一郎（准教授）、五十棲 規嘉（助教） |
| 概要 | 医学研究の魅力を体験し理解することを目的とする。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 生命科学者としてふさわしい行動を理解し説明することができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 医学研究を進めるために必要な文献検索ができ、研究論文の形式を説明できる。 |
| III 医療の実践 | 医学的問いに対して適切な研究計画を立案することができる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 医学研究成果に関して社会とのコミュニケーションをとるための技能を説明できる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医学研究を通じた社会への貢献について説明することができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 国際的な医療や医学研究に関する情報にアクセスし、様々な医学的課題の解決を目指した研究計画を立案することができる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | <p>《 》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 受講態度（10%）《 I 》 ■ レポート（20%）《 I, II, III, IV, V, VI 》 ■ 定期試験（70%）《 I, II, III, IV, V, VI 》 |
| 出席確認方法 | 出席確認端末で確認する。 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 担当者 | 授業形態 |
|----|--------------------|-----|------|
| 1 | 第1回 オリエンテーション | 森 | 講義 |
| 2 | 第2回 医学研究入門講義（1） | 森 | 講義 |
| 3 | 第3回 医学研究入門講義（2） | 森 | 講義 |
| 4 | 第4回 医学研究入門講義（3） | 森 | 講義 |
| 5 | 第5回 医学研究入門講義（4） | 森 | 講義 |
| 6 | 第6回 医学研究入門講義（5） | 森 | 講義 |
| 7 | 第7回 医学研究入門講義（6） | 森 | 講義 |
| 8 | 第8回 医学研究入門講義（7） | 森 | 講義 |

| | | | |
|----|-----------------------|---|----|
| 9 | 第9回 医学研究入門講義 (8) | 森 | 講義 |
| 10 | 第10回 医学研究入門講義 (9) | 森 | 講義 |
| 11 | 第11回 医学研究入門講義 (10) | 森 | 講義 |
| 12 | 第12回 医学研究入門講義 (11) | 森 | 講義 |
| 13 | 第13回 医学研究入門講義 (12) | 森 | 講義 |
| 14 | 第14回 医学研究入門講義 (13) | 森 | 講義 |
| 15 | 第15回 まとめ | 森 | 講義 |

| | |
|--------------------------|---|
| 授業外学修 (事前学修・事後学修) | 普段から関心のある内容について文献検索する習慣を身に付ける。 |
| テキスト | 講義スライド、配布資料。 |
| 参考書 | 相分離生物学 (白木賢太郎 著) 相分離生物学の全貌 (白木賢太郎 編) |
| 学生へのメッセージ等 | 学内外の研究者の先生方の経験談を聞きながら、実際の研究がどのようなものか、感じて下さい。 注) 「医学研究入門」を修得していることが、2年次後期「リサーチ・クラークシップ」の海外派遣の要件である。 |

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 講義コード | I251010 |
| 講義名称 | 諸学への誘い |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 選択 |
| 英文科目名称 | Invitation to the Academic Worlds |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 教養教育部長 |
| 全担当教員 | 教養教育部長 |
| 概要 | 集中講義形式で学問の面白さや奥深さを感じよう。学外からの贅沢な講師陣も交えた、さまざまな分野の専門家が登壇します。多様な話題に触れ、自分なりの知的世界を構築するためのヒントや刺激に出会ってください。オンライン受講も可能。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--------------------------|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | — |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 自然科学について理解できる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | — |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | — |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 異分野・異領域についての知見や研究を理解できる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 レポート（100％）《II、VI》 |
| 出席確認方法 | 別途通知 |
| 授業計画 | 【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載 〈実施期間〉 令和8年8月24日～29日 |

| | |
|------------------|----------------|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | — |
| テキスト | — |
| 参考書 | — |
| 学生へのメッセージ等 | 詳細については別途周知する。 |

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 講義コード | I240010 |
| 講義名称 | 医の探求入門 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Introduction of Inquiry to Medicine |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授） |
| 全担当教員 | 若月幸平・岡本佐和子・城戸楓・吉井由美 |
| 概要 | 医学とそれに隣接する領域の学問を複合した探究活動を行い、それらの結果を研究として報告・発表を行う。 こうした探究活動に伴い、それに付随する研究・医療・ICT倫理の理解、関連する隣接領域への学問的理解、研究手法の習熟を学ぶ。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 医学およびその隣接領域を対象とした研究活動および発表を行うことによって、医学および研究に関する倫理観について理解し、それらを実践する。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 医学および医学に関わる隣接領域の知識を深め、研究活動に活用することで知識の定着と応用を図る。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | グループワークによって研究活動を行う中で、より質の高い研究を目指すうえで、グループの活動を円滑にするためのチームマネジメントを実践し、グループ内でのコミュニケーションを行う。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 探究活動を発表するに際して、医学およびその隣接領域を対象とした自身の研究が、医学・医療・保健・社会にどのような影響力を及ぼすのか、どのような良いインパクトを与えることができるのかについて考察を深める。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 国際的な視野を持った科学的探究を行うとともに、英語での資料作りや発表などを可能であれば目指す。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 <ul style="list-style-type: none"> ■ 授業態度（40%）《I, II, IV, VI》；同一グループ内のピア評価によって評価を行う ■ レポート（20%）《II, V》；探究活動の経過資料提出によって評価を行う ■ 授業態度（40%）《I, II, IV, VI》；最終のポスター発表の教員による投票評価によって評価を行う |
| 出席確認方法 | 出席確認端末で確認 |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|----------------------|--|-----|------|
| 1 | 1 オリエンテーション | 情報モラル・情報リテラシーに関する講習。図書館の使い方・資料の集め方についての講習。 【IT-01-01/IT01-02/IT02-01/IT03-02】 | 城戸楓 | 講義 |
| 2 | 2 本学教員の研究～アラカルト発表 | 本学教員による自身の研究紹介 【PR03-01/RE01-01/RE01-02/RE02-01/RE02-02】 | 城戸楓 | 講義 |
| 3 | 3 探究の時間 1 | テーマ決定 【PR03-01/RE01-01/RE01-02/RE02-01/RE02-02】 | 城戸楓 | 講義 |
| 4 | 4 フィードバック 1 | グループの探求テーマについての教員フィードバック 【PR03-01/RE01-01/RE01-02/RE02-01/RE02-02】 | 城戸楓 | 講義 |
| 5 | 5 アカデミックライティング | アカデミックライティングと研究の進め方について 【RE03-01/RE03-02/RE03-03/RE-03-04/RE05-01/RE05-02】 | 城戸楓 | 講義 |
| 6 | 6 探求の時間 2 | 探究活動 【RE03-01/RE03-02/RE03-03/RE-03-04/RE05-01/RE05-02/IP02-01/IP02-02/SO02-03】 | 城戸楓 | 探究学習 |

| | | | | |
|----|--------------------------|---|----------------------|-------------|
| 7 | 7 本学学生の研究～アラカルト 発表 | マイプログラム対象学生による自身の研究紹介 【PR03-01/RE01-01/RE01-02/RE02-01/RE02-02】 | 城戸楓 | 講義 |
| 8 | 8 探究の時間 3 | 探究活動 【RE03-01/RE03-02/RE03-03/RE-03-04/RE05-01/RE05-02/IP02-01/IP02-02/SO02-03】 | 城戸楓 | 探究学習 |
| 9 | 9 中間審査 + 探究学習 | 教員による現状の研究資料の確認 【RE03-01/RE03-02/RE03-03/RE-03-04/RE05-01/RE05-02/IP02-01/IP02-02/SO02-03】 | 若月幸平 岡本佐和子 城戸楓 | グループワー ク |
| 10 | 10 探求の時間 4 | 探究活動（中間資料提出） 【RE03-01/RE03-02/RE03-03/RE-03-04/RE05-01/RE05-02/IP02-01/IP02-02/SO02-03】 | 若月幸平 岡本左和子 | 探究学習 |
| 11 | 11 探求の時間 5 | 探究活動 【RE03-01/RE03-02/RE03-03/RE-03-04/RE05-01/RE05-02/IP02-01/IP02-02/SO02-03】 | 若月幸平 岡本左和子 | 探究学習 |
| 12 | 12 最終確認審査 + 探究学習 | 教員によるポスター発表の最終研究資料の確認 【RE03-01/RE03-02/RE03-03/RE-03-04/RE05-01/RE05-02/IP02-01/IP02-02/SO02-03】 | 若月幸平 岡本佐和子 城戸楓 | グループワー ク |
| 13 | 13 ポスター発表 | 完成した資料をホールなどに掲示し、ポスター発表を行う 【SO04/RE04-01】 | 城戸楓 若月幸平 岡本左 和子 | 発表会 |

| | |
|------------------------------|---|
| 授業外学修（事前学 修・事後学修） | なし |
| テキスト | なし |
| 参考書 | なし |
| 学生へのメッセージ 等 | 本授業は医学を学ぶ初歩として、その研究を体験するものです。医師はすべからず医学を専門とする研究者となります。今後の皆さんの医学に関する研究の基本を身に付けられるよう、積極的に探究学習に参加してください。 |

| | |
|--------|---|
| 講義コード | I210020 |
| 講義名称 | 医学・医療入門講義 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Introduction to Basic and Clinical Medicine |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 医学部長 |
| 全担当教員 | <p>MBT特命教授 長榮 周作（パナソニック株式会社特別顧問）/森 雅彦（DMG森精機株式会社）/川本 恭治（城南信用金庫相談役）/コシノジュンコ</p> <p>MBT特命准教授 梅岡 比俊（医療法人社団梅華会理事長）</p> <p>奈良先端科学技術大学院大学 向川 康博（AI応用情報学光メディアインターフェース研究室教授） 細川 陽一郎（物質創成化学領域生体プロセス工学研究室教授）</p> <p>奈良県立医科大学 基礎医学講座：服部 剛志（解剖学第二講座教授）、齋藤 康彦（生理学第一講座教授） 臨床医学講座：中川 一郎（脳神経外科学講座教授）、新熊 悟（皮膚科学講座教授）</p> |
| 概要 | 医師/医学者としてのキャリアアップのプロセスを理解し、病気のメカニズム、医学研究の面白さや治療技術の革新の一端を各領域の専門家によるオムニバス形式の講義で学ぶ。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医師/医学者としてふさわしい行動を認識できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 医療に関係する幅広い領域を理解し、医師/医学者としてのキャリアアップに活用できる。 |
| III 医療の実践 | 医学や周辺領域の現状や進歩を認識できる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 医師/医学者に求められるコミュニケーション技能の基礎知識を認識できる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 医学や関連領域の診療や研究に貢献するための意識を醸成し基礎知識を習得できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | グローバルマインドやリサーチマインドを有する医師/医学者としての素養を習得できる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■講義時に配布するミニッツペーパー（50%）《I, II, III, V》 ■課題レポート（50%）《II, III, IV, V, VI》</p> |
| 出席確認方法 | <p>各講義のミニッツペーパーで確認する。 ミニッツペーパーは講義開始前に講義室入口に配置したボックスから各自受けとること。 また、講義終了後に講義室入口に設置したボックスに指定された期限までに提出すること。</p> |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | 年月日(曜日) | 担当者 |
|----|---------------|------------------------------------|
| 1 | 2026/04/13(月) | 服部 剛志（解剖学第二講座教授）/新熊 悟（皮膚科学講座教授） |
| 2 | 2026/04/20(月) | 森 雅彦（DMG森精機株式会社、MBT特命教授） |
| 3 | 2026/04/27(月) | 川本 恭治（城南信用金庫、MBT特命教授） |
| 4 | 2026/05/11(月) | 向川 康博（奈良先端科学技術大学院大学） |
| 5 | 2026/05/18(月) | 細川 陽一郎（奈良先端科学技術大学院大学） |
| 6 | 2026/05/25(月) | 長榮 周作（パナソニック株式会社特別顧問、MBT特命教授） |
| 7 | 2026/06/01(月) | 齋藤 康彦（生理学第一講座教授）/中川 一郎（脳神経外科学講座教授） |
| 8 | 2026/06/08(月) | コシノジュンコ（MBT特命教授） |

| | | |
|---|---------------|-----------------------------|
| 9 | 2026/07/06(月) | 梅岡 比俊 (医療法人梅華会理事長、MBT特命准教授) |
|---|---------------|-----------------------------|

| | |
|-------------------|--|
| 授業外学修 (事前学修・事後学修) | - |
| テキスト | 特になし |
| 参考書 | 全領域にわたるため、附属図書館の指定図書を渉猟して欲しい。 |
| 学生へのメッセージ等 | 講義を手がかりに、積極的な自学自習を通じて、医学への興味・関心・意欲をさらに高めるとともに、これから学ぶはずの医学に関する予備知識を獲得してほしい。 |

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 講義コード | I180020 |
| 講義名称 | 次世代医療人育成論 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Essential Skills for Healthcare Staff |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 看護教育部長 |
| 全担当教員 | 看護教育部長／教養教育部長／若月 幸平（教育開発センター教育教授）／外部講師 |
| 概要 | <p>1 実施期間 令和8年9月7日（月）～9月11日（金）</p> <p>2 実施内容</p> <p>(1) 知的生産技術 チーム医療を担う医療人として求められる「能動的な情報収集力」、「他者と協力して学び合う力」、「論理的思考力」及び「批判的思考力（クリティカル・シンキング）」について、演習を通じて体験的にその重要性や必要性について気づき、自ら修得する態度の育成を目指す。</p> <p>(2) コミュニケーション 多様性が増す昨今において、医療人として、他者と協働関係を結ぶ中で必要なコミュニケーション力とは何かを考え、それらを身につけるための理論と実践方法を学ぶことが必要である。 また、自分と他者の違いを理解するための「ソーシャルスタイル理論」や、人間関係を構築する上でのステップなどを学び、それぞれが今後のコミュニケーションレベルアップに必要な課題を自覚し、日常の中で恒常的にトレーニングできる状態を目指す。 さらに、医療者と患者コミュニケーションの基本的な姿勢、視点を身につける。</p> <p>(3) 人権教育 男性も女性も自分らしく力を発揮し、一人一人の幸せを実現できる社会である男女共同参画について学ぶ。 障がい者や性同一性障害者、性的マイノリティに対する社会の障壁について考えるとともに、偏見や差別、人権侵害をなくし、共に生きる社会を実現していこうとする態度を身に付ける。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | <input type="checkbox"/> 協同学習の考え方を理解し、他者と学び合う際に注意すべき点について、認識できる。 <input type="checkbox"/> 情報リテラシーを理解し、情報を適切に収集及び活用する力を修得できる。 <input type="checkbox"/> 他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考え、気持ちなどを理解できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 理論に基づき医療現場で求められるコミュニケーション力や思考力を修得できる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <input type="checkbox"/> コミュニケーションの仕組みについて説明できる。 <input type="checkbox"/> 自分と他者の違い、苦手なタイプを理解し、相手に合わせたコミュニケーションの取り方が実践できる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 男女共同参画や共生社会等の現状や取り組み内容を認識できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 開発途上国のジェンダー格差の現状について認識できる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■ミニツペーパーの提出を含む受講態度（100%）《I,II,IV,V,VI》</p> |
| 出席確認方法 | 各講義について別途指示する。 |
| 授業計画 | <p>□内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p> <p>令和8年9月7日（月）～9月11日（金） 詳細については、後日、教務システムで通知します。</p> |

| | |
|------------------|----------------------|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業外学修については授業内で案内を行う。 |
| テキスト | なし |

| | |
|-------------------|---|
| 参考書 | なし |
| 学生へのメッセージ等 | <p>この科目は、後期に開講する「奈良学」と同様に本学独自の科目として医学看護学合同で開講します。</p> <p>医療人としての基礎能力を修得できるよう多彩なゲストスピーカーをお招きし、グループワークも取り入れて構成していますので感性や価値観への刺激を体験することになると思います。積極的に参加しましょう。</p> |

| | |
|--------|--------------------|
| 講義コード | I181330 |
| 講義名称 | 行動科学 I |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Behavior Science I |

| | |
|-------|---|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授） |
| 全担当教員 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授）/城戸 楓/岡本 左和子 |
| 概要 | <p>[城戸] ヒトの行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方（認知科学）を学ぶ。</p> <p>[岡本] 医療におけるコミュニケーションの基本メカニズムと理論を修得する。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | <p>[城戸] □ トロツコ問題や臓器くじ問題などの思考実験などを通して、生命の価値について自身の考え方や哲学を確立することができる。 □ 医療倫理の基本となる生命倫理について説明することができる。 □ それぞれの事象における倫理について客観的・多角的に構築することができる。</p> <p>[岡本] □ 人間の尊厳を尊重し、患者に対して利他的、共感的、誠実に対応し、患者中心の立場に立つことができる。 □ 自己の目標を設定し、生涯にわたり向上を図るために学習し、研鑽することの重要性を理解する。</p> |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <p>[城戸] □ 行動する主体としての人間のメカニズムについて、認知科学的な観点から説明をすることができる。 □ 生活体としての人間の認知的機能について説明することができる。 □ 人間の認知機能に基づく、行動原理について説明することができる。</p> <p>[岡本] □ 社会と医学・医療との関係について説明できる。 □ 医療安全の重要性について理解することができる。</p> |
| III 医療の実践 | <p>[城戸] —</p> <p>[岡本] 患者の主要な病歴を正確に聴取することの重要性を理解できる。</p> |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <p>[城戸] グループワークを通して、自身の役割遂行や他者への役割付与を適切に行うことができる。</p> <p>[岡本] □ 患者、患者家族、医療チームのメンバーと、個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを取ることができる。 □ 患者、患者家族、医療チームのメンバーとの信頼関係を築き、情報交換、インフォームドコンセント、教育などの医療の基本を実践する準備ができる。</p> |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | <p>[城戸] —</p> <p>[岡本] 医師になる者として、地域医療に関わることの必要性を理解できる。</p> |
| VI 国際的視野と科学的探究 | <p>[城戸] □ 客観的で再現性のある科学的研究方法について説明・実践することができる。 □ 客観的かつ多角的な主張の展開をすることができる □ 検討事象の定義について明確に論ずることができる。</p> <p>[岡本] 国際的視野で医療を考える重要性が理解できる。</p> |

① 内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載

[城戸]

■ 授業態度（30%）《I, II, IV, VI》

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ■レポート (40%) 《II, VI》 ■グループワークへの参加(30%) 《I, IV》 |
| | <p>[岡本]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■受講態度 (20%) 《I》 ■グループワークへの参加(20%) 《I, III》 ■授業内でのミニッツペーパー(60%) 《I, II, III, IV, V》 <p>※評価点数は、「城戸先生の評価点」×2/3+「岡本先生の評価点」×1/3で算出し、60点以上で合格とする。 この評価点とは、試験、レポート、平常評価をすべて総合した最終的な評価点であって、筆記試験の点数を示しているわけではない。</p> |
| 出席確認方法 | <p>認知科学（城戸）は出席確認端末の出席および、グループワーク発表での出席を計数する。 医療コミュニケーション（岡本）は、毎回授業内で作成するミニッツレポートで出席とする。ミニッツレポートの回答用紙は1名1枚しか配布しない。配布時に席にいない場合は配布されない。</p> |

授業計画

【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載

| 番号 | タイトル | 授業内容 | 担当者 | 授業形態 |
|----|---|--|-----------|-------------|
| 1 | 第1回 自由意志と人工知能 | 【PR-01,PR-02,PR-03,PR-04】 | 城戸 楓 | 講義 |
| 2 | 第2回 自由意志と人工知能～発表 | 【PR-01,PR-02,PR-03,PR-04,RE-01,RE-02,RE-04】 | 城戸 楓 | グループ ワーク |
| 3 | 第3回 倫理と逸脱 | 【PR-04,RE-01,RE-02,RE-05】 | 城戸 楓 | 講義 |
| 4 | 第4回 倫理と逸脱～発表 | 【PR-04,RE-01,RE-02,RE-04,RE-05】 | 城戸 楓 | グループ ワーク |
| 5 | 第5回 人格と測定 | 【CS-01-01,IT-01-01,IT-01-02,IT-03-02,CS-01-01,SO-02,SO-05,SO-06】 | 城戸 楓 | 講義 |
| 6 | 第6回 人格と測定～グループワーク2 | 【CS-01-01,IT-01-01,IT-01-02,IT-03-02,CS-01-01,SO-02,SO-05,SO-06,IP-01,IP-02】 | 城戸 楓 | グループ ワーク |
| 7 | 第7回 人格と測定～発表 | 【CS-01-01,IT-01-01,IT-01-02,IT-03-02,CS-01-01,SO-02,SO-05,SO-06,RE-01,RE-02,RE-04】 | 城戸 楓 | 講義 |
| 8 | 第8回 認知と進化 | 【PS-02-15,PS-02-16,PS-02-17】 | 城戸 楓 | グループ ワーク |
| 9 | 第9回 認知と進化～発表 | 【PS-02-15,PS-02-16,PS-02-17,RE-01,RE-02,RE-04】 | 城戸 楓 | 講義 |
| 10 | 第10回 感情と行動 | 【CM-01,CM-02,CM-03】 | 城戸 楓 | 講義 |
| 11 | 第11回 医療コミュニケーションの定義と基本メカニズム | 【CM-01-01-01,CM-01-01-02,CM-01-01-01,CM-01-01-03,IP-02-02-02,CM-01-01-04,CM-01-01-01,CM-01-01-03,CM-01-01-05,CM-01-01-04,CM-01-01-02,SO-06-01-03,SO-04-01-01,CM-02-02-01,GE-01-05-01,GE-01-05-0】 | 岡本左 和子 | 講義 |
| 12 | 第12回 患者に接する態度と配慮：コミュニケーションを歪める要因(ノイズ)/コミュニケーションの障壁 | 【GE-01-05-01,IP-02-02-02,CM-01-01-04,CM-01-01-01,CM-01-01-03,CM-01-01-05,CM-01-01-04,CM-01-01-02,SO-06-01-03】 | 岡本左 和子 | 講義 |
| 13 | 第13回 患者や家族のニーズの把握と配慮：Common Groundの構築 | 【IP-02-02-02,CM-01-01-04,CM-01-01-01,CM-01-01-03,CM-01-01-05,CM-01-01-04,CM-01-01-02,SO-04-01-01,CM-02-02-01,GE-01-05-01,GE-01-05-02】 | 岡本左 和子 | 講義 |

| | | | | |
|----|---|--|-------|----|
| 14 | 第14回 患者の意思決定の支援とそのため情報集・分かりやすい説明：国際的に医療教育でよく使う理論モデルと事例検討 | 【CM-02-03-01, PR-01-01-02, PR-01-01-01, CM-02-03-04, GE-01-03-01, PR-01-01-02, PR-01-01-01, A-1-3), GE-01-03-02, PR-02-02-01, PR-02-02-02, CM-02-03-02, CM-02-03-03, PR-01-02-01, RE-04-01-01】 | 岡本左和子 | 講義 |
| 15 | 第15回 全人的な視点とアプローチ：医学データと患者の意思をつなぐ（学内臨床医：臨床の実際；岡本コディネット） | 【PR-04-01-01, SO-04-05-01, PR-04-01-02, GE-01-03-02, PR-02-02-01, PR-02-02-02, CM-02-03-02, CM-02-03-03, PR-01-02-01, RE-04-01-01, CS-03-06-02, CS-03-03-02, CS-03-03-01, CS-03-03-04, CS-03-03-03, GE-01-06-05】 | 岡本左和子 | 講義 |

| | |
|------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | - |
| テキスト | [城戸] 授業中に指示する [岡本] 授業中に配布する p p t（教務システム登録資料） |
| 参考書 | [城戸] 授業中に指示する [岡本] Patient-Centered Medicine. M. Stewart, J. B. Brown, et al. CRC Press シェアード・ディシジョンメイキング（中山健夫著、日本医事新報社） 行動医学テキスト（日本行動医学学会編集、中外医学社） 実践行動医学－実地医療のための基本的スキル（林野泰明監訳、メディカルサイエンス・インターナショナル出版） The Biopsychosocial Approach: Past, Present, Future. R. M. Frankel, T. E. Quill, & s. M. McDaniel, University Rochester Press. |
| 学生へのメッセージ等 | [城戸] 人間は社会の中で他者と相互作用しながら生きる存在です。AIなど、「人間とは何か」についての答えが曖昧になりつつある現代において、社会常識や規範などに縛られない、みなさんそれぞれの確固たる人間観を、人間というメカニズムや社会構造についての心理的な理解を通して確立できることを望みます。 [岡本] 治療という使命と時間の制約がある医療環境において、どのように患者・家族、同僚とコミュニケーションを効率的にとるのかを学び、身に着けることは、医師として現場に出た時に、自分を守り、診断の確かさと治療の効率を上げ、患者・家族の満足を引き出す。自分が置かれた環境評価をして、適切なコミュニケーションがとれるための理論とメカニズムの基本をしっかりと理解する。行動医学的対話アプローチが接遇とは全く異なることを理解する。 |

| | |
|--------|---|
| 講義コード | I210010 |
| 講義名称 | 臨床手技実習入門Ⅰ |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Introduction to Basic and Clinical Medicine |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授） |
| 全担当教員 | 若月幸平、吉井由美（教育開発センター）／各手技担当教員 |
| 概要 | スキルスラボの各種シミュレータを用いて、心肺蘇生、縫合、バイタルサインチェック、感染症の臨床手技と関連する医学知識を身につける。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 臨床現場での基本的態度・習慣、患者へのマナーを理解し実践することができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 実習で習う手技に関する基本的知識を理解し説明できる。 |
| III 医療の実践 | 実習で習う手技に関する基本的技能を理解し実践できる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 指導教員および他の学生と適切なコミュニケーションをとることができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | － |
| VI 国際的視野と科学的探究 | － |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | ◊ 内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■ 実習態度、技能（100％）《Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ》 |
| 出席確認方法 | 実習の班ごとに指導者が出席を確認する。集合時間と集合場所を事前に確認しておくこと。 |
| 授業計画 | 【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載 〔実習内容〕 4～5名を1グループとし、グループごとに下記①～④についての実習を行う。 ①心肺蘇生 ②縫合 ③バイタルサインチェック ④感染症 〔実習期間〕 令和8年9月28日（月）～令和8年12月7日（月）4限・5限 ※実施内容の詳細については別途通知 〔実習担当〕 ①臨床研修センター ②形成外科 ③臨床研修センター ④感染症内科学 〔モデル・コア・カリキュラム対応番号〕 【LL-01-01-01、LL-01-01-02、LL-02-01-01、RE-04-01-01、CM-01-01-01、CM-01-01-03、CS-05-04-02】 |

| | |
|------------------|---|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 事前にテキスト「医学生のための基本的臨床手技」を各自で購入し、予習すること |
| テキスト | テキスト「医学生のための基本的臨床手技」を用いて実習するため、必ず事前にテキストを購入すること |
| 参考書 | なし |
| 学生へのメッセージ等 | 本手技実習の目的は、医学部の教養の時期に、臨床の現場で使う医療手技を学ぶことにより、将来医師としての自覚と目標を持ってもらうことです。 臨床の第一線で活躍しているエキスパートの医師や、研修医の先生から、直接臨床の手技を学ぶことにより、教養や基礎医学との関連性と重要性を、よりいっそう再確認できるものと考えます。 また、本授業はテキスト「医学生のための基本的臨床手技」を用いて実習するため、テキストを事前に購入してください。 |

| | |
|--------|------------|
| 講義コード | I180010 |
| 講義名称 | 奈良学 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Nara Study |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 教養教育部長 |
| 全担当教員 | 教養教育部長／看護教育部長／若月 幸平（教育開発センター教育教授）／外部講師 |
| 概要 | <p>1 実施期間 令和9年2月1日（月）～2月5日（金）</p> <p>2 実施概要 奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、医学科生と看護学科生が合同で県内の地域医療機関を病院見学実習（early exposure）に行くことで県の医療状況を知り、県内の地域医療に対する意識の涵養を図る。</p> <p>また、病院見学の内容も踏まえ、各医療機関の特性に沿って課題や改善策等についてグループディスカッションし、その内容を発表することで、県内医療機関の特性や役割について学ぶ。</p> |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 奈良県の医療に貢献する医学生として相応しい行動を認識できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <input type="checkbox"/> 奈良県の文化・歴史について学び、自然学習を通して奈良県の特色や地域性を理解する。 <input type="checkbox"/> 奈良県の地域医療の現状と課題を理解することができる。 |
| III 医療の実践 | — |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <input type="checkbox"/> 奈良県の医療の現状と将来について議論し、課題を見つけその解決策を提案することができる。 <input type="checkbox"/> 多職種連携の重要性について理解し、説明することができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | <input type="checkbox"/> 県内医療機関への訪問や医療体験実習等を通じて、奈良県の医療への関心を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 奈良県の地域性や医療状況等を理解することができる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | — |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p> <p>■ミニッツペーパーの提出を含む受講態度（100％）《I, II, IV, V》</p> |
| 出席確認方法 | 別途通知 |
| 授業計画 | <p>【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p> <p>令和9年2月1日（月）～2月5日（金） 詳細については、後日、教務システムで通知します。</p> |

| | |
|------------------|--|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | 授業外学修については授業内で案内を行う。 |
| テキスト | なし |
| 参考書 | なし |
| 学生へのメッセージ等 | みなさんは将来、奈良県の医療に貢献するものと期待されています。 本講義の受講を機に、奈良県の文化・歴史・自然、そして保健・医療・福祉の現状と課題に興味をもち、主体的に学修し続けることを願っています。 |

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 講義コード | I180140 |
| 講義名称 | 早期医療体験実習 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | 教養教育 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 配当年 | 教養教育 |
| 科目必選 | 必修 |
| 英文科目名称 | Early Exposure to Clinical Experience |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授） |
| 全担当教員 | 若月幸平、吉井由美（教育開発センター）／教養教育部長／看護部担当者／薬剤部担当者／医療技術センター担当者／スキルスラボ担当者 |
| 概要 | 医療現場において患者および家族と身近に接し、患者側の気持ちを理解する。 それとともに、医療に関わる様々な人々との交流を通して医師と共に働く職種およびその役割を理解し、 医師に求められる態度・習慣の学習活動に役立てる。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | 医師に求められる態度や習慣について理解できる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 配属先の職種やその業務内容について理解できる。 |
| III 医療の実践 | 患者やその家族と身近に接し、患者側の気持ちを理解することができる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 患者やその家族、指導者と適切なコミュニケーションが取れる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | 実習を通じて医療に関わる様々な人々の役割を理解するとともに、その人々の医療に対する思いを理解できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | - |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■ 実習態度・技能（80％）《I,II,III,IV,V》 ■ 実習報告（20％）《I,II,III,IV,V》 |
| 出席確認方法 | 実習担当部署ごとに指導者が出席を確認する。集合時間と集合場所を事前に確認しておくこと。 |
| 授業計画 | 【】内は授業時に関するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載 〈実施期間〉 2027年2月15日（月）～3月5日（金）※土日・祝日を除く 〈方 法〉 (1) オリエンテーションの実施 (2) 各部署での実習 (3) 実習報告（グループワーク、発表会の実施） 〈モデル・コア・カリキュラム対応番号〉 PR-01-01-01/02, PR02-01-01/02, PR-02-03-01/02 CM-01-01-01/02/03/05, CM-02-01-02, CM-03-01-02 IP-01-02-01, IP-02-04-01 |

| | |
|------------------|--------------------|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | - |
| テキスト | 特になし |
| 参考書 | 特になし |
| 学生へのメッセージ等 | 配属及び詳細については別途周知する。 |

地域基盤型医療教育コース

コース責任者：教育開発センター 教育教授
コーディネーター：教育開発センター 教育教授
対象学生：緊急医師確保枠学生

1 授業の概要

地域基盤型医療教育コースは、第1学年4月1日から開始される。

2 授業のねらい

奈良県立医科大学は、高度先進医療を担う専門医を養成するとともに奈良県の地域医療を担う人材を養成する責務を負っている。学生は一般教育で教養を涵養し、基礎医学を学んでリサーチマインドを身に付け、そして医師としての自覚とともに1000を超える疾患の病態生理、診断、治療について学ぶことが求められている。

しかし、大学附属病院は3次医療機関として高度先進医療を行なうことが責務であるため、来院する患者は特殊なあるいは稀な疾患であることが多く、また治療のための在院期間が非常に短いのが通例である。つまり特殊な疾患に求められる高度で核心的な治療を短期間に集中して行っている。いわゆるCommon diseaseや特定の疾患の治療を時間軸（初診から治療完結まで）を通して学ぶこと、患者医療を支える社会的資源（福祉、介護など）についてキャンパス内での学習では不十分である。この地域基盤型医療教育コースはキャンパス内では学ぶことが難しいこれらの学習課題を学ぶために企画されている。このカリキュラムを通じて地域住民の健康管理および医療の実態を知るとともに、プライマリケアの在り方、全人的医療の重要性を学び、住民との触れ合いを通じて人間性を涵養することを願っている。

3 授業計画

1) 正規プログラム

医学・医療入門講義（1年次）、早期医療体験実習（1年次）は準備教育として学内で実施する。

地域医療実習1（3年次）および地域医療実習2（臨床医学Ⅲ）は地域診療所、地域基幹病院など学外施設を利用して行われる。

キャリアパス・メンター実習は卒後のキャリア形成支援の一環として学内で実施する。

2) 休暇中特別プログラム

緊急医師確保枠学生地域医療特別実習1（1～4年次）、緊急医師確保枠学生地域医療特別実習2（5～6年次）のうち、地域診療所、地域基幹病院、附属病院の特定の診療科で実習する「地域医療メンター実習」は夏季休暇中に実施する緊急医師確保枠学生のためのプログラムである。

「コンソーシアム実習」は夏季休業中に早稲田大学と連携して隔年で「地域医療学概論」として本学で開講されるプログラムであり、緊急医師確保枠学生は原則1年次～4年次までの間に1回、その他の1年次～6年次までのすべての学生は選択科目として受講できる。

詳しい授業内容については、シラバス「緊急医師確保枠学生地域医療特別実習Ⅰ、Ⅱ」を参照してください。

4 学生へのメッセージ等

地域医療メンター実習の詳細については事前に資料等で説明する。緊急医師確保枠学生地域医療特別実習1（1～4年次）、緊急医師確保枠学生地域医療特別実習2（5～6年次）の日程調整については教育開発センター実習コーディネーターが対応している。

研究医養成コース

コース責任者：医学部長

コーディネーター：教育開発センター 教育教授

対象学生：研究医養成コース学生

1 授業の概要

1) 学部における実施の概要

研究医養成コースは、第2学年4月1日から開始される。

2) 大学院における実施の概要

卒業後2年以内に医師免許を取得し、奈良県立医科大学大学院医学研究科（博士課程、4年間）、関西医科大学大学院医学研究科（博士課程、4年間）または早稲田大学大学院（先進理工学研究科後期課程、3年間）のいずれかに進学し、博士の学位を取得する。奈良県立医科大学または関西医科大学では3年での取得を目指す。（医師免許取得後、直ちに臨床研修（2年間）に従事することは可能）

2 授業のねらい

基礎医学・社会医学の分野において、世界的に貢献する研究者となるための基礎を身に付ける。

3 授業計画

1) 正規プログラム

本コース学生は6年一貫教育の基本単位をもとに特別の単位を加えた学部課程と大学院課程から構成される「研究医養成プログラム」を履修する。

学部課程においては、2年次リサーチ・クラークシップを必修履修し、研究マインドを醸成する。

また、研究医メンター実習では各自が将来専門にしたいと希望する基礎医学・社会医学系教室で指導を受ける。

2) 休暇中特別プログラム

夏季・冬季・春季の休暇中にも、「研究医特別メンター実習」を必修履修し（2～4年生対象）、基礎医学・社会医学系教室で5日間の実習を履修する。

なお、研究医養成コースの学生は、毎年1回は、研究発表会を学内で開催し、医学部長、指導担当教員、教育開発センター教員から評価を受けることが義務付けられる。

コンソーシアム実習は夏季休暇中に早稲田大学と連携して開講されるプログラムであり、本コースの学生は隔年で早稲田大学で開講されるコンソーシアム実習「医工学と医学」を在学期間中に必修履修する。

3) 早稲田大学 Writing Scientific Papers

本コースでは、在学中に英語のライティングの基礎を学び、英語の論文や文書に対応できるようにする。このコースも研究医養成コースの学生について必修とする。

ホームページ参照

<https://led.w-as.jp/gogaku/wsp.html>

4 学生へのメッセージ等

メンター実習の日程調整については教育開発センター実習コーディネーターが対応しています。

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 講義コード | I200010 |
| 講義名称 | 緊急医師確保枠学生地域医療特別実習1 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 配当年 | 1～4年 |
| 科目必選 | 必修（緊急医師確保枠の学生） |
| 英文科目名称 | Community Medicine Special Training 1 |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 若月 幸平（教育開発センター教育教授） |
| 全担当教員 | 若月幸平（教育開発センター）、地域基盤型医療教育協力施設担当者 |
| 概要 | 奈良県の地域医療の充実に必要な医師の養成及び確保を図るため、緊急医師確保入学試験枠が設定されている。 医師の確保が困難な医療機関又は診療科等において、将来、奈良県の地域医療に貢献しようとする意欲を持って地域医療を学び、地域での交流の成功体験を増やすことを目的とする。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|--|
| I 倫理観とプロフェッショナルリズム | 私たちのプロフェッショナル宣言を遵守し、医学生としてふさわしい行動を示すことができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | <input type="checkbox"/> 高血圧や糖尿病といったCommon diseaseの基本知識を説明することができる。 <input type="checkbox"/> 社会保障制度、公衆衛生、地域保険、産業保険、健康危機管理を理解し、説明することができる。 |
| III 医療の実践 | 実習において各医療現場の役割を理解し、説明することができる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | <input type="checkbox"/> 実習を通して他職種役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら協働することができる。 <input type="checkbox"/> 患者さんおよび家族と良好な人間関係を築くことができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | <input type="checkbox"/> 社会保障制度、公衆衛生、地域保険、産業保険、健康危機管理を理解する。 <input type="checkbox"/> 地域医療の担い手となるための心構えを身につける。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | 経験した症例に対してリサーチマインドを持ってより理解を深めることができる。 |

| | |
|--------|--|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■レポートおよび報告会での発表（70%）《II、III、IV、V、VI》 ■受講態度（20%）※実習先からの評価を参考とする《I》 ■総会、研修等への出席（10%）《I》 |
| 出席確認方法 | 地域医療メンター実習は実習施設ごとに出席を確認する。集合時間と集合場所を事前に確認しておくこと。 |
| 授業計画 | []内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載 1) 対象者 医学科1年～4年次の緊急医師確保入学試験枠学生全員 2) 地域医療メンター実習 夏季休暇中の平日の2日間、奈良県立医科大学教育協力施設等の医療施設で実習をおこなう。※希望者は2日間以上行くことは可能です。 3) 地域医療メンター実習報告会 実習で得られた経験をレポートにまとめ報告会で発表する。夏季休暇中に実習に参加できない場合は特別措置として2回目の報告会で発表する。 （1年次は実習に参加していないが入学後すぐに開催する報告会に出席し先輩の発表を聞く） 4) 県費奨学生総会への出席 授業、実習、病院見学、病気以外の欠席は原則認めません。いずれの場合も欠席届の提出を求めます。 5) 研修等 教育開発センター、地域医療学講座、県費奨学生配置センターが企画する研修等に参加する。 6) 面談 緊急医師確保入学試験枠学生として学業および大学生活を充実して送っているかを確認し、学生が制度を理解し健やかな生活ができるための面談です。 （面談者：教育開発センター、地域医療学講座、県費奨学生配置センター、奈良県担当者） |

| | |
|------------------|------|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | — |
| テキスト | 特になし |

| | |
|-------------------|--|
| 参考書 | 特になし |
| 学生へのメッセージ等 | <ul style="list-style-type: none">・この科目は進級判定に関わります。・レポート等の提出期限があるものは期限を守り、出席しなければならないものは必ず出席してください。・地域医療メンター実習や面談、研修の日程調整は、教育開発センターと県費奨学生配置センターが対応します。 |

| | |
|--------|------------------------------|
| 講義コード | I180240 |
| 講義名称 | コンソーシアム実習 |
| 開講責任部署 | 医学部 医学科 |
| 講義区分 | |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 配当年 | 1～6年 |
| 科目必選 | 選択（緊急医師確保枠学生、研究医養成コースの学生は必修） |
| 英文科目名称 | Consortium Practicum |

| | |
|-------|--|
| 科目責任者 | 若月 幸平 |
| 全担当教員 | 若月幸平（教育開発センター）、コンソーシアム実習担当教員（早稲田大学、奈良県立医科大学） |
| 概要 | 1.「医工学と医学」医学と工学が融合した医工学と医療の関わりについて医学、工学の両側面から学ぶ。 2.「地域医療学概論」地域医療に関わる行政、経営、予防医学、医療の現状について学ぶ。 |

目標（医学部医学科）

| | |
|--------------------------|---|
| I 倫理観とプロフェッショナリズム | <input type="checkbox"/> 医学生としてふさわしい行動を示すことができる。 <input type="checkbox"/> 医学、医療の発展に貢献する使命感と責任感を持つことができる。 |
| II 医学とそれに関連する領域の知識 | 地域医療や医工学の知識を理解することができる。 |
| III 医療の実践 | コンソーシアム実習で得た知識を医療の実践に活用することができる。 |
| IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 | 他学の学生や教員と適切なコミュニケーションをとり、積極的にグループワークに参加することができる。 |
| V 医学、医療、保健、社会への貢献 | <input type="checkbox"/> 医学・医療の研究と開発が社会に貢献することを理解できる。 <input type="checkbox"/> 地域医療に関わることの必要性を理解できる。 |
| VI 国際的視野と科学的探究 | <input type="checkbox"/> 実習で経験した内容をさらに深く学ぶための自己学習ができる。 |

| | |
|--------|---|
| 評価方法 | 《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載 ■受講態度（60%）《I、II、III、IV、V、VI》 ■レポート（40%）《I、II、III、V、VI》 |
| 出席確認方法 | 別途通知 |
| 授業計画 | 【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載 1) 対象：医学科1～6年次 自由選択科目 開講される科目、日時などの詳細は別途周知する。 2) 実習内容 夏季休業中に早稲田大学（東京）あるいは本学で開講される4日間の集中講義、ワークショップを履修する。 講義は、早稲田大学と本学の両方の教員が担当する。 ※令和8年度は早稲田大学で「医工学と医学」を開講予定。 |

| | |
|------------------|--------------------------------|
| 授業外学修（事前学修・事後学修） | — |
| テキスト | 特になし。授業中に資料を配布します。 |
| 参考書 | 特になし。 |
| 学生へのメッセージ等 | 他大学の学生と触れ合う貴重な機会です。奮ってご参加ください。 |

奈良県立医科大学医学部公欠規程

平成28年2月4日制定

(目的)

第1条 この規程は、奈良県立医科大学学則第25条に規定する学生の欠席について、奈良県立医科大学がやむを得ないと認める理由（以下「理由」という。）による欠席（以下「公欠」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

(公欠の定義)

第2条 公欠とは、学生が次条に規定する理由により講義、実習等を欠席した場合、これを単位認定、科目修得及び履修要件における欠席扱いとしない取扱いをいう。

(公欠の理由)

第3条 公欠を認める理由は、次の各号に掲げるものとする。

- 一 学生が学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症に罹患したことにより大学から出席停止措置を受けた場合、又は健康管理センター長が学生の出席停止措置が必要であると認めた場合
- 二 気象警報の発表、交通機関の運休等により学生の通学が困難であると認められた場合
- 三 学生の2親等以内の親族が死亡した場合（忌引）
- 四 学生が裁判員制度による裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
- 五 学生がカリキュラム履修や教員の指導下で実施している自主的研究において、当該学生が所属する研究室等の長（以下「所属長」という。）が必要と認める学会等に参加する場合。ただし、実験・実習において公欠の適用を受けようとする場合は、所属長から科目責任者に事前に許可を得ること。
- 六 その他学長が必要と認めた場合

(公欠の期間)

第4条 前条における公欠の期間については、別表第1に定めるとおりとする。

(公欠の手続)

第5条 公欠の適用を受けようとする学生は、教育支援課に事前連絡し、公欠届（別紙様式）に別表第2に定める書類を添えて、学長に提出するものとする。

- 2 学長は、前項の規定により公欠届の提出があったときは、その内容を第3条及び第4条の基準に基づき審査し、公欠として適正と認める場合はこれを許可する。
- 3 公欠の申出時期は、原則として別表第2のとおりとする。ただし、学長が別に定める場合はこの限りではない。
- 4 公欠の許可について、公欠届の内容及び理由によりやむを得ないと認められる場合に

は、学長は公欠希望日に遡ってこれを認めることができるものとする。

(公欠時の講義、実習等の取扱い)

第6条 教員は、公欠を許可された学生に対し、講義、実習等の履修において、補講、個別指導等の実施により当該学生が不利とならないよう配慮を行うものとする。ただし、実習等については、公欠を許可されても、追実習、評価及び単位認定ができない場合がある。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

別表第1（第4条関係）

| 公欠の理由(第3条) | | 公欠期間 | |
|------------|------------------|---|------|
| 一号 | 感染症等 | 学校保健安全法施行規則第19条に規定する期間 ただし、大学独自の出席停止期間が定められている場合は、当該期間を優先する。 | |
| 二号 | 交通機関の運休等 | 交通機関が運休した期間 | |
| 三号 | 忌引 ^{※1} | 配偶者 | 最長7日 |
| | | 1 親等 (父母、子) | 最長7日 |
| | | 2 親等 (祖父母、兄弟姉妹、孫) | 最長3日 |
| 四号 | 裁判員制度 | 裁判員又は裁判員候補者として招集される日 | |
| 五号 | 学会等参加 | 所属長が必要と認めた学会参加期間 | |
| 六号 | その他 | 別途指定 | |

※1 土日・祝祭日を含む連続した期間

別表第2（第5条関係）

| 公欠の理由(第3条) | | 添付書類 | 申請時期 |
|------------|----------|-------------------------------|----------------|
| 一号 | 感染症等 | 医師の診断書 | 出席停止期間終了後1週間以内 |
| 二号 | 交通機関の運休等 | 遅延証明書等 ただし、Web等で確認できる場合は不要 | 当日 |
| 三号 | 忌引 | 葬儀証明書、会葬の案内状等 | 事後1週間以内 |
| 四号 | 裁判員制度 | 用務内容が記載された書類 | 招集日の1週間前まで |
| 五号 | 学会等参加 | 学会等の概要がわかる書類 | 学会等参加の1週間前まで |
| 六号 | その他 | 理由が証明できる書類 | 別途指示 |

公 欠 届

年 月 日

奈良県立医科大学長 殿

医学部 (医学科・看護学科)

第 学年 学籍番号 ()

氏 名 _____

【学会等参加の場合】 所属長 署名欄

- 所属長が必要と認めた学会等の参加である。
- 実験・実習において公欠の適用を受けようとする場合は、所属長から科目責任者に事前に許可を得ている。

所属名 _____

氏名 (署名) _____

下記の理由により講義、実習等を欠席したいので、公欠の取扱いをお願いします。

記

1 理 由 (該当理由にレを入れること)

- 感染症等
- 交通機関運休等 (路線 _____) 例：近鉄大阪線
- 忌引 (続柄 _____) 例：父方の祖父
- 裁判員制度
- 学会等参加
- その他 (_____)

2 公欠期間及び公欠扱いを希望する講義・実習等名

年 月 日 ~ 年 月 日

講義・実習等名 (詳しく記載すること)

※別表第2に定める書類を添付すること

奈良県立医科大学医学部医学科における成績評価異議申立てに関する要領

(目 的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学医学部医学科に在籍する学生（以下、「学生」という。）が履修するすべての科目について、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第7条第6項に規定する成績評価に対する異議申立てに関し必要な事項を定める。

(成績に対する確認)

第2条 学生は、成績に対して確認すべき事項がある場合は、授業科目担当教員に、直接確認することができるものとする。

(確認依頼受付期間)

第3条 前条による確認依頼の受付期間は、成績開示後、一定期間を設けるものとする。

(確認に伴う措置)

第4条 第2条による確認依頼を受けた授業科目担当教員は、所定の期間内に確認結果を回答するものとする。

2 前項の回答に当たっては、授業科目担当教員が直接当該学生に確認結果を回答するものとする。

(異議申立て)

第5条 前条の規定による確認結果に異議がある学生で、次の各号に掲げる事項に該当する場合は、別に定める「成績に対する異議申立書」（以下「異議申立書」という。）を学長あてに提出することにより、異議申立てができるものとする。

(1) 成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われるもの

(2) シラバスや授業時間内での指示等により周知している成績評価の方法から、明らかに逸脱した評価であると思われるもの

2 前項の異議申立書は教育支援課を通じて提出するものとする。

(異議申立て受付期間)

第6条 前条による異議申立ての受付期間は、当該学生が第4条による回答を受領後、一定期間を設けるものとする。

(受 理)

第7条 学長は、第5条による異議申立書を受領した場合は、医学部教務委員会において当該異議申立ての審査を行うものとする。

2 学長は、異議申立てを受領する事由に該当せず、異議申立てを却下する場合は、速やかに当該学生に通知するものとする。

(審査結果の報告及び対応)

第8条 医学部教務委員会は、当該異議申立ての審査を行い、その結果を学長に報告し、学長が決定するものとする。

2 教育支援課は、学生及び授業科目担当教員に当該結果を成績に対する異議申立てに関する回答書により通知する。この場合において、異議申立てを容認する結果であった場合は、授業科目担当教員に成績について変更する措置を行わせるものとする。

3 異議申立てへの回答に対して再異議申立ては認めない。

(雑則)

第9条 この要領に定めるもののほか、必要な要領は別に定める。

附 則

この要領は令和5年4月1日から施行する。

出席確認端末について

1 導入教室

| キャンパス名 | 棟 | 諸室 |
|----------|-------|---|
| 畝傍山キャンパス | 講義棟 | 情報処理 PC ルーム 101、医看合同講義室 108 多目的中講義室 104・105、中講義室 201～204 大講義室 206 |
| | 実習研究棟 | 成人・老年看護学実習室、基礎看護学実習室、 母性・小児看護学実習室、在宅・老年看護学実習室 |
| 四条キャンパス | 基礎医学棟 | 第1・第2講義室、生化学実習室、生理学・薬理学実習室、 組織実習室、小講義室 |
| | 臨床講義棟 | 第1・第2講義室 |

2 操作手順

- ・出席確認端末では、授業開始前の 10 分間(授業開始時刻は含まない)に学生証をかざした場合のみ「出席」と記録されます。

(例) 1 時間目 (9 : 00 開始) の場合は 8 : 50 から 8:59

- ・端末に学生証をかざし、電子音が鳴り画面に「学籍番号」と「氏名」が表示されると読取り完了です。

3 注意事項

- ・出席確認方法は科目によって異なりますので、各教員の指示に従ってください。
- ・端末に記録が残されていない場合は欠席扱いになるので注意してください。
- ・学生証を忘れた場合は、欠席扱いとなるので注意してください。
- ・動作確認できない場合や操作に不安がある場合は、再度端末にカードをかざしてください。
- ・教務システムで各自の出席状況を確認できますが、実際の出席数を反映しているかどうかは、科目責任者に確認してください。
- ・なお、他人の学生証を端末に通す等の不正行為をすれば、学則第 41 条の規定により、けん責、停学又は退学処分の対象になるので十分注意してください。

〈参考〉奈良県立医科大学学則（抜粋）

(懲戒処分)

第 41 条 学長は、学生がこの学則及びこの学則に基づく規程並びに学長の指示及び命令にそむき、学生の本分に反する行為があったとき、これに対し懲戒処分として、けん責、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学の処分は、次の各号の一に該当する者に対してのみ行うことができる。

- 一 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- 二 学力劣行で成業見込がないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

試験に関する諸注意

1 試験の注意事項

- ① 学生証不携帯の場合は、受験不可のため、教育支援課で仮学生証の発行を受けること。
- ② 携帯電話、スマートフォン、タブレット、アップルウォッチ等の電子通信機器の使用は禁止のため、電源を切りカバンの中へ入れること。試験中にこれらの機器の音声やアラームが聞こえた場合、カバンの中に入っているも不正行為とみなす。
- ③ 机の上には、筆記用具（鉛筆、シャープペンシル、消しゴムなど）、時刻表示機能のみの時計、メガネ、学生証、特別に持込を許可された物以外は置かないこと。
- ④ その他、試験監督者の禁止するものを持ち込んではいけません。
- ⑤ 試験中に質問がある場合は挙手し、試験監督者の指示に従うこと。
- ⑥ 試験中における私語及び物品の貸借は一切禁止する。
- ⑦ 次の場合、当該試験は無効とする。
 - ・ 答案を提出しない場合
 - ・ 学籍番号・氏名等の記入がない場合
 - ・ 試験監督者の指示に従わない場合
- ⑧ やむを得ず欠席する場合は、試験開始までに教育支援課に連絡を入れること。

2 遅刻・退室等について

- ① 試験開始後、入室限度時刻を超過した遅刻者は受験できない。
※遅刻し、かつ、学生証を忘れた場合は、仮学生証の発行を終えて試験室へ入室した時間が入室限度時間内かどうかで受験の可否が判断される。
- ② 公共交通機関の遅延で遅刻した学生については、別途協議のうえ対応する。
- ③ 試験開始後、入室限度時刻までは退出できない。
- ④ 一度退出した者は、再び入室できない。
- ⑤ 体調不良・トイレ等で一時退室した場合、試験時間の延長は行わない。

3 不正行為について

- (1) 試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいう。
 - ア 書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に参照すること。
 - イ 他人の答案をのぞき見たり、答案を見せ合うこと。
 - ウ 音声や動作等により解答に役立つ情報を伝え合うこと。
 - エ 机などに解答に役立つメモ等を残すこと。
 - オ その他、前記行為に類する行為
- (2) 参照を許されていない書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に机の下部棚などに置くことは、実際に参照したかどうかを問わず、不正行為と見なす。
- (3) その他、不正行為に関する試験監督者の注意や指示に反する行為は、不正行為と見なす場合がある。

4 不正行為を行った者に対する処分

試験において不正行為を行った者については、当該科目及び関連科目の試験を無効とし、進級又は卒業を停止する。不正行為が悪質であると判断された場合には、学則第41条による懲戒処分を行う。

暴風警報等発表時における授業の措置について

(平成26年1月8日 医学科・看護学科学務委員会等 決定)

台風等の接近に伴い奈良県北西部に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されたときの授業の取扱いは原則として次のとおりとする。

【共通事項】

- (1) 午前7時現在「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されているときは、午前の授業は休講とする。
- (2) 午前11時までに「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されたときは、午後の授業のみ行う。
- (3) 午前11時以降も「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されないときは、当日の授業は休講とする。ただし、大学院は下記(7)によることとする。
- (4) 午前11時以降の授業時間中に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合は、当該授業終了後はすべて休講とし、速やかに帰宅させることとする。
 - ① 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合のクラブ活動等の課外活動は、禁止とする。
 - ② 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合の図書館及び自習室等の学内における学生の自習については、禁止とする。

【医学科】

- (5) 医学科の学内及び学外実習については、上記(1)～(4)を原則とし、当該実習施設の指導者の判断に基づき決定することとする。

【看護学科】

- (6) 看護学科の臨地実習については、原則上記(1)～(4)のとおりとする。ただし、学外で実習を行っている場合の措置については、当該実習担当教員が実習先の指導者と協議し、原則として実習を中止し帰宅させる。ただし、台風等の接近に伴い帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

【大学院】

- (7) 大学院については、午後4時までに「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除された場合は、午後6時以降の授業を行う。午後4時以降も解除されない場合は、終日休講とする。
- (8) 実習については、上記(6)に準ずるものとする。

*なお、状況によって警報発表の有無にかかわらず別段の決定を行うことがある。

地震発生等災害時における授業の措置について

地震発生等災害時における授業の取扱は原則として次のとおりとする。

1. 講義

- ①教育支援課が被害状況、交通機関の運行状況等の情報収集を行い医学部長に報告
- ②医学部長が①を確認し、授業の実施、今後の方針等を判断（必要に応じて看護学科長（看護学科長と連絡が取れない場合は、看護教育部長）と協議）
なお、医学部長と連絡が取れない場合は、事務局長が判断
- ③教育支援課は医学部長の判断を教務システム及び大学ホームページに掲載し、周知

休講とする判断の目安

○近鉄大阪線及び橿原線が同時に運休した場合

※ 交通機関の運休等により登校できない場合は、公欠扱いとする。

2. 実習

当該実習の担当教員、領域長及び指導者と協議し、必要に応じて実習を中止し帰宅させる。ただし、帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

※「暴風警報等発表時における授業の措置について」に準じる。

【災害等発生時 教育支援課 緊急連絡先】

- ① 0744-22-3051（大学代表番号）
- ② 0744-22-9844（四条キャンパス直通）
- ③ 0744-29-8805（畝傍山キャンパス直通）
- ④ 0744-29-8917（畝傍山キャンパス直通）

※医学科 2～6 年生は①②、医学科 1 年生及び看護学科生は①③④の番号にご連絡ください。

個人情報の取り扱いについて

学生の医療機関等における実習時の注意事項として、患者の個人情報保護と守秘義務は非常に大切です。医療従事者をめざす者として、下記事項を熟読して十分理解するとともに、必ず遵守してください。

1 守秘義務

患者およびその家族の個人情報を部外者に知られるような行為は守秘義務違反に相当する。例えば、第三者が視聴可能な場所又はメディア上で、患者について話したり、患者に関する文書等を開示するような行為がそれにあたる。

守秘義務違反は刑法等に抵触する。

刑法 134 条第 1 項

「医師、薬剤師、医薬品販売業者、助産師、弁護士、弁護人、公証人又はこれらの職にあった者が、正当な理由がないのに、その業務上取り扱ったことについて知り得た人の秘密を漏らしたときは、6 月以下の懲役又は 10 万円以下の罰金に処する。」

保健師助産師看護師法第 42 条の 2

「保健師、看護師又は准看護師は、正当な理由がなく、その業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならない。保健師、看護師又は准看護師でなくなった後においても、同様とする。」

同第 44 条の 3

「第 42 条の 2 の規定に違反して、業務上知り得た人の秘密を漏らした者は、6 月以下の懲役又は 10 万円以下の罰金に処する。」

医学部の学生に対しても上記の医療職者に準じる者として違反の内容に応じた懲罰が適応される可能性がある。

2 個人情報の保護

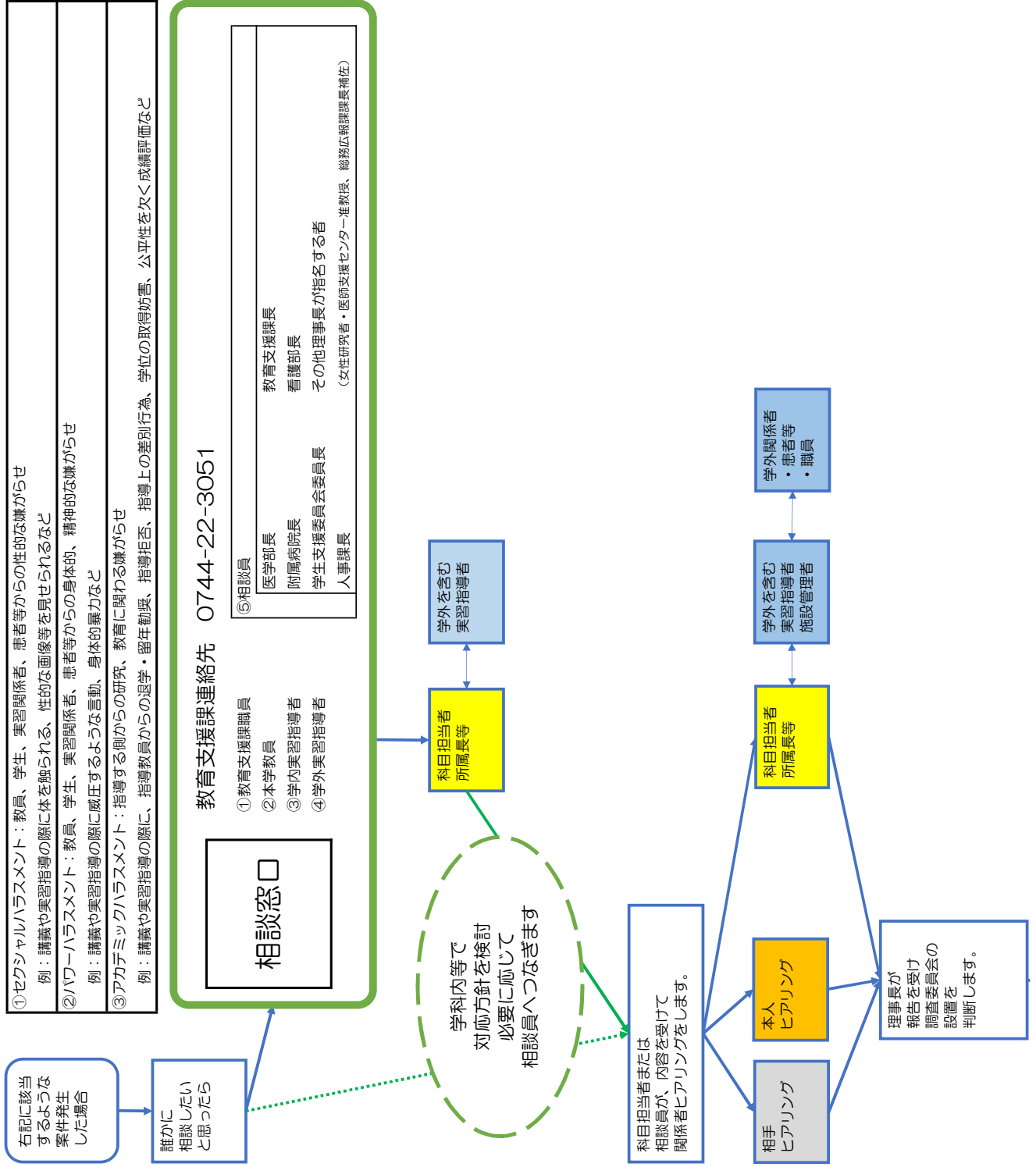
たとえ故意でなくても患者の個人情報を漏洩した場合は指導者とともに責任を問われることになる。そのことを防止するために、原則として患者の個人情報を含みメディア・書類・覚書等は病院内で指導者の管理下でのみ所持できることとし、決してその管理範囲外に持ち出さないこと。ただし、適切な匿名化が為されている場合はその限りでない。

匿名化する場合、慎重に下記の事項が除外されているかどうかを確認し、指導者の承認を得ること。

- 1) 氏名、生年月日、住所など個人を特定できる情報
- 2) 氏名などを含まない属性情報（患者 ID、イニシャルなど）でも、間接的に個人が特定できるもの
- 3) 複数の情報を組み合わせることによって個人が誰であるか特定できるもの
- 4) 本人以外の情報でも（例えば関連ある者の名前などによって）、間接的に個人が特定できるもの
- 5) 特殊な患者例やそのデータ・特殊な治療例など、個人情報がなくても個人が特定できる場合

なお、たとえ匿名化された情報であっても、自ら責任を持って管理し、不要になった時点で確実に消去すること。

公立大学法人奈良県立医科大学における学生に対するハラスメント対応フロー図（抜粋版）



健康管理

(1) 学生相談

学生が学生生活を送るうえでの様々な相談に応じるため、臨床心理士による学生カウンセリングルームを週1回開設しています（予約制）。利用時間：毎週月曜日 11:00～19:00

カウンセリングを希望する場合は、教育支援課又は教員（学生生活相談担当教員、アドバイザー教員、研究指導教員など）を通じて申し込んでください。

申し込みする場合、希望のカウンセリング日を伝えてください。カウンセラーと日程調整を行います。

なお、相談内容の秘密は固く守られます。

(2) 健康相談

学生が健康上の相談をしたい場合は、校医による健康相談を受けることができます。教育支援課又は健康管理センターに申込み、日程調整をしてください。

(3) 健康管理

健康状態について、常に自己管理を心がけてください。登校中、又は学内において体調が思わしくない場合は、教育支援課に欠席を届け出たうえで早めに帰宅して静養するなり、医療機関を受診するなどしてください。帰宅が難しいほど不調の場合は、教育支援課に連絡し(5)の健康管理センターの指示に従ってください。

(4) 定期健康診断

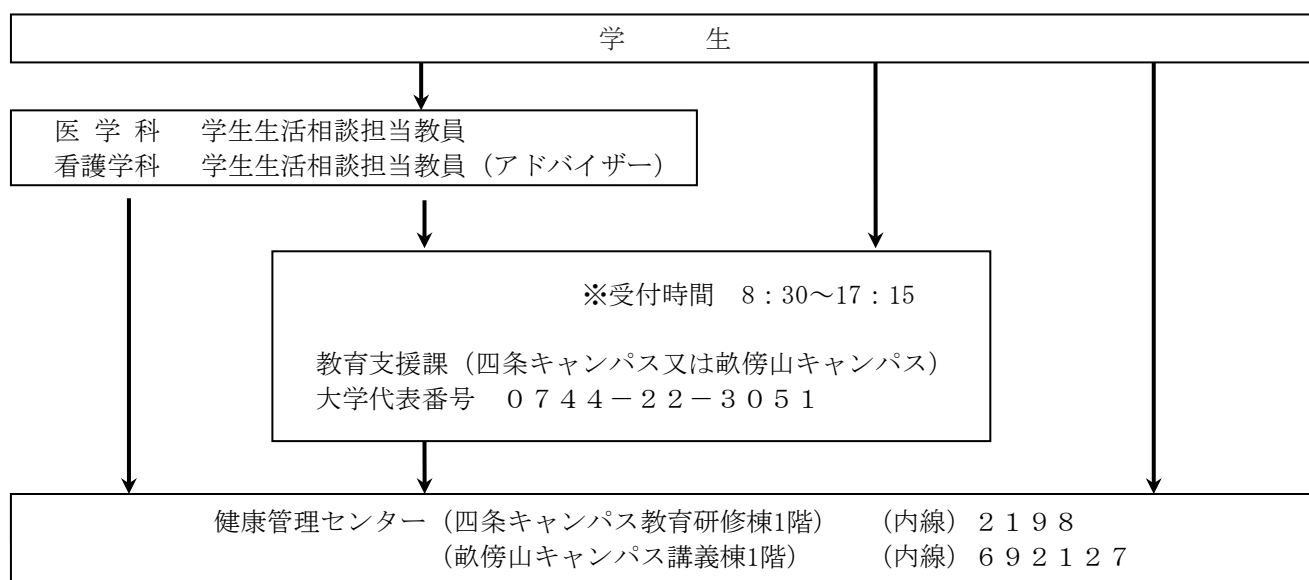
学校保健安全法により、定期健康診断の実施が義務付けられています。

各学年とも毎年1回、4月以降に実施する定期健康診断を受けなければなりません。定期健康診断を受診できなかった学生は、定期健康診断項目について自己責任で受診し(5)の健康管理センターに結果の写しを提出してください。

また、医学科1年生、編入2年生、看護学科1年生などを対象に結核感染防止のためのIGRAs検査、麻疹（はしか）・風疹（三日ばしか）・流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）・水痘（水ぼうそう）の4種感染症抗体価検査及びB型肝炎抗原抗体検査を実施します。さらに、B型肝炎抗原抗体検査の結果、ワクチン接種対象とされた方にはB型肝炎ワクチン接種を実施します。健康診断結果は今後必要なときがあります。大切に保管しコピーをして活用してください。

(5) 健康管理センター（四条キャンパス及び畝傍山キャンパスに各1か所設置しています）

学内において緊急を要する怪我・発病等の場合は、下記により健康管理センターに連絡してください。応急対応やベッドでの休憩などが可能です。必要に応じて医療機関を案内します。なお、健康保険証は常に携帯しておくことをお勧めします。



(6) 附属病院の受診を希望される方へ

本大学の附属病院を受診される場合、他院もしくは健康管理センターの発行する紹介状を持参されると選定療養費が免除されます。

健康管理センターにて紹介状の発行を希望される方は、平日午前 8 時 30 分～午後 4 時 30 分までに健康管理センターに行き、手続きをしてください。

なお、緊急の場合を除き附属病院の受付時間（平日午前 8 時 30 分～午前 11 時）外は受診することはできません。

また、診療科により外来診療を行っていない曜日があるため、事前に調べておいてください。

(7) 感染症対策

感染性の疾患にかかった場合、速やかに医療機関を受診し、教育支援課に連絡してください。診断が出るまでは登校を控え、診断が出た場合は医師の指示に従ってください。併せて、診断結果を教育支援課に連絡してください。欠席しても公欠が認められますので、登校後に診断書と公欠届を提出してください。

なお、新型コロナウイルス感染症については発症日を 0 日目とし有症状 7 日間、無症状 5 日間の出席停止としています。

ただし大学からの対応方針が状況に応じて更新されているので、最新の情報を把握してそれに従ってください。

主な感染症の出席停止期間

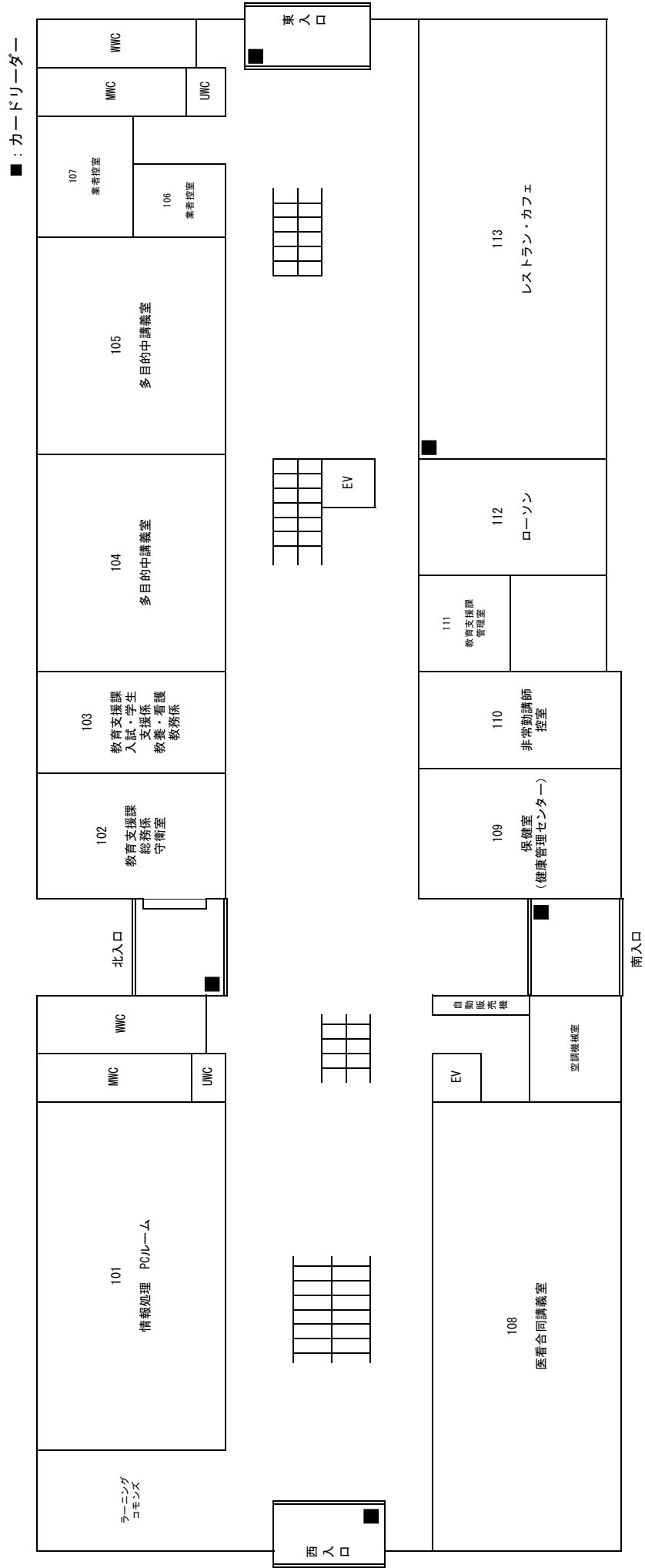
(その他の疾患でも教育支援課または健康管理センターの指示に従ってください)

| 感染症の種類 | 出席停止期間（登校基） |
|---------------------|---|
| インフルエンザ (※) | 発症した後（発熱の翌日を 1 日目として）5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまで。 |
| 新型コロナウイルス感染症 | 発症日を 0 日目とし有症状 7 日間、無症状 5 日間の出席停止。 大学からの対応方針が状況に応じて更新されているので、最新の情報を把握すること。 |
| 百日咳 | 特有の咳が消失するまで、または 5 日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで。 |
| 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ) | 耳下腺等の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。 |
| 麻疹（はしか） | 発疹に伴う発熱が解熱した後 3 日を経過するまでは出席停止。ただし、病状により感染力が強いと認められたときは、さらに長期に及ぶ場合もある。 |
| 風疹（三日ばしか） | 発疹が消失するまで。 |
| 水痘（水ぼうそう） | すべての発疹がかさぶたになるまで。 |
| 感染性胃腸炎 (ノロ・ロタ等) | 下痢、嘔吐症状が消失してから 48 時間を経過するまで。手洗いを励行すること。 |
| B 型肝炎 | 急性肝炎の急性期でない限り登校は可能。HBV キャリアの登校を制限する必要はない。ただし、血液に触れる場合は手袋を着用するなど、予防策を守ることが大切。 |
| 髄膜炎菌性髄膜炎 | 病状により校医等において感染の恐れがないと認めるまで。 |

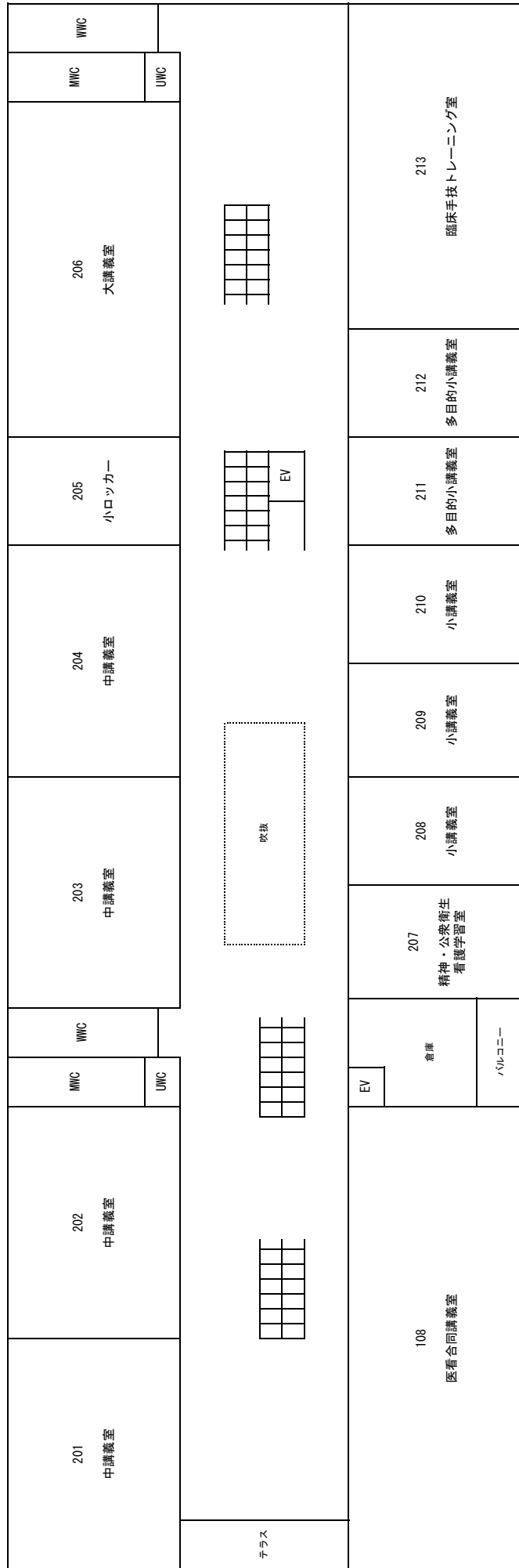
(※) 鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9 など）及び新型インフルエンザ等感染症は別途対応。

附属病院での実習時には、B 型肝炎、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体価およびワクチン接種記録の提出が求められます。また、学外の実習受け入れ施設でもワクチン接種を済ませていることを要件とする場合があります。海外留学時にも抗体検査結果やワクチン接種記録が求められます。実習に参加できない事態を避けるため、定期健康診断等においてワクチン接種が必要とされた者は、必ずワクチン接種を済ませておいてください。またワクチン接種記録は速やかに健康管理センターに報告するとともに、医療機関に勤める際にも必要になりますので自己管理してください。

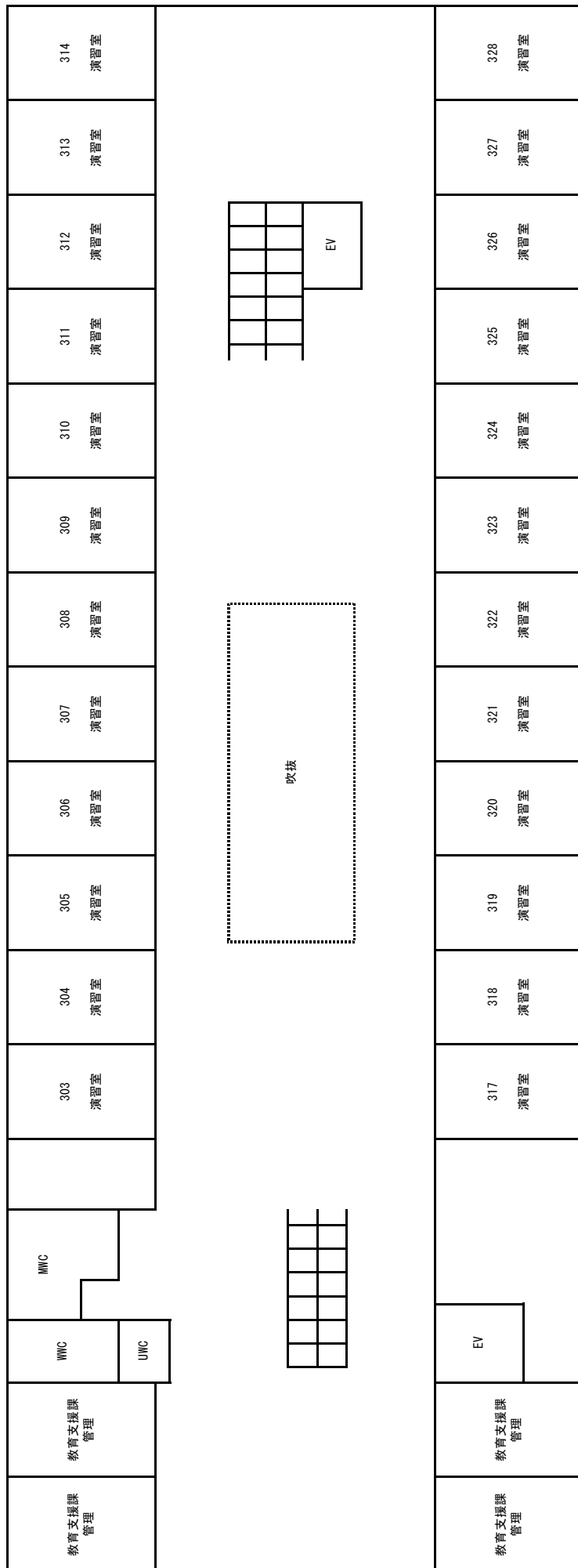
畝傍山キャンパス 講義棟 1階



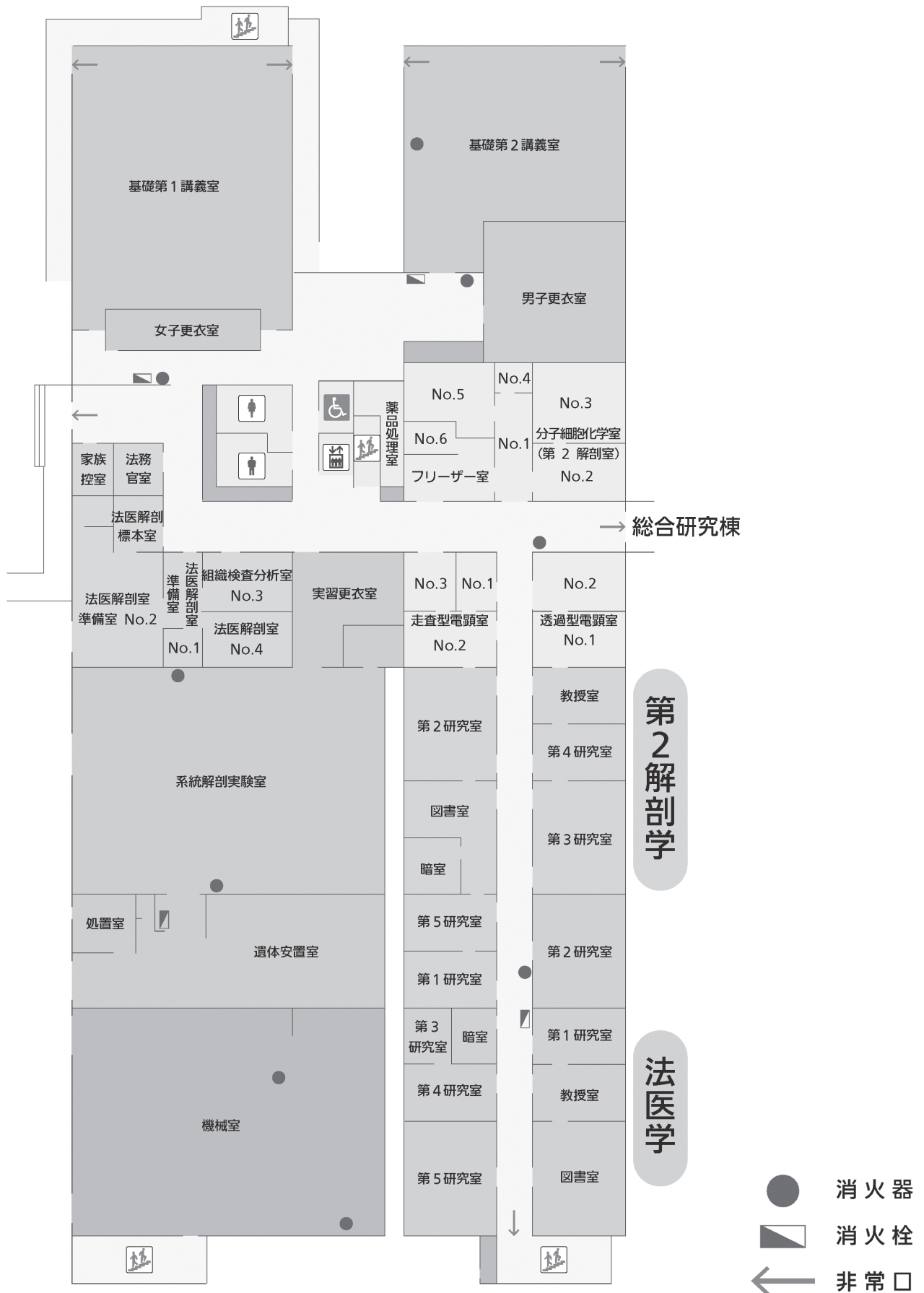
畝傍山キャンパス 講義棟 2階



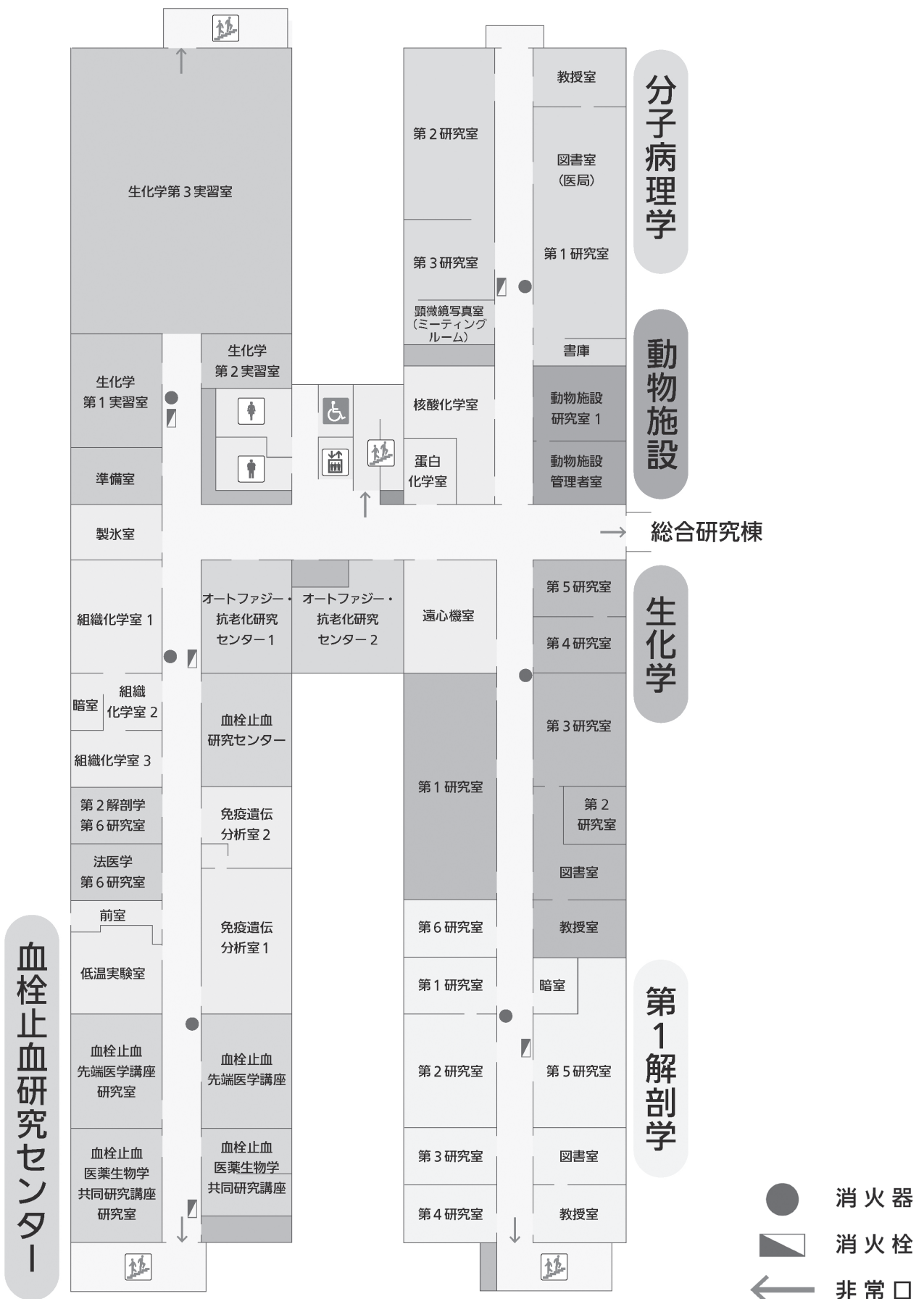
敵傍山キャンパス 講義棟 3階



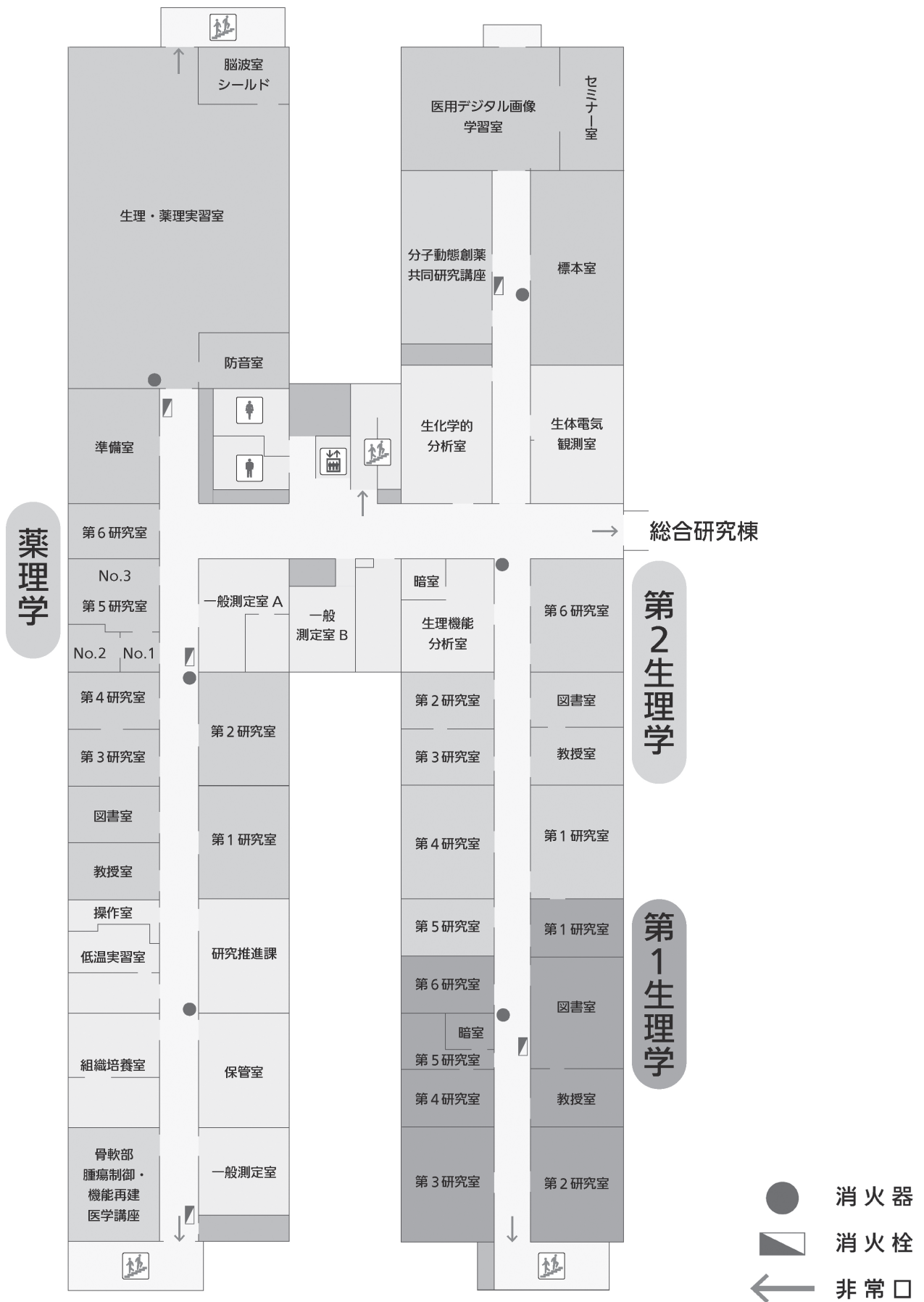
四条キャンパス 基礎医学棟 1階



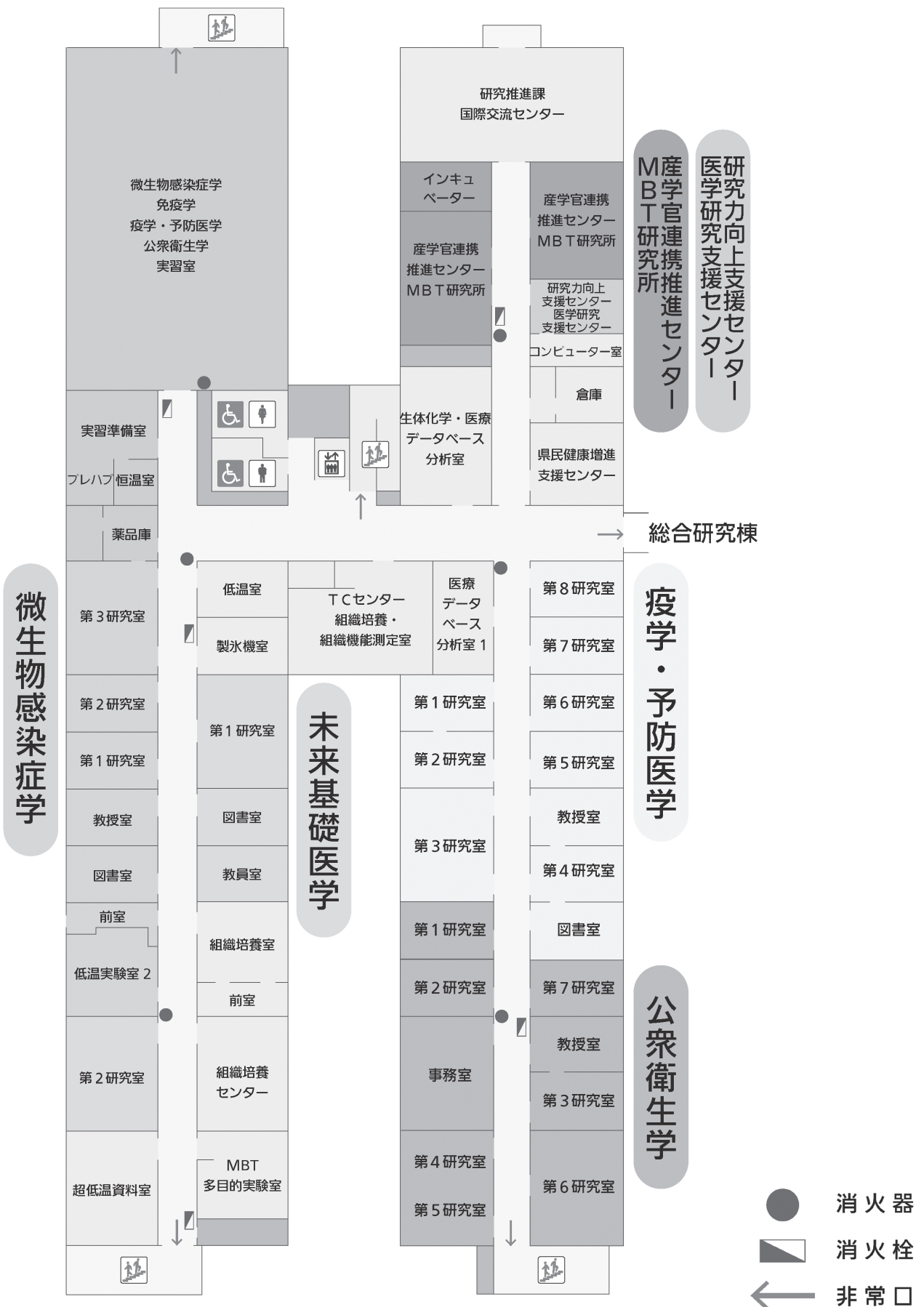
四条キャンパス 基礎医学棟 2階



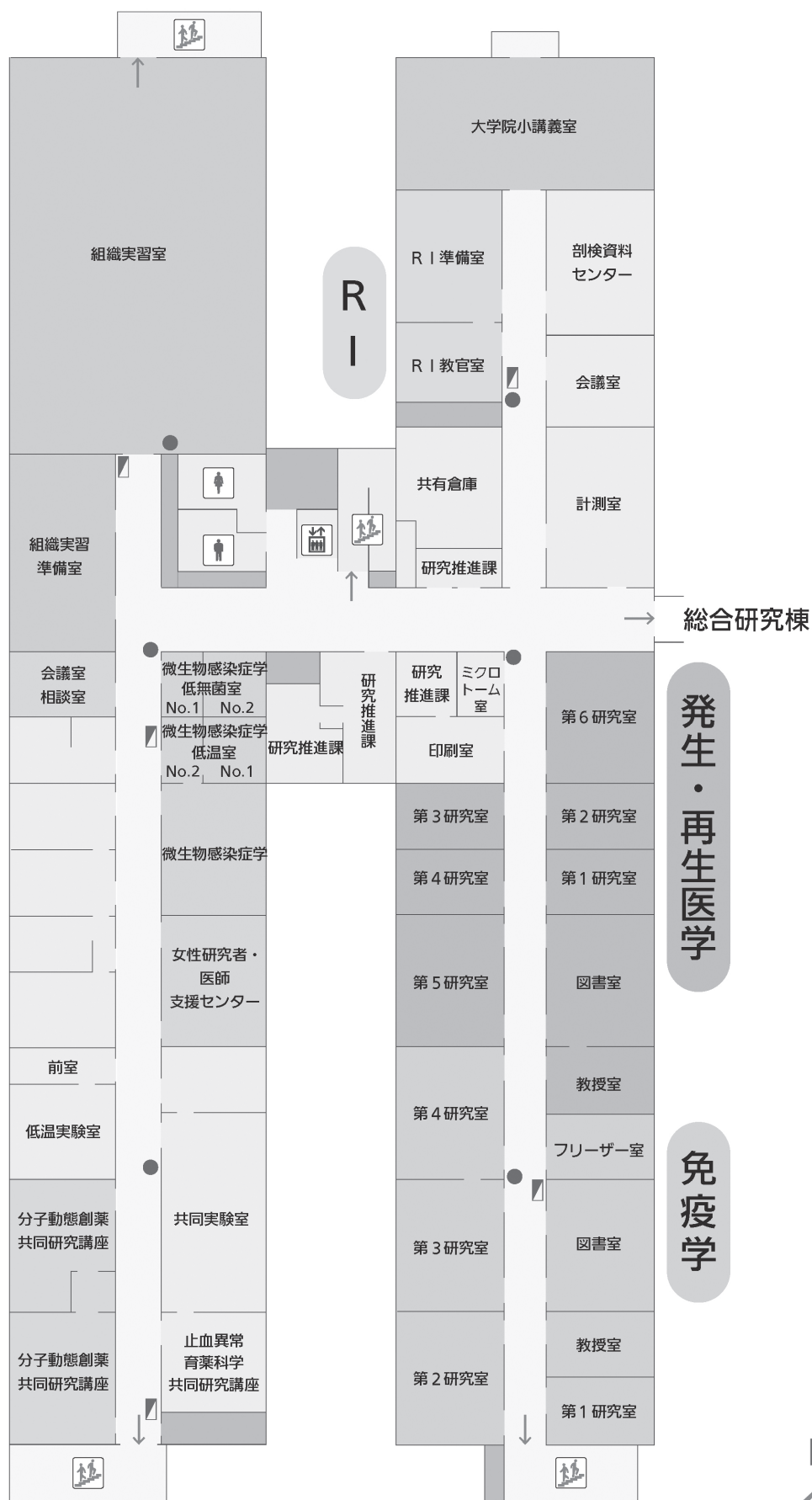
四条キャンパス 基礎医学棟 3階



四条キャンパス 基礎医学棟 4階

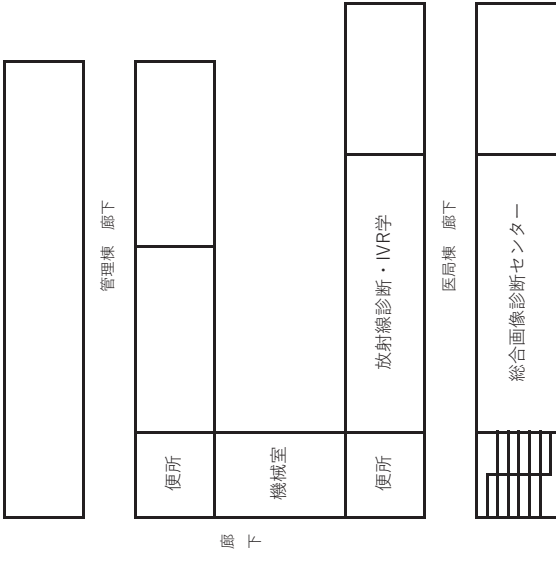


四条キャンパス 基礎医学棟 5階

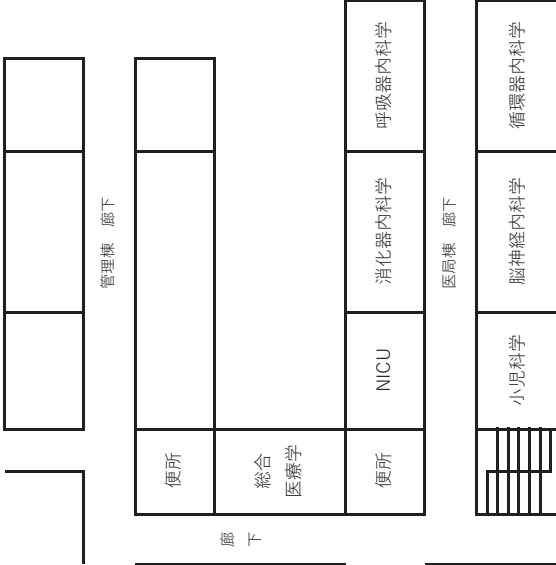


附属病院

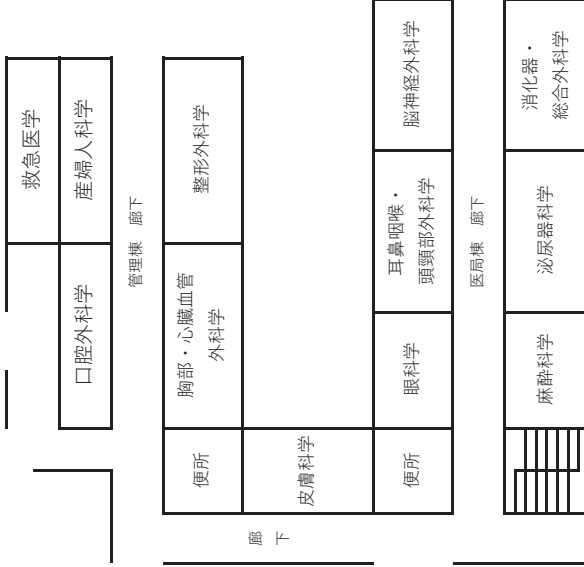
医局棟・管理棟 1階



医局棟・管理棟 2階



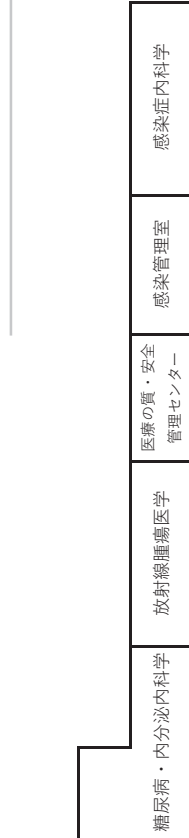
医局棟・管理棟 3階



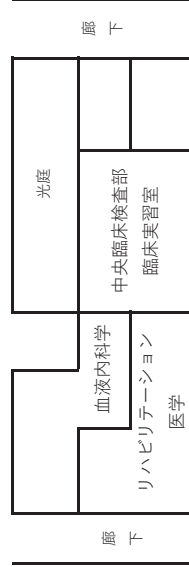
A棟 2階

腎臓内科学

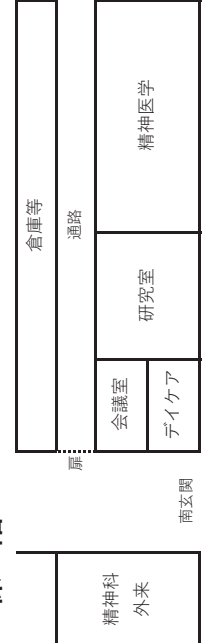
A棟 5階北



B棟 2階



D棟 1階



B・C棟 2階

がんゲノム・腫瘍医学

B・C棟 3階

病理診断学